カーライルのサルタ・レザルタス

更にカーライル、キングスレー、ラスキン、ウイルアム・モーリス、テニソン、ブラウユング、アーノルド等の新理想主義者に依つて完成せられたる、最も優秀なる國家である。彼れは過去の優秀なるものを最も用心深く徐々着々として敷衍し擴張して來た。彼れの性來の實利主義は玆に高遠な理想主義と合して、最も高尚深奥な英帝國は創建せられた。此の新理想主義は英國の創建と、デモクラシイの建造よりも、近代英國の歴史に最も顯著なる形相を與へて居るものである。文藝復興期の餘影を受けて、文明の羈絆を罵つて自然に歸れの聲は佛蘭西の一角に起るや、英國にはシエレーに依つて、其現在の社會より高き理想の自由の世界は眺められてあつた。現在社會の鐵鎖と暗愚は彼れの自由な詩情をして激忿せしめなげれば止まなかつた。而して英國はアダム・スミスの富國論となつて、經濟的自由は最も徹底的に主張せられた。之は英國に於て經濟的發展の素因を作つたものである。而して英國は過去の人爲的文明より、自然崇拜の新らしい眞理と美の世界に目覺めつゝあつた。ウォーヅォースの自然の宗教は發見の詩であつたが、シエレーの現在の世界に反抗する態度は革命の詩であつたのである。英國の新理想主義は彼のヒリステイニズムに依つて嘲罵せられた、彼のカーライルのサルタ・レザルタスに於て最も好く代表せられて居る。其の大體の趣意は吾々の見且つ觸るゝ此の現象界の事物は其秘せる幽玄深邃なる眞實を僅に默示し又は隱見する單なる或形骸に過ぎない。習慣、制度、政府、信條は其神秘なる靈的事實を表現すると否とによつて眞の價値がある、表現の世界は單なる其神の衣服に過ぎないと云ふのである。そこで人類の生活は其神秘なる靈的實在に達することに依つて、其完全を期することが出來る。それだから凡ての進歩は因襲や制度を破壞し創造する處にあらねばならない。吾々は彼等を造るか又は吾々の生活を混沌瞬昧の間に措くか何れかでなければならない。吾々は彼等を破壞するか、若くは生氣なき形骸を擁するか何れかでなければならない。一生涯通じて吾々の眞の活動は此眞實の世界に向つてゞある。それには形骸は形骸として、決して眞實と其の形裝とを混同してはならないと云ふのはカーライルのサルタ・レザルタスの大體の趣意なのである。是等の思想は英國の社會に最も偉大なる感化を與へたのである。要するに是等は現實の社會制度や習慣は其の永久の眞理、實在の一の幻影形骸に過ぎないのであるから、人類の目的は其の絶體の價値其眞實の生命を掴まへる迄其形骸を改造して行かなければならないと云ふ意味なのである。是等の新思想は英國の因襲や舊制度に對する一大威嚇であつたので、其現實的な實利的なアングロ・サクソンは此等の思想の漸く英國社會を風靡するに至り、其高遠な理想の下に其の reality と truth の追求に向つて進むで行つたのである。次ぎに之と同一の方面に於てラスキンとモーリスに依つて美の眞實性と勞働の眞意義は闡明せられて居る。カーライは眞の價値を制度や因襲に措かずに、其根本の生命體其の精神に發見した如く、ラスキンは美の價値を

ラスキンと社會運動

人性其生活の條件に於て認めた。而して彼は其美の條件を勞働其者、勞働の凡ての產物に於て之を取つて居つた。而して其美は善行に於ての人間の欣びと解釋する場合に、若し其働きは善でなく、勞働者は之に於て幸福を感じないものならば、それは一顧するの價値はない。美の追求は眞理の追求の如く永久無限である。藝術は階級の贅澤品でなく、凡ての人間の所有であると。

英國輓近の社會

(3)**英國輓近の社會**——英國の十九世紀は是等新精神の發現した時代で、デモクラシイの運動は最も旺盛に政治、經濟、藝術等あらゆる社會の識者に依つて唱道せられたのである。而して此運動は專制や階級よりの單なる國民の自由を目的とするのみでなく、在來の因襲と制度に對する無智、醜陋、虛僞、殘忍の封建的鐵鎖より救導して、眞實の世界、眞理と美の理想に向つての精神的靈的革命を意味するものであつたのである。而して之が過去の政治的鬪爭は現在の經濟的鬪爭に來た。經濟的自由は靈的自由に一致するのである。けれども精神の鎖は封建政治や專制政治の鎖を破ぶるよりも困難である。而して其の產業と政治的條件を新理想主義に向つて整理することは決して容易の業でない。けれども是等の解放は着々として英國の社會に向つて來て居るのである。それであるから英國の改造問題は決して戰後突發的に襲來したものでない。彼等には戰爭以前に於て既に舊社會に對する改造の要件は決定せられて居る。即ち因襲社會に對する理想主義の手强い反抗不信はそれなのである而して英國は靈的社會の理想化を目的とせる完全なる社會的自由に向つて努力したのである。英國の今後の改造の目標は社會主義を奉ずる英國勞働黨の政綱に於て充分說明せられて居る。社會の凡ての行動に對する民主的の支配、土地と資本を共有の下に措く國家の富の公平なる分配を期すること、其他ラスキンやロイド・ジョージ氏に依つて充分に說明せられて居るのである。英國は勞働組合の如きも殆んと完全に近い迄に今日發達して居るのであるから、若し彼等勞働者は此の以前行はれた如く、三角同盟の如き合同運動の方法に依つて總同盟罷工を以てブルジョアに對抗するならば、英國をして容易に危機に陷すことは出來る。此の三角同盟とは一九一年スカーボスローに於ける大英炭抗夫聯合會に端を發して居るもので、八十萬の組合員を有する抗夫聯合會と五十萬の組合員を有する運輸勞働者組合と四十五萬の組合員を有する鐵道勞働者全國組合とが、一九一五年に經濟上社會上の利權を主張する爲に一致の行動を執ることを誓約して結ばれたものである。彼等の主張するところは炭坑、鐵鑛、鐵道、運河の國有を要求するもので、其行動は明らかに經濟的より政治的に及ぼして居るので、革命的色彩を濃厚に湛へて居るものである。一九一六年第一回の總會決議の時、彼等はアスクイス氏やキチナー氏を訪問して、組合規約復舊、軍隊の復員等に容喙せるに見ても、奈何に彼等勞働者の團結を以て、英國の政治を脅嚇して居るかと云ふことは分かるのである。故に此の三角同盟は全く彼等の行動奈何に依つて容易く英

三角同盟

國をして轉覆せしむる底の或勢力を有するものであるから、今日英國の決して彼等を樂觀輕視を許さざるは謂ふ迄もないのである。是等より觀るも英國は今日最早完全にブルジョアに代るプロレタリアの武器は出來て居るので、此の外勞働黨の勢力も最近漸次優勢を示して居る。觀者の如く英國は今日全く危機に瀕して居ると云ふことは出來る。けれども、予は英國は獨逸とか露西亞の如く斷じて革命せらるゝが如き事はないと思惟しなければならない。何んとなればそれは過去の英國の歴史は證明して居る。英國は決して社會の進化と人類の進歩に逆ひ、不自然なる壓制拘束手段に訴へて、彼等の昂奮を招ぐ樣な拙劣な方法を執らないからである。國民多數の聰明と輿論に訴へて敢て時代に逆はず、自然の眞理を蔽はず、徐々と改造し實行して行くからである。英國人の偉大なるところは沈着にして大膽、而して彼の聰明と常識は恒に彼をして過まらざる方向に進ませつゝあると云ふことである。彼のデモクラシイは今日過去の長い間に於て成功したのであつて、決して突發的に捷ち得たものでない。彼の今日最も急迫した問題は彼の炭坑鑛夫の炭坑國有の要求や、勞働條件を目的として起れる彼等の同盟罷工よりも、愛蘭の獨立問題は最も今日重要な問題となつて、ロイド・ジョージ内閣をして頭痛苦悶の中に措くものである。元來英國はイングランドを中心として、アイルランド、スコットランド、ウエルスの四國を、同一君主の下に行政的に結合せる國家であつて、此の四國はウエストミンスターの議會に於て平等に行政的

愛蘭獨立問題

貴族院の權利削除の原因

英國の不安

責任と權利を持つて居るもので、且亦是等何れも獨立の自治權を持つて居らないのである。然るに此のアイルランドの獨立運動は今日新らしい問題でないので、嘗つてグラットストンに依つて愛蘭は愛蘭の多數の意思に依つて統治せざる可らずとの意見の下に、當時是等の自治法案は最も熱心に畫策せられ、一八八六年と一八九三年の二回に渡り彼に依つて提議せられたのであるが、それは議會の多數の反對に遭遇して其自治案は通過しなかつたのである。其後一九一二年に第三回自治法案は再びアスクイス氏に依つて提議せられ、下院を三回迄通過せるにも拘はらず、上院に於て三回共否決せられたのであるが、(之は後にロイド・ジョージ内閣に依つて貴族院權利の削除となつた)一九一四年該自治法案は戰爭中保留の姿を以て解決したのである。同じ愛蘭に於てもウルスターは元來英國の統治の下に在ることを希望して居るのであるから、此の自治法案には勿論反對を聲明して居るのであるが、シイン・フエン黨は戰後最も猛烈に愛蘭獨立運動を起して居るので、ロイド・ジョージ氏の自治法案は果して彼等の不平を緩和滿足せしむることは出來るや否や、英國は今日此の愛蘭問題と、之に相乘じた露西亞の過激派の侵入、其他社會主義、勞働運動の動ともすれば蜂起せんとする現狀にあるを以て、現在最も難局に居るものであつて、是等容易に逆睹すべからざるものがある。予は英國の社會を研究するに當つて茲に考へなければならないことは、我國は大體に於て英國に其政治的に於て範を取つて居る樣であるが、其政體に

於て同じ立憲君主國であるけれども、其内容精神信條に於て雲泥の差の在ることを覺知しなければならない。是等素より國狀や文明の程度に差がある爲めでもあるが、兎に角我國民の一般は未だ歐米の文明國より觀るならば、封建的迷信より未だ充分に啓蒙せられて居らないと謂はなければならない。

五　北米合衆國

殖民地の獨立

(1) **建國の歴史**……米國は素と是れ英國の植民地であつたが、一七六五年英國議會は印紙條令なるものを議決して、植民地に於ける新聞雜誌等の如き印刷物に對し、凡て課稅を決することになつたから、米國植民地は英本國の其壓制的擧措を大に憤慨し、當時植民地の代表者として英國に在りしフランクリンなどは、ウイリアム・ピットや其他の英國識者の同情の下に、其是非曲直を社會の輿論に訴へたので、遂に其議決せる印紙條令は廢止せられたのであるが、英國は更に復一七七〇年米國植民地に茶稅を課する制度を設けたので、それが再び米國をして激怒せしめ、是等が原因となつて、一七七五年米國の獨立戰爭は開始せられたのである。此の米國の獨立戰爭以前に自然の權利に就ては、佛蘭西のルソーや英國のブラックストン、ロックに依つて壯んに主張せられて居つたので、是等の主義は米國の指導者フランクリンやジエフハソンに依つて見出されて居つたので、それは神は人間を

平等に創造したと云ふ其精神に基いて、一七七六年六月二日には權利の宣言 (The Virginia Declaration of Rights) となつて現はれた。次に一七七六年七月四日には米國は當時十三州より成るヒルデルヒアの大會決議となつて米國獨立の宣言 (The Great Declaration of Independence) は世界に發表せられた。「吾々凡ての人間は造物者より生命、自由、幸福を追求する或讓渡されない權利を與へられて居る處の、凡ての人間は平等に造られてある自然的明白なる是等の眞理を保有して居る (We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creater with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty, aud the pursuit of Happiness.) 是等の獨立宣言はルソーやブラックストンの思想に基く人間の自然の權利の主張であつて、米國の政治法律の根本精神となつたものである。而して當時獨逸は哲學者や詩人に依つて愛國心は國内に漲つて國家主義に心醉して居つた時であるから、米國の此擧動には絶對に反對を聲明し、幾萬の獨逸兵は英軍に加擔して米國と戰つたのであるが、他方佛國はルソーやヴォルテールの思想に影響せられて、而かも自由平等の思想は漸く旺盛となつて、共和政治を理想として居つた時であるから、此處に米佛思想の相合致共鳴せるを知つて、佛國民は米軍に左袒して英國と戰つたのである。それがサラトガに英軍を破つて、佛米は此處に於て攻守同盟を結むだ。而してそれが第二回の戰爭は開始せられ、一七八一年ヨルクタウンの決戰と

なつて、米佛聯合軍は英軍を破つて、此處に英米戰爭は全く終結を告げたのである。そこで一七八三年ヴェルサイユ條約となつて、英國は米國十三州の獨立を承認することゝなつたのである。是れより太西洋沿岸の新獨立國は合衆國と稱して、十三州の聯邦議員は一七八七年ヒルデルヒアの會議に集り聯邦的憲法の制定となり、此の憲法に依つて米國十三州は完全なる結合の下に共和國となつて、一七八九年に平和、正義、自由を熱愛せるワシントンは合衆國の第一回大統領に選擧せられたので、此處に於て全く米國の國民政治は初めて組織せられたのである。

理想國家の創業

(2)**理想國家の創業**——以上は米國の大體の建國の歴史であるが、此の米國合衆國は素と是れ英國民中、封建的貴族的壓制政治を忌み嫌つた、自由國家を理想とせる國民の一部が此米國に植民移住したもので、彼等の理想は實に此の自由と平等にあつたのである。そこで彼等は從來經驗した其因襲的社會には懲りて居つたのであるから、封建的な權威とか束縛のない自由な理想の國家を建設するのは其計畫であつたのである。彼等の經驗した因襲的國家は貴族的な階級とか門閥とか種々の惡弊は社會に蟠つて居つて、人間本來の自由、個人の權利とか云ふものは妨げられて、社會に人格的機會の自由と云ふものは無かつたから、彼等の先覺者ルソーやミルトン、ロック、ブラックストン等の自由思想、神は人間を平等に造つた（God had created men equal）と云ふ思想に依つて彼等は動かされて居つたので

デモクラシイ

あるから、彼等の理想とする社會は是等の不自然なる階級的舊社會より、自由平等の社會を造るのは其理想目的であつた。そこで彼等の創業は先づ第一に國家的に又個人的に本來の自由を確保すると云ふことで、之が英本國の羈絆を脱して自由社會の建設であつて、自然の權利、個人の權利を確保する、人民の意思に據る國家は實に其目的であつたのである。そこで彼等は自由平等のデモクラシイを以て政治的信條とせる新國家の創設に努力した。彼等は封建的階級制度を打破して、因襲や形式に捉らはれざる人格と職業とを尊重する信條に向つて決心せられた。封建的權力關係に依つて決定せられたる職業の貴賤、男女の偏見、官尊民卑の弊の如き一切の封建的遺物思想は、此の米國の新國家に於て完全に打破せられ改造せられたのである。政治、社會、教育等悉く個人の權利を尊重するデモクラシイに依つて完全に組織せられたのである。故に彼等には舊國に觀るが如き階級的偏見や不平は其處に毫も存して居らない。上は大統領より下は勞働者に至るまで皆な自由を愛し各人の權利を尊重し、欣然として各自の職業を娛むで居るのである。而して米國の國是、彼等の誇る正義人道は其建國の父祖ワシントン、フランクリン、ジエフハソン等に依て充分敎へられてあつた。實に自由平等は大膽に彼等に依つて實行せられ、正義人道は彼等に依て最も好く理解せられ、デモクラシイは彼等に依て一層徹底的に世界に其模範を降したのである。而して彼等は常に偉大なる人物に依て統禦せられ指導せられて來たのである。

彼等米國民に選ばれたる大統領は何れも皆是等自由民、自由國家の指導者として充分なる、正義人道自由平等の民主的な卓絶せる人格の包有者であつた。常に眞實を語れと謂つて米國民に無窮の教訓を垂れた其米國建國の父祖である、第一回の大統領ワシントンを首めとして、宗教の自由、言論の自由、人間の自由を主張して獨立の宣言の基礎を造つたゼフハソンがあつた。最も徹底的民主々義と謂はれた民主黨の最初の首領であつたジャックソンがあつた。一冊の聖書のより持たぬ木商屋の一貧兒、勤勉力行遂に大統領と迄漕ぎ上げ、南北戰爭に於て奴隷を解放して人生の偉業を遂行し、ゲッテスブルクに於て凡ての人間は平等に造られてあつたと宣言して、人民に依つて人民の爲めの人民の政治を高唱して、米國政治の精神を明示せるは、實に彼の偉大なるアブラハム●リンコルンである。

米國の三大政策

第一自由

第二モンロー主義

第三平和

モンロー主義の晩秋

(3)米國の三大政策――米國は全く自覺せられたる新人の理想に依つて樹てられたる新國家であるから、古代封建的傳統思想に依つて支配されて居る他の國家とは、全く其政治上に於て信條を異にして居る。米國の政治には左の三種の政策は樹立せられて居る。

第一には米國の自由を保護安全にする爲めに歐羅巴の政治に干與してはならないと云ふので、これはワシントン大統領の告別の辭に現はれて居る。

第二には南北亞米利加は何れに於ても歐羅巴國民との衝突干渉を許容しない。又自由獨立の條件の下に占有せられたる米國大陸には奈何なる處にても、將來歐羅巴諸國の植民を許さないと云ふので、是等の政策は米國の自由、他國民の自由を保護するものであつて、一八二三年モンロー大統領はワシントン議會に送つた其教書中に現はれて居るのであつて、亞米利加の自由政府は歐羅巴の爲に侵されざること、又歐洲列國の干渉を許容せざることを聲明せるもので、之をモンロー主義（the Monroe Doctrine）と稱して居るのである。

第三にはワシントンに依つて聲明せられたるものであつて、凡て誠實、正義を以て他國民と平和を目的として、戰爭に依ることなくして仲裁々判の方法に依つて解決すること。

是等は米國の對外政策的根本基礎となつて居るもので他の世界と全く異なりたる信條の下に新國家を建設したる彼等は、其共和國の自由と平和を保護せしむる手段政策より來たるものである。彼のモンロー主義なるものも本來は南亞米利加を保護する友情の結果より起りたるものである。けれども、それは南亞米利加の微弱幼稚なる場合に於てのみ意義を有するものでない、此モンロー主義は全米大陸に於ける合衆國の政策を意味するものであるから、是等は少くとも其處に危險と不和を包有するものでなければならない。そこで今日は漸くモンロー主義の晩鐘を告げて居るので、此の改廢の一方法として合衆國は單り米國の自由の責任を負ふ代りに、凡の平和と獨立を保持する爲め他の亞米利加と協同の方策は取られ

つゝある。彼樣な協力はアルゼンチン、ブラジル、チリーの平和的協調に依つて現れし時に、合衆國と墨其西苛の間に行はれた最近の調停を以て之を窺知することは出來るのである。

資本主義的國家

(4)**社會黨の存立せざる理由**——米國は世界中最も資本主義的國家である。資本主義を完成せしむるに凡ての條件は備つて居る。土地は豐饒で貴金屬の產額實に世界無比である。天與の資源實に無限に備つて居る。而して本來自由を以て國家の主義として居る米國にては至る處に機會の自由は與へられて居る。從つて勤勉力行其宜しきを得ば、勞働者たりとも奈何なる人も大統領ともなり、一朝にして大富豪となることも此米國に於ては決して夢想妄想でない。舊文明の因襲と階級より去つて、自由の新天地を造るのは實に是れ米國人の理想であつた。然るに恁くの如き自由主義の國家に於て、米國には何故に社會主義は存在しないかと云ふことは最も疑問の一として措かれるのであるが、近代社會主義發生の原因は謂ふ迄もなく產業革命の結果であつて、資本主義的經濟は此處に貧富の懸隔の激甚と生治の壓迫を齎らした。是等主因となつて近代社會主義は發生したのであるが、然らば米國には果して此等の貧富の懸隔はないかと謂へば、決して之に答ふる事は出來ないけれども、米國には未だ是等の資本家の欲望を滿足せしむる迄に勞働者は充滿して居らないのみでなく、勞働者に對する勞賃も極めて高價である。而して勞働者たりと雖も其手腕力量だにあらば、容易に企業家になることも出來るのである。故に米國の貧富の懸隔は此點

何故に社會主義は發育しないか

に於て他國と趣きを異にせるを思はなければならない。若し彼等に日常の衣食住に窮するものありとせば、それは働くことを好まざる遊惰放浪の徒である。然るに米國には必ずしも社會主義なるものがない譯でもなかつた。前期大統領選擧當時には四十萬三千三百三十八票の投票數を有する社會黨(Socialist Party)と五萬票の投票數を有する社會勞働黨(Socialist labor party)があつた。故に米國には決して社會主義なるものない譯では無かつたけれども、是等は米國に於ては繁榮しなかつた。米國の勞働者は社會主義者とは密ならずと云ふのは、是等勞働者は決して社會主義者と共鳴を持つて居らなかつたからである。亞米利加勞働協會(American Federation of Labor)の如きは土地所有權廢止を明瞭に主張して居るけれども、是等の勞働者は米國の社會に對しての不平でなかつた。彼等は實に資本家と共に現在の境遇に滿足し、其生活に安慰を求め、米國の天地を欣ぶ頗る樂天的のものであつた。故に彼等には獨逸、露國、佛國、英國の如き資本家に對する憎怨反抗、社會的階級闘爭の如きものは存在しなかつた。而して彼等勞働者も、資本家も、官吏も、其處に何等の階級觀念なく、平等に一の心となり、米國の精神となつて、自國の優秀偉大なることを意識し、共に手を携へて此等國民は自由と平等を理想として、此の新天地の米國を謳歌し讃美した。故に階級意識なき國民の間に階級闘爭の起る理由がない。自由と平等を與へて居る處に其處に不平と不滿はない。若し彼等の中にて何か國家的に不滿が在るとすれ

ば、それは自國に對する不平と云ふよりも、社會進化の當然考へなければならない或者である。實に米國に社會主義の榮えざるは以上の大體の理由に依つて知ることが出來るのである。けれども予は將來米國にも此社會黨の起らざることを豫見することは出來ない、社會主義は各國の如く熾んではないけれども今日事實現存して居る。殊に最近 I.W.W. (Industrial Workers of the World)なるものは米國の社會に發生して居る。其既成制度を改造する主義に於て最もよく佛蘭西のサンヂカリズムに酷似して居る。彼等の主張は政治的國家を否認し、之を廢して産業的勞働組合の組織に依つて、新社會の組織を造る可しと主張するものである。而して其實行方法は政治的行動に依らず議會の力を借らずに、直接行動を以て其の目的を達せんとするものである。而して此の I. W. W. は最も激烈なる資本破壞黨なるは謂ふ迄もなく、其勢力從來其程恐る可きものでなかつたが、歐洲開戰以來此等の首領は大に其勢力の扶植に盡したので、其傳播力實に輕視する能はざる狀勢になつたのである。そこで米國政府は先年來極力之が撲滅に腐心し、勞働者等に對して嚴重なる檢擧を爲し、苟も同黨社員名の證跡ある者に對しては、一地方より他地方に追放し、モンタナの或鑛山の如きは一時に其從業中の勞働者中より千餘名の同社員を追放した爲に、其事業に甚大の影響を與へたと云ふこともある。兎に角、此の I. W. W. は最も極端なる破壞性を帶べるものであつて、今日漸く米國又は世界より注目されて居るものである。米國の A. F. L. はゴンバース氏の率ゆるもので、極めて穩健な勞働組合である。之は社會主義を排し、資本家と勞働條件を協定して、組合の力に依つて勞働者の經濟的福利を增進せしむるを目的とするものである。是等勿論既成社會制度に對する一の反抗に相違ない。けれども米國には未だ他の歐羅巴諸國の如く、着實な理論の上に正座して、優秀なる識者の指導に待つ社會民主黨の如きものはない。今日現存せる二大政黨即ち共和黨、民主黨に於て觀るも。其處に政治的主義上に於て儼然たる區別を立てることは出來ない。實に彼等は異名同體で是等は歷史的の區別に過ぎないのである。けれど若し强へて其政治主義に於て區別を立てるならば、共和黨は資本主義的傾向を多量に有するものであつて、保護貿易主義を固持し最近顯著に國家主義的色彩を帶びて居る、之に反して民主黨は概して進步主義であつて、自由貿易主義を奉じ、最近國際主義を主張して居るものである。世界は米國の政黨に對して一の謎として居るが、何故に米國の政黨は爾かく單純であるかと云ふ問ひに對しては、予は之に對して明瞭簡單に答へることは出來る。是れ米國の社會は單純にして其精神は一體であるからである。要するに政黨は社會の反影である。因襲なき階級なき社會に是等の改造を目標とする政黨のないことは決して怪むに足りない。故に米國は或意味に於ては不統一な國家である、けれども精神的心理的方面より觀るならば、最もよく統一され純化された國家であると謂はなければならない。

I. W. W. とは何か

A. F. L. 米國の二大政黨とは何か

米國と參戰の動機

米國は這般の歐洲戰爭に於て獨逸の非人道的無警告潛航艇の問題は痛く米國の正義人道を憤慨せしめ、デモクラシイの常備軍のない米國は忽ち武裝國家となり、百萬以上の援兵を西部戰線に送つて彼の强敵獨逸と戰つた。彼等の此の戰時の國家は協心協力の社會であつて男女老幼悉く已れを忘れて、女子は男子の職業に代つて自らハンドルを握り、老人も小供も其戰場の壯兵の爲に盡した。實に此の協力、愛國、友情の精神は、平素愛國心を以て我國の獨占物と見たる人をして驚歎させたのである、實に米國のデモクラシイには偉大なるものゝあることを知らなければならない。

第四章　我國體と國民性

一　國體に就て

國體と主權の問題

今日我國に於ける學者、往々國體に對して種々の論議解釋を試みて居るのであるが、即ち美濃部博士の統治權の主體を國家に在りとして、國家機關說を主張するに反し、上杉博士は國體と政體との區別を認め、國體を統治權の主體の區別とし、政體を統治權行使の作用の區別として居る。又清水博士は國體は國家內部の組織に於て、統治權が何人に屬するかの問題であつて、國家機關の問題でないと論じて居る。或は國體と政體との區別を明らかに認むると共に、統治權の總攬者が一人なるか、數人なるか又は國民全體なるかに因つて、之を君主國、貴族、民主國と云ふ風に三國體を認めて居る學者もある、ボーダンは國體と政體とを區別し、主權の所在に因つて政體を君主、貴族、民主の三に分け、政權の所在に因つて政體を君主、貴族、民主の三に區別して居るのである。故に君主國體にして貴族政體なるもの在り、民主國體にして貴族政體なるものは在ることゝなる。又アリストートルは主權者が一人なる場合には之を君主政治、數人である場合には貴族政治、國民全體である場合に、之を民主政治であると稱して居るのである。

民主國と君主國

是等要するに主權の所在奈何の問題であつて、而して之に據つて國體を定めやうとするものであるが、其主權の所在は君主に在るとするも、又國家に在るとするも、或は國民に在るとするも、予の此處に謂はむとする國體に就いては毫も支障を生ずるものではないが、若し現在の世界の政治の態容を觀るに、唯だ抽象的に慢然と國體上より之を君主國と民主國とに區別し、政體上より專制政體と立憲政體とに區別することは出來るかも知れないけれども、現在民主々義によつて行つて居る英國の如き君主國、其他此の戰前の白耳義、希臘王國の如き、「一切の權力は人民より出つると云ふ憲法を有する」此等の國家に對して、果して國體上に於て君主國と民主國との區別を立てることは合理であらうか。君主專制主

我が國體

義の國家の存在して居つた時代に於ては、國民全體を主權とせる民主々義の國家に對して、國體上より之を君主國と民主國とに截然と區別することは出來るかも知れないけれども、近代の國家の如く神意說の漸く權威を失墜して、民主々義に移り、其極めて復雜なる統治組織を有する最近の國家に於ては、君主國にして其政治の實質は全く民主國と何等異なる處のない國家に對して、唯だ其國家は君主を戴くと否なとによつて國家を慢然君主國と民主國とに區別するが如きは、果して正當の論理であると云ふことは出來やうか、我國家の如きも國體より云ふならば、君主國であるけれども、而かも政治に於ては民本主義の國家であると謂はなければならない。

偖て我國は憲法第一條に大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治すとある如く、二千五百年以前より君民の別儼然として備はり、此間毫も侵す處なく、歷代仁君ましまして民を本とせる仁政を施かれたと云ふことは、我歷史の炳手として昭らかなるところであつて、維れ諸外國の如く君主を他國より之を招ぎ、又は往々暴君現はれて虐政を施したが如きとは素より同日の論ではない、此等我國體の世界に卓絕して居る所以で、君民の分義到底他國に類例なきところである。我國家存立の基礎は國家をして、同一血統と同一祖先より來たる一大家族であつて　天皇をして此の日本と云ふ一大家族の元首家長として覩る處に或意義を持つて居る、而して神武天皇の建國以來明治維新に封建政府は崩壞して、德川幕府の大政奉還となる迄、此間に於て族制政治とか、武門封建政治とか云ふ樣なものが起つて、實際政府の實權を握つて居つたのであるけれども、天皇の大權は恒に朝廷に儼然として備つて居つて他より決して侵されて居らなかつたと云ふことは確に我國の大なる誇りである。大化の改新は一千餘年に渡る族制政治の積弊を一掃せるものであつて、天皇の大權の發動に據る政治に其面目を一新したのである、而して其後藤原氏の攝政となり、二百餘年の間は全く藤原氏一族に依つて政權は握られて居つたのである。けれども此時でさへ天皇の御名代によつて大權を行つたに過ぎなかつた。其後の政府の實權は全く武門に歸し、源賴朝の鎌倉に幕府を開いたを初めとして、北條氏、足利氏、織田氏、豐臣氏を經て、三百年の太平を開いた德川氏の江戸幕府を開きし迄、凡そ七百年の間は全く政治の實權は此等幕府にあつたのであるけれども、國家の大權は依然として、天皇に在つて、國家の大事は是れ必ず勅許を待つのは其例であつた。是れ神武天皇以來一貫して渝らざる我國體であつて、常に天皇は國家の總攬者となつて、時に天皇と國民の間に介在して暴政又は越權を行つた者もないではなかつたけれども、彼樣なものは決して永續することは出來なかつたので、其の皇室を冒瀆する樣なことはなかつたのである、而して大化の改新に次いで國家の一大改革は明治維新に於て行はれた。即德川幕府の大政奉還となつて、我建國の趣旨に基き四海平等の精神を體現して、茲に王政復古は遂行せられたのである。而して明治元年三月には

五箇條の御誓文

五箇條の御誓文御發布となり、廣く會議を興し、萬機公論に決すべし。上下心を一にして盛に經綸を行ふべし。官武一途庶民に至る迄各其の志を遂げ人心をして倦まざらしめん事を要す。舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし。知識を世界に求め大に皇基を振起すべし。と維れ實に我帝國憲法の前驅であつて、我國の國是を定められたものである、而して明治二年には版籍奉還となつて、從來藩主の領有した土地人民を此時に於て朝廷に奉還したのである。次いで明治四年には廢藩置縣となり、今日の地方自治制度の前驅を爲した、明治八年には元老院の設置となり、明治七年には民選議院設立の建議が起り、それが國會開設論となり、進むで明治二十二年帝國憲法の發布となり、明治二十三年には實に此の帝國議會の開設迄となつたのである、而して我國は明治維新の改革と共に舊弊を打破し、因襲を去つて國家の文物制度を廣く世界に求め大に皇基を發揚したので、實に之が今日の如き世界に誇る隆昌なる國家に到らしめた最大原因なのである。

二　國家統一の根據

個人主義と家族主義

ブルックハールトは世界主義は個人主義の最高階級であると謂つて居るが、實際個人主義的の人ほど世界主義の精神を有つて居るものである、故に日本人の家族主義よりも歐米人の個人主義の方は最も世界主義に接近して居るのである、日本人の概して團結的なるに反し、歐米人には比較的人類同胞主義者は多いので、人種、民族、國家と云ふ樣なことには割合に無頓着である、故に彼等は國境を越えて異人種と交り。移住することを何んとも思つて居らないのである。殊に自ら神の選民を以て任じて居る猶太民族の如きは最も世界主義者の好典型でなければならない。彼等は殆んど國家とか民族とか云ふ觀念を持つて居らない唯だ水草を追ふて、已れの宿す木蔭を見出せば、其處に生命を宿して永住すると云ふのは猶太民族の特性なのである。最も近頃民族主義勃興の時勢に驅られて、ロスチャイルド初めとして猶太國民主義の運動などは起つて居る。猶太人たるキリストの宣傳した宗教なども最も世界主義の宗教なのである。であるから此キリスト教を奉仕する歐米人の自然世界主義的になるのは決して不思議でないのかも知れない。兎に角彼等歐米人は國境を越えて世界の處々に散住して居ると云ふことは珍らしくない事實である。我國民なども近時人口の增加は漸く生存競爭の激甚を來し、或は米國とか或は朝鮮、臺灣の植民地とかに移住する者漸く多くなつたのであるけれども、歐米人より觀れば我國民は概して家族的團欒を愛する引込主義、國土主義であることは疑ひはない、亞米利加合衆國などには三十種內外の異民族は混住して居る。又露西亞には古有の露國民の外に。波蘭人、リスアニア人、芬蘭人、チュルコ、タルタールス人、カルムクス人、猶太人、獨逸人、羅馬尼人、アルメニア人高加索人等の多數の異民族は露西亞國土內に雜居して居るのである。此等諸種の民族は一緒

猶太人の性格

大陸人の世界主義的傾向

混血と世界主義

になつて、同一國家内に働いて居るのであるから、我國家の如き同一民族と同一血統を一團とせる家族的の國家より觀れば、意外の感は起らない譯でもない。最も這回の戰爭で民族の蜂起によつて知る如く、彼等とて決して民族精神とか民族的結合はないと云ふ譯ではないけれども、彼等歐米人は我國民より觀る時は、個人主義的であると同時に世界主義的であると云ふことは斷言するに難くない事實である。亞米利加の排日派は動ともすれば其排日の理由を我邦人の同化し難きことを以てせる、或は其處に多少の眞理があるかも知れない。兎に角我國民は歐米人より見て國家的結合力の強いと云ふ事は、最早や疑ふ餘地のない事實であつて、此には幾多の原因根據を持つて居るのである。予は今此を二大方面より觀察しなければならない。其一は傳統的觀念であつて、他は地理的に關係して居ると云ふことは出來るのである。

傳統思想

然らば其の傳統的觀念とは何を指して云ふかと謂はゞ、我國民は同一祖先と同一血統を有して居ると云ふ確信と、萬世一系の國體を有すると云ふことに歸着するのである。血は水より濃しと云ふ諺があるが、此の同族同血と云ふ觀念は、最も國民を親密にし結合せしむるに力あるものである、我國家は同一血統を有する家族の延長した大家族と同一視するのであるから、其家族の中に在る國民は一家族の父母兄弟と變りのないことになる。其處に我國民の團結力は本能的に或は自覺的に起つて來るのである。故に此等は歐米人の世界

統一の主因

忠君愛國

を國家として或はホームとして己れの欲する處に移住して毫も憚らない、其個人主義的世界主義的人類同胞主義的なるに反し、我國民は他國に移住しても、矢張り家族的、團結的國家的になるのである、之と同時に國民を統一結合するに最も索引力あるものは、國民の常に渇仰して止まない、萬世一系の皇室を頂くと云ふことである。諸外國の國王とか君主は權勢の結果であるが、我國の如く遠い神代より君主の一統より發して萬古に渡りて渝らないと云ふ國家は、全く世界の何處にも其類ないのである。此等は自然我國民に忠君愛國と云ふ精神を特に培養して來た主因なのである。此忠君愛國は全く我國の特有の產物の如く世人は思つて居たのであるが、それが這回の歐洲戰爭で亞米利加、英吉利、佛蘭西此等の國民の戰爭に對する愛國的活動振りを見て、忠君愛國は決して我國のみの特有のものでないと思つた人達は澤山あるやうだが、それは餘りに皮想な觀察ではないかと吾々は思惟する。何となれば此等は其心理狀態に於て根本的に異なつて居るからである、我國の忠君愛國と云ふのは、皇統連綿とせる其萬世一系の皇室に對して、又は我國家と云ふ同血同族の一大家族に於ける家長としての君主に對する所謂忠君であつて、其愛國と云ふのは此の同血の一大家族の奉仕であると解さなければならないのである。然るに歐米人即ち佛蘭西人や亞米利加人の愛國心と云ふのは全く個人主義より來りたる愛國心で、決して日本人の如く家族又は團體奉仕とは意味を異にして居ると思はなければならない。予は此う云ふ意味

に於て彼等の愛國心を解したいのである。故に彼等の愛國心は正義と自覺と云ふ理想より出發して居るけれども、我國の愛國心は感情、又は信仰より出發して居る。此頃亞米利加の排日問題で、在米邦人の不同化を理由として、邦人の教科書に在る忠孝とか、楠公のことに就いて難詰して居るのである、我國民の忠孝とか愛國とか云ふことは、彼等の如く人主義的な世界主義的國民には却々理解し難きものであると謂はなければならない。兎も角此等は全く國民性の相違より來るものと吾々は惟ふのである。

地理的關係

次ぎに我國民の結合力の強いと云ふ點を、地理的關係より觀なければならないと云ふことは、我國は四面海に圍まれたる島國であつて、容易に他國より侵さるゝと云ふこともなく又大陸の如く國家と國家は接續して居らない爲め、國民古有の傳統とか慣習を守ると云ふことに於て最も便利があつたからで、即ち世界の風潮に浸染すると云ふことは割合に少なかつたからである。此等が國民を或る同一信仰の下に結合せしむる上に最も有力な原因の一であると謂はなければならない。之と最う一は領土の狹小なる結果である。支那とか露西亞の如き廣漠たる領土を有する國家は國民の其信仰、傳統、慣習、言語と云ふ樣なものは其地方によつて異なつて居るのであるから、却々彼等を統一結合せしむると云ふことは極めて困難であるけれども、我國の如く狹隘なる領域を有する國家では、國民が接近する機會は多く、殊に言語とか習慣は大抵單純同一であるから、此等國民を國家的に統一すると云ふことは非常に便利である。之と同時に陸地に棲む人よりも、海上に棲む人は一層親密になると云ふ眞理の如く、我國の如き島國に於ては、何時何奈なる强敵に襲はるゝも分らないと云ふ一種の地理的本能より一致團結の力を强くすると云ふことも强ち想像し得られないことでもない。兎に角我國は歐洲國家の如く雜種民より成つて居らないと云ふ、即ち單一民族より成つて居ると云ふこと、萬世一系の皇室を有して居ると云ふこと、比較的狹小なる島國に居住して居ると云ふことは、要するに我國民を同一傳統の下に結合せしむるに最も偉大なる力を持つて居ると云ふことは一點の疑ひのないところである。

忠孝

武士道

三　武士道

忠孝と云ふことは我民族精神の內容を爲して居る如く、忠と孝と云ふ事を分離しては考へることは出來ない。即ち家族主義の延長は我が國家主義となるのであるから、家族の家長に對する孝の延長は、自然國家に於ける主君に對して忠となり、義となり、節となるのである。故に此忠孝と云ふことは全く不分離一體の精神と謂ふことは出來るのである。此の忠孝と云ふ事は我國の民族精神を表現せるものであつて、家族主義、民族主義の當然の結果として、君臣、主從、親子の關係は生じ、而して此間に儼然たる階級區別は立てられて居るのである。此の我國の武士道と稱するものも要するに此の忠孝の流れを汲むだ民族精

神の一表現に過ぎないのである、忠勇、義俠、奉公、犧牲、誠節、廉恥の如き是等皆其武士道の精神の内容でなければならない。發しては萬朶の櫻と爲り、凝ては百錬の鐵と爲る是れ當時の武士の面目を表明せるものにあらずして何であらう。赤穗浪士は藩主淺野内匠頭の仇敵を討たんとして、大石義雄を初めとして、己を捨て、妻子を捨て、諸處を流浪し、苦辛慘憺の結果主人の宿怨を雪ぐや、浪士一族手に手を取つて此世の名殘を切腹に止どめたるが如き、此等は全く我國武士道の其精神の極致を發揮したものと謂はなければならない。彼樣に武士たるもの、執る可き道と云ふのは、死を睹ること鴻毛の輕きに比し、義を睹ること泰山の重きに置くと云ふ樣に、身を犧牲に供しても、義には奉じなければならないと云ふ心は、即ち武士の武士たる道であり精神であつた。而して此等武士は極めて名譽と廉恥心を重んじて居つた。故に彼等は主君の爲とか、或は自分の名折れとなる場合には潔よく死を決して之を償つたのである。當時の武士と割腹は實に彼等の清淨、純潔、道義を現はすものでなければならない。此等全く我國特有のものであつて、個人主義的な歐米人の到底理解し難き精神であると謂はなければならない。此の武士道の精神は明治維新以後歐米思想の輸入に伴れて、漸く我社會より頽廢して居る傾向はあるけれども、其一變體として未だ我社會に殘つて居るのは、彼等個人主義的な歐米人よりも、割合に死と云ふことに就て重大視さないと云ふ現象を見られない譯でもない。そこで予は此の武士道の起源と云

武士道の人格的方面

武士と平民

ふ事に就て考へて見たい。勿論此の武士道の精神は我國古有の民族的精神たる忠孝に基礎を置くことは前に述べた通りであるが、之と同時に我國は彼の頼朝が鎌倉に幕府を開いて以來、國家は全く此等武士の掌握に歸したのであるから、武士萬能主義は當時の總ての社會に現はれて居つた。而して武士は社會の上位を占めて、奈何に他の國民の羨望尊敬の的となつて居つたかは、我國の七百年の封建時代の社會を通して觀られ得る事柄である。此等從つて此士族階級には彼等農商工に從事する國民より、一層高い生活は營まれて居つたので、即ち道德とか人格とか云ふものは此等階級に依つてのみよく觀られて居たのである。此等自然武士階級には百姓町人と異なれる特種の信仰と精神の鍛錬があつたので、予は此等の發道せるものを稱して武士道と解さなければならないのである、故に此の武士道なるものは最もよく我民族精神を代表せるもので、其道德の觀念と正義の觀念の最も高潮に達した一の表現と云ふことは出來るのである。此の封建時代に於ては武士は一面に社會の治安平定の任に當ると同時に、他面に政權を握つて居つたのであるから、武士萬能主義は其當時の社會に現はれて居つたので、武士は國民崇敬の的となると共に、此等武士の跋扈跳梁も決して一通りでなかつたことも知らなければならない。全く此の武士と平民とは恰かも歐羅巴諸國に見る樣な貴族と平民の對立の如く。二つの相容れない階級を作つて居つたのであるが、平民は武士に對しては絶體の服從奴隷であつたことは、古代の希臘と羅馬に於て

見るよりも、平民には自由と云ふものはなかつた。故に平民はタトヒそれは無理であつても武士の命令に對しては、絶對に屈從するより他になかつたのである。此の武士萬能主義は決して此時代にのみ在るのでない、明治維新後になつても、又大正の時代となつても、依然として我國家には武士萬能主義が顯はれて居る。是れ維新前の因襲は現在依然として我國家に殘つて居るもので、當時の武士政治は今日は軍國偏重政治となつて居ると、見做さなければならないのである。

武士と進化

兎に角此武士道なるものは全く我國家の特有の產であつて、諸外國には全く見らないものであつた。英國には紳士道と云ふものがあつて、我國の武士道と近似せるものであると云ふ人もあるけれども、社會に於ける道德的觀念は同一であるかも知れないが、此武士道は矢張り封建時代の產物であつて、當時の我武士を考へずには想像することは出來ないのである。勿論此の武士道たる其根本精神は今日封建時代を去つて、現代の如き國民主義の時代に進むで來ても、決して消滅したものと云ふことは出來ないが、奉公とか犧牲とか云ふ精神は矢張り封建時代の武士の精神であると共に、現代の我國家を支配して居る精神であることは疑はない。けれども環境や時代に依つて生じたる精神なり思想は、永久不變的な眞理を包有するものではない。即ち其奈何なる時代、奈何なる社會にも遍通する合理的なものであると云ふことは出來ないのである。故に予は其武士道なるものは今日の時代に於

詩歌音樂に現はれたる國民性

我國民性の發達

ころが此方便敎による布敎方法は、最も多く國民をして迷信的に陷入らしむる危險を持つて居るのである。我國民は歐米人より觀るならば極めて迷信的な國民である。これが即科學的な歐羅巴人より、多量に宗敎的氣分を有すると云ふ譯でもあらうが、兎に角此佛敎は多數の人を其眞理の堂奧に入らしめたと云ふよりも、未だに我國民の大部分をして迷信の間に彷徨させて居ると云ふことを以て大過なき觀察であると惟ふのである。

音樂とか詩歌とか云ふものは、全く國民性を表示して居るものであるが、日本や支那の如き東洋の音樂とか詩歌とか云ふものは、西洋の音樂とか詩歌に較べて見ると、極めて悲哀的な又は沈憂な調子のものは多いのである。三味線とか、尺八とか、胡弓とか、笙の如き物を見ても、ピアノとか、オルガンとか、ヴハイオリン、セローなどに較べて見ると頗る悲哀な厭世的な調子を多量に備へて居るのである。歐米人を科學的思索的であるとすれば、確かに東洋人は直感的、宗敎的である。彼をして個人的であるとすれば、我は家族的集合的臭味を脫しないのである。故に西洋人は飽迄自己自我を本位として居るに反し、東洋人は他意的宿命的になるのである。即自信自力と云ふよりも依賴他力となるのである。而して我國民性は從來の民族的自覺と、此佛敎の外に儒敎に依つて大成せられて居るのであるが、此我國體の觀念と、儒敎の道德敎は全く我國民性を作る上に、其團體意識を鞏固にした處に最も偉大なる力があつたのである。又此の東洋的階級意識より來る從順と

見るよりも、平民には自由と云ふものはなかつた。故に平民はタトヒそれは無理であつても武士の命令に對しては、絶對に屈從するより他になかつたのである。此の武士萬能主義は決して此時代にのみ在るのでない、明治維新後になつても、又大正の時代となつても、依然として我國家には武士萬能主義が顯はれて居る。是れ維新前の因襲は現在依然として我國家に殘つて居るもので、當時の武士政治は今日は軍國偏重政治となつて居ると、見做さなければならないのである。

兎に角此武士道なるものは全く我國家の特有の產であつて、諸外國には全く見らないものであつた。英國には紳士道と云ふものがあつて、我國の武士道と近似せるものであると云ふ人もあるけれども、社會に於ける道德的觀念は同一であるかも知れないが、此武士道は矢張り封建時代の產物であつて、當時の我武士を考へずには想像することは出來ないのである。勿論此の武士道たる其根本精神は今日封建時代を去つて、現代の如き國民主義の時代に進むで來ても、決して消滅したものと云ふことは出來ないが、奉公とか犧牲とか云ふ精神は矢張り封建時代の武士の精神であると共に、現代の我國家を支配して居る精神であることは疑はない。けれども環境や時代に依つて生じたる精神なり思想は、永久不變的な眞理を包有するものではない。即ち其奈何なる時代、奈何なる社會にも遍通する合理的なものであると云ふことは出來ないのである。故に予は其武士道なるものは今日の時代に於

欠

ころが此方便教による布教方法は、最も多く國民をして迷信的に陷入らしむる危險を持つて居るのである。我國民は歐米人より觀るならば極めて迷信的な國民である。これが即科學的な歐羅巴人より、多量に宗教的氣分を有すると云ふ譯でもあらうが、兎に角此佛教は多數の人を其眞理の堂奥に入らしめたと云ふよりも、未だに我國民の大部分をして迷信の間に彷徨させて居ると云ふことを以て大過なき觀察であると惟ふのである。

音樂とか詩歌とか云ふものは、全く國民性を表示して居るものであるが、日本や支那の如き東洋の音樂とか詩歌とか云ふものは、西洋の音樂とか詩歌に較べて見ると、極めて悲哀的な又は沈憂な調子のものは多いのである。三味線とか、尺八とか、胡弓とか、笙の如き物を見ても、ピアノとか、オルガンとか、ヴハイオリン、セローなどに較べて見ると頗る悲哀な厭世的な調子を多量に備へて居るのである。歐米人を科學的思索的であるとすれば、確かに東洋人は直感的、宗教的である。彼をして個人的であるとすれば、我は家族的集合的臭味を脱しないのである。故に西洋人は他迄自己自我を本位として居るに反し、東洋人は他意的宿命的になるのである。即自信自力と云ふよりも依頼他力となるのである。而して我國民性は從來の民族的自覺と、此佛教の外に儒教に依つて大成せられて居るのであるが、此我國體の觀念と、儒教の道德教は全く我國民性を作る上に、其團體意識を鞏固にした處に最も偉大なる力があつたのである。又此の東洋的階級意識より來る從順と

欠

國民性

云ふ事は家族制度を爲す最も主なる要素であるが、此精神を養ふに彼の儒教は最も大なる功があつたのである。彼の歐米の如く個人を以て社會組織の根本觀念とせる個人主義、自由主義の國家より觀れば、到底東洋の如き沒我的家族制は一日も保たれて居られる理由はない。是れ我國民性の從順なる結果より來て居るのであつて、家族とか、國家とか、云ふ團體に對する國民的意識觀念は、自覺とか理念とかに據るよりも、寧ろ一種の信仰とか、感情とかに依つて犧牲奉公となつて現はれて居ると云ふのは至當である。實に右に述べた如く我國民性は、大和民族と云ふ固有の精神を基として、佛教、儒教に依つて大成せられたるものではあるが、此の國民性たるものは果して永久固定的のものであるかといはゞ、予は此處に大なる疑問としなければならないのである。何んとなれば我古有の國民性は佛教、儒教等の外來輸入の思想に依つて發達成就せられ、又明治維新前と後とに於て我國民思想に幾多の動搖せるを目擊しなければならない事實はあるからである。明治維新以後の國民思想は、此の我國古有の大和民族の精神と、佛教と、儒教の外に此の歐米の新思想によつて、更に第二の國民性は大成されなければならないものであると予は思惟せざるを得ないのである。古人曰ふあり、習慣は第二の天性なりと、至言と謂ふ可きである。

第五章　東西文化內容の根本的解決

歐米文明と希臘思想

個人主義と家族主義

若し此處に歐洲の歷史を繙いて見るに、彼斯の極めて東洋的な臭味を有せるに反し、古代の希臘の文明は最も個性的に自覺したヘレネス獨特の文化を、此の希臘半島に開いて居つたのであるが、中世の歐洲の天地は全く迷信と征服の跋扈した時代である。それが近世になりルネッサンスとなつて、希臘文化の復活となつた。此等中世期の暗黑時代に權威を振つて居つた法王權は漸く其威力を失ふやうになつて、ダンテ、ペトラルカ、ボッカチオ等に依つて壯んに唱道せられた、自由と自然を尊重する希臘文藝の復興であつた。近世から近代に掛けての歐洲文明の根本精神は、實に此天才的なヘレネスの文化を考へずに想像することが出來ない。中世期の神祕的な迷信的な雰圍氣は宗教改革と、文藝復興とに依つて一掃せられたのであるが、其後の歐洲の文明は何處に在るかと謂はゞ、個性と自我に目覺めた新文明であつたと謂ふ事が出來る。それが十八九世紀に至つて科學の發明となり、實に今日の如き世界の文明を齎したのである。然らば今日歐洲の文明は實に其端緒を希臘に索めなければならないので、希臘文明の敷衍發展と觀ることが出來るのである。此の希臘文明の特色は奈う云ふ處に在つたかと謂へば、ソクラテスの謂つた如く、「己れ自身を知れ」と云ふ處に始まつて居る。自主を尊び、自由を重じた彼のヘレネスの國民性は、其文

化の基礎を實に此の個性の自由なる發展と、自我の充實に措いたと云ふことが出來るのである。故に此の希臘思想の流れを汲むで大成した歐米の文明は、實に此の自由平等の思想に依る個人主義の上に立脚して居るもので、之に反し東洋の文明は、同血同族を觀念する家族主義の上に立脚して居ると云ふことが出來るのである。故に東西文明の根本的解決は要するに此等兩文明の根本的基礎觀念たる個人主義と家族主義の究明に依つて、其目的を果すことが出來るのである。然らば此の個人主義の內容は奈何なるものであるかと謂はゞ、予は自主自立自治を觀念する自由意思の尊重、個性の充實發展、個人を完全なる獨立せる人格者として觀る處のものであらねばならない。

個人主義の指導者と其觀念

此の個人主義の思想は最も遠き過去に淵源して居るもので、彼の希臘ソフイスト派の主觀主義、主我主義に其精神を覓むることが出來る。プロタゴラスは近世個人主義の先驅であつた。其後天賦人權の主張者ルソーに現はれ、ニイチエの本能至上主義となつた。又英國の功利主義、自由主義者スペンサー、ミル、シヂウイック等皆此の個人主義者であつたのである。彼等は皆個人の發達、個人の自由意思を尊重し主張したのである。

而して家族主義の內容はと謂はゞ、予は犧牲、奉仕と云ふものに依つて之を見出さなければならない。即個人主義者は個人を以て一個の完全なる人格者と爲せるに反し、家族主義は家族と云ふ團體を以て一個の完全なる獨立體と爲せるものである。故に個人主義は自

家族主義の內的觀察

東西文明の差異

主自發的なるに反し、家族主義は犧牲奉仕の精神なくしては觀念することは出來ないのである。實に東西文明の根本的相違は此處に基點を發して居るので、社會國家生活も要するに此精神に基くものであると謂はなければならない。西洋の文明は實に個性の抑壓、沒我、又は超我に在るのである。彼は國家生活を爲すに個人を單位とすれども、我は個人を復合したる家族を以て單位とするものである。彼は個人の完全なる發達を期するけれども、我は個人の集合したる家族の完成を期すると云ふことになる。即ち彼は密にして我は淡、彼は飽迄分解的科學的なるに反し、我は綜合的宗教的將た空漠的である。而して彼は人類を個人の延長とし、國家を個人の國家としての概念を作るけれども、我は家族の延長を國家とし、國家の爲に個人を有すると云ふことになるのである。故に此當然の結果として、彼は分散的世界的なるに反し、我は集合的團體的である。即彼は個人主義、世界主義、人類主義となるのであるが、我は家族主義、民族主義、國家主義となるのである。即ち此等彼我の社會生活に於ける根本觀念の相違は、結局此個人主義と家族主義とに歸すると云ふことになるのである。此個人主義は一面人格主義なるが故に、個人を以て一個の完全なる獨立の主體として觀る處に其信念と自覺を持つて居るのであるから、各個人は銘々人格を尊重する處に意義を持つて居るのである。プロタゴラスの「人は萬物の尺度なり」とせる、又ソクラテスの萬物悉く辨證の

能力を有するとして、時にペリクル王と談じ、時に街路に彷徨せる靴工と談つたが如き、此等個人主義の端緒を開いたものと謂はなければならない。プラトーなども人間の能力には或差別を認めて居つた。即賢哲に對して衆愚の名を呼むで居るのであるが、其反面に彼は大なる婦人の同情者であつて、亦奈何なる人も修養によつて哲人になり得ることを謂つて居る。ヴォルテールも社會は赤心を吐露すべき價値なき人間を以て蠢動して居ると謂つて、獨處、森林に其友を索めて居ること、何んぞ單り陶淵明や屈原のみの獨占でない。けれども彼はモンテスキューやルソー等と共に、十八世紀に於ける啓蒙思想家で、自由平等思想の鼓吹者であつたことを知らなければならない。小兒が老人に命令し、愚物が賢人を指導する不都合を罵つて、時の政府に一矢を酬いたルソーの人類に於ける偉大なる發見に就いて、獨逸の大哲カントはニウトンに較べて激賞して居る。兎に角此個人主義的自由平等思想は紀元前四五百年頃に根ざし、彼のヴキッテンベルヒに於けるルーテルの宗教改革を先驅として、十六世紀頃より次第に旺んになり、ホッブスやロックに依つて唱道せられ、十八世紀に至つてはモンテスキュー、ヴォルテール、ルソー等の啓蒙思想家に依つて、一層自由平等の觀念を濃厚に國民の頭腦に刻むだので、專制思想は漸く其信條を失ひ、彼のルイ十六世を最後に、ロックやモンテスキューの三權分立說やホッブスやルソーの社會契約說は、漸く世界の國家の信條となつて、神權政治や專制政治は漸く其權威を失つて、或

西洋文明は個人主義の上に立脚して居る

者は共和制となり、或者は立憲制となつたのである。其後スペンサーやミル等に依つて益々是等の自由思想は唱道せられたので、實に十八世紀以後の國家は、專制主義より民主々義へ、貴族より庶民へ、階級より平等への運動に過ぎなかつた。

此等は實に西洋の根本思想であつたので、今日此歐米の個人主義は社會主義に移りつゝあるが、此の自由平等の思想は嚴密なる意味に於ては必ずしも一致するものでないけれども、西洋の所謂個人主義と云ふ方面より觀るならば同一根據より出發して居るものであつて、東洋の如き家族主義とは全然區別しなければならないものである。而して此の自由平等の觀念は「人格の完成」と云ふ事にあれば、此當然の結果として社會は門戸開放、機會均等に依つて、各個人の自由なる發達を助くると云ふことになる。若し此を東洋的階級意識の社會に於て觀るならば、或は門閥、或は藩閥、或は地方閥、或は官僚閥、或は財閥、或は學閥等種々の階級閥に依つて、個人の自由なる才能は妨げられ、機會の自由と門戸開放は實に此等階級意識に依つてのみ提供せられて居るのである。而して個人主義に立脚せる觀念は、個人の自由なる發達、人格の完成と云ふことに在るので、其信條は國家社會に現はれては、個人の尊重となり自由權利となる。即政治上社會上に於ける個人の權利は確立せられるのである。故に其國家觀社會觀は民約說に據る國民全體を主權とせる民主政治に於て、其個人主義は徹底すると謂はなければならない。實に民主國に於ては個人の契約

家族主義の內容

とも見做す可き其社會は、其機關たる政府よりも重要なる地位を占めて居るのである。ウイルソン氏の彼の政治學にも政治は社會に奉仕すべきものであると謂つて居る。而して政府は政府夫れ自身に於て目的あるものでなく、唯一の手段であり方便である。國家は社會の爲に存在するものであつて、社會は國家の爲に存在するものでないと、故に民主々義の國家は人民の爲に存在することは理解するけれども、國家にも國家本來の理想なり目的なりがあると云ふ說には從ふ事は出來ないのである。

我國と文化の端緒

次ぎに予は家族主義に就て考へて見るに、實に我國家社會は此家族主義を根據として考へるにあらずんば、其眞蹟を究明することは出來ない。實に我家族制度なるものは我國家の縮圖と稱し得べきものであつて、階級的觀念は既に此處に於て萌芽して居る。而して其內容は犧牲奉仕の精神に統一せられたる一個の完全なる國家の一要素と考へる處に我家族主義なるものは其存在の意義を持つて居る。實に我國の文明は初め支那印度に學ぶ處極めて多いので、今少しく之を我歷史上に於て觀るならば、應神天皇の時には儒敎なるもの傳來し、其後欽明天皇の朝に於て百濟王聖明は佛敎、經論等を献じて以來、此儒敎と佛敎は大に我朝野に歡迎せられ、我國の文化に資したことは、今此處に喋々する迄もないことである。此儒敎と云ふのは勿論孔孟を中心としたる儒學を總稱するものであつて、孔子の仁、孟子の仁義禮智信、其他忠と謂ひ、孝と謂ひ、皆是れ儒者の主張する處のものである。主

儒敎と其精神

朱子學と陽明學

中江藤樹と陽明學

に此儒敎の目的とする處は治國平天下の君主道德であると同時に、五刑、五常、五倫、三德の如く、此等は西洋の如く自然に對する眞理の究明と云ふよりも、感情の上に立ちたる社會道德を主眼とせるものに過ぎないのである。實に我國は王政維新即德川幕末迄は、全く此儒敎佛敎又は神道に依つて表現せられたる國家社會であつた。此儒敎の道德敎は全く日本や支那の家族制度を養ふには、最も偉大なる功を奏して居つたのであるが、自然に對する積極的眞理の究明や理智に基く個人の內的自覺と云ふ方面に於ては餘り効力はなかつた。朱子學は我德川幕府時代の敎育主義になつて居つたのであるが、之と其主義を異にして居る陽明學は、當時に於ては寧ろ排斥せられて居つたのである。中江藤樹は最初朱子を奉じたのであるが、陽明の門人王龍溪の「語錄」を讀むで、禮儀の末節に拘泥する朱子の弊を見て、飜然として王陽明に從つたのである。藤樹は凡ての眞理を自己の內在に需めて居つた。彼は人は小體の天にして、天は大體の人と稱し、即佛敎の梵天即世界の本體にして、又同時に個人の精神なりと同一の觀察をして居るのである。而して彼は人類は同根より出づるものであつて、四海皆兄弟なりとして、彼の人類觀は平等無差別觀を立て、實に世界の偉人釋迦、基督、孔子、子夏と其觀を一にして居るのである。由是觀此、朱子よりも陽明は近代の思想に適應して居るものと謂はなければならない。

惟ふに我國の從來の敎育は藤樹の朱子學の弊を指摘した如く、積極的自發的個性の開發

東洋道德の標本

と云ふよりも、形式的な禮儀と云ふ方面に重きを置いた傾向があるので、此は今尙我社會にあらゆる方面に虛禮となつて殘つて居る證據なのである。故に國家社會は人間の本心本性に基く眞の表現にあらずして、虛僞虛飾を以て蔽はなければならないことになる。東洋の道德は犧牲奉仕の上に立つた家族道德であるから、西洋の個性道德よりも一層危險な或脆弱性を持つて居る。西洋の道德は個性とか人格の上に立つて居るのであるから、社會との交渉に於て決して矛盾撞着を生ずるものでないが、東洋の道德は沒我的非個性的な上に立つて居るのであるから、實際それは社會との交渉に於て、其處に幾多の矛盾と不滿足が起るのである。西洋人は往々にして東洋の道德を陰險視するのは何んであるか、是れ東洋道德の或缺陷より來るものと謂はなければならない。「怒りを顏に現はさず」とか、「武士は食はずも高楊子」「長者の顏を見てはいかぬ」とか、此等は西洋の個人主義的な個性道德より觀るならば、甚だ陰險な瘠我慢な、堪へられないものでなければならない。此等全く其出發點を異にして居るからである。赤子の如き心を以て最も神に近きものとするならば、東洋人よりも歐米人の方却つて之に近きものである。兎に角西洋は何事も個人本位として社會生活國家生活を爲すのであるが、東洋は家族本位より出發して居るので、犧牲奉仕を以て其道德の主眼としなければならないので、此等より考へるならば階級政治は最適當して居るので、專制政治を以て其徹底したるものと觀なければならないのであるが、勿論此等は

歐洲戰爭の齎した教訓

忠君愛國の思想の相違

到底行はれ得べきものでないことは謂ふ迄もないのである。

「忠君愛國」は是れ我國特有のものゝ如く思つて居つたのであるが、這回行はれた世界戰爭は幾多の眞理を我々に提供したのである。而して世界中最も民主政治の徹底した米國が這回の戰爭に於て最もよく愛國の精神を發揮したのである。男子も女子も學生も勞働者も一致協力して全國家を擧げて此戰爭に從事したと云ふことは、實に他國に觀られない現象であると謂はなければならない。佛蘭西とか、英吉利の如き直接關係のある處にては、危機存亡の場合擧國一致の行動も決して異とするに足らないかも知れないけれども、此戰爭に最も間接の利害を有する米國の這回の參戰行動は、實に吾々に新らしい愛國心と、義俠心とを知らしめたものでなくてはならない。實に民主國家に於ける愛國心と我國に於ける如き愛國心とは、其處に其精神と信條を異にして居るのである。我國の「忠君愛國」は君主を以て神意の傳達者と見、國家を以て伊弉諾、伊弉冉の造り給ひし神國とする處に妙を得て居るので、故に我國の「忠君愛國」は犧牲奉仕の上に立つたる理性にあらずして、感情であり、信仰であり、宗敎であると謂はなければならない。之に反し歐米の民主國に於ての愛國心は、國家は人民の爲めに存在して居るものと觀念するのであるから、人民なくして國家在る可き筈はない。故に國家の危機存亡は實に是れ國民の危機存亡であるが故に國民全體を基礎とせる國家に奉仕する所以は、結局國民全體即自分等に奉仕すると謂ふこ

祖先崇拜の思想

とを觀念するので、此處に彼等の「忠君愛國」を考へなければならないことになるのである。故に彼等の「忠君愛國」の精神は理性的哲學的であると謂はなければならない。彼等には決して「忠君愛國」の精神はないのではない、唯だ其信條觀念を異にして居るに過ぎないのである。次に我家族制度に於て親子の間に當然起らなければならない「孝道」も決して我國民性特有の產と斷言することは出來ない。唯それは家族主義と個人主義とに據つて起る事象と謂はなければならないのである。祖先崇拜の精神は最も多量に宗教的信仰を含むで居るのであるから、歐米の如き個人主義的科學的哲學的な國民性よりも、最もよく我國の如き家族主義や民族國家に於て培養せられ徹底するものであると謂はなければならない。然しながら此「祖先崇拜」の精神も決して我國にのみの特有のものでないことを考へなければならない。佛蘭西のジャンダークを敬慕するのも、亞米利加のワシントンを憧憬するのも、今日亦米國の傳統を重んじてモンロー主義を稱へるのも、亦英國は自國の祖先の功勞者を永遠に其子孫に傳へんが爲めに建てられたる、彼の英國の世界に誇るウエストミンスターの銅像は何を語つて居るのであるか、是等皆な英國人の祖先に對する熱烈なる崇拜を表象せるものにあらずして何んであらう。故に此等は皆其國民の信念によつて、其精神の表現を異にせるものであつて、個人主義者と家族主義者の其正義の觀念に於て甚だ異なる處があるからである。個人主義者は先づ個人として人類としての正義を主張するけれ

個人主義者と家族主義者の正義に對する見解の相違

文明と人格主義

ども、家族主義者は團體として、國家としての其正義を先づ主張することになるのである。故に人類としての公平なる正義は家族主義よりも個人主義に於て完うすることは出來るので、個人の責任觀念も此個人的人格主義に依つて一層發揮せられるのである。家族主義は個人主義より觀るならば、偏愛的に陷入り易い素質を以て居るので、之は個人主義の友愛同胞となるに反し、血族的集團的となるのである。此等我民族の他國に移入して比較的他民族と同化し難き處であるかも知れない。然しながら世界の大國民となるものは、宜しく民族主義であると同時に、人類同胞の精神に基く世界主義としての襟度を持つて居らなければならない。兎に角此個人主義と家族主義には何れにも多少の長所短所を有するものであるが、實際社會的に之を觀る時は個人主義よりも家族主義に於て其弊害は甚しいのである。個人主義には一面に個人の自由な發展を期することは出來るけれども、他面に男女同權、子女の自由戀愛をも許さなければならないことになる。而して家族主義は犧牲奉仕を其精神としなければならないのであるから、比較的一家團欒たる家族の和合を觀ることは出來るかも知れないけれども、沒我的宿命的な缺點は蔽ふことは出來ないのである。然れども文明の進步は益々統一と分散に進み、個人の解放と人格主義に進みつゝある現象は、之を觀過することは出來ないのである。古代希臘アテネ人の自家の獨創の文明を優秀偉大なりとして自信し、世界に誇つて居つたものは何かと謂へば、個人的、人格的、人間的な

希臘藝術の特色

東西文明と藝術觀

自覺の上に築いた文明であつたからである。波斯や東洋の國家は神秘的な宿命的な處に在つたけれども、ヘレネスは自然力に對する人間の偉大性を認めて居つた。近代の歐羅巴の科學文明否な世界の文明は、實に此の偉大なる古代のアテネの獨創的文化に其端を發して居ることを覺知しなければならない。東洋の繪畫や音樂は自然的な宿命的な憧れに其妙技を發揮して居るけれども、希臘藝術は完全な人間性の眞實な表現であつた。彼等の美の要素は彼のミローの彫刻に現はれて居る如く、人間の完全なる發達、其眞善美は人間性の眞實の發露表現である。故に彼等の獨創的天性、個人的性格、其自覺的國民には、封建的な壓制とか權力には堪へられぬ苦痛であつた。それであるから彼等は自由を愛する、平等を欲求する、政治的自由、デモクラシイを主張する國民であつたのである。西洋の近代の文明は實に此希臘文明を擴張したもので、彼等の藝術や其繪畫は我國の畫帖に看る樣な花鳥や又は抽象的な風景畫よりも、一層人間的な自覺的な眞善美の表現描寫の苦心にあつた。東洋の音樂は自然的な宿命的な情調に其趣味性を發揮して居る、けれども、西洋の音樂は人間性の自由な表情、其本能的、人格的表現である。專制主義や家族主義は古代中世を通して又は一般東洋的國家に觀る如く、人間を宿命的、沒我的にした。けれども、ルネッサンスになつて、「我」の自覺となり、個性の覺醒となつた。神秘的な神話や、古事記は事實として、理性として價値を有するものでない。唯だ宗教として、道德として、傳統として

人間の自覺

科學の發達

のみ意義を有するものである。人間としての自覺は東洋でなく希臘に西洋に始つた。けれども今や我國民は個人的に自覺をして來た。凡ての不合理因襲より離れて、人間的自覺、人間美の價値に目覺めて來た。宿命的な弱き者も此處に一轉して自覺的に其眞善美に向つて進まなければならない。國家は專制的封建的より醒めた如く、今は家族主義より個人の自覺に這入る秋である。而して家族的にも社會的にも國家的にも、因襲的階級思想より離れて、人格主義に進まなければならないのではないか。

二　科學文明と精神文明

先年印度の詩聖タゴール氏は我國に來朝し、西洋の科學文明に對して、東洋の精神文明を謳歌したのであるが、果して西洋の科學に對して、東洋に特種の精神ありとするならば、其れは何を指して云ふのであるか。さて歐羅巴の文藝復興と宗教改革に依つて促されたる自由思想と自由研究は、從來の因襲思想と宿命的迷信より脫がれて、新らしい發見を宇宙と社會に探さなければならなくなつた。これが十六世紀以後の歐羅巴をして全く科學の時代と爲したのである。卽コペルニクスの地動說を初めとして、モーア、ロベルト等に依つてエネルギーの不滅說が唱へられ、クラウヂウス、マクスエル等に依つては分子說となり、ラマルクやダーウキンに依つては生物進化論となつて現はれ、スペンサーに依つては宇宙

進化論まで唱へられるやうになつた。而して十八世紀後ワットの蒸氣の發明となり、スチブソンの汽車となり、モールスの電信となり、エヂソンやマルコニー等の無線電信の發見となつたのである。此等自然科學の勃興は、全く古代中世期に於て想像もつかない事物は發見せられ、宇宙の秘法は此科學の前に闡明せられなければならない勢に進むで來た。而して此自然科學の進歩發達に對し宗教、哲學の如き其他精神科學の方面は權衡駢進して行くことが出來なかつた。實に從來此宗教哲學の範圍に在つたものは、此科學の爲に凌駕されなければならない樣になつて來た。實に此科學は從來宇宙の神秘や奇蹟、傳說に對して一大鐵鎚を加へなければならなかつた。而して此科學は自然の征服に向つて進み、宗教、哲學、傳統、道德の如きは、全く其權威の下に降伏しなければならない勢を呈したので、之が即科學萬能となつて、十九世紀の歐洲の天地に現はれたのである。故に此時代の歐羅巴は全く科學崇拜の時代で、空漠たる神秘や奇蹟に浸る眞理の闡明には滿足は出來なかつたのである。其後此科學は全く世界の等しく崇拜する處となり、今日の世界の文明は單に歐羅巴のみでなく、此科學文明に依つて成就せられて居るものであると謂はなければならないのである。

科學萬能

然らば此西洋の科學文明に對して、我東洋の精神文明とは奈何なるものであるか、予をして之を謂はしむれば、我東洋の文明の內容は此佛敎と儒敎とに依つて表現せられたる文明を指して云ふのであると惟ふのである。若し此を我國に於て觀るならば儒佛神に依つて表現せられたる道德文明を指して謂ふのであると惟ふのである。東洋文明の特色は全く西洋の科學文明に對して精神文明と稱することは出來なるかも知れないが、其精神文明は何かと謂はゞ、此宗敎と道德以外に索むることは出來ないのである。釋迦牟尼佛の敎理には森遠なる眞理が秘そむで居るに相違ない、けれども此眞理を闡明し得る者果して幾人かある。若し予は彼のタゴール氏の謂ふ如く、特種の文明があるとするならば、彼等の理知生活に對して、感情の上に立ちたる道德生活（宿命的）を指さなければならないことになる。尤も此處には到底西洋人の想像の出來ない「人情美」の在ることは疑ひないのである。我國は明治維新以前迄は全く此神、儒、佛に依つて表現せられたる國家社會であつて、神話的な傳說や宗敎的迷信は殆んど國民思想を支配して居つたのであるが、それが維新の革新となつて、漸く世界に智識を需むる樣になり、西洋の科學の輸入となつて、今日の我國の文明は出來たのであるが、其文明の內容はといはゞ東洋文明と西洋文明を融合せるものであつて、而かもそれは漸次西洋文明化しつゝある現象を觀取しなければならないのである。若し人類の文明なるものは同一目標に向つて進むで行くものであるとするならば、我國の文明は未だ西洋の文明より一世紀も後れて居ると見做さなければならない。何んぞ獨り科學のみを謂ふのではない、道德の方面に於ても同樣なのである。家族的に於ては或は

東洋の精神文明

道德の秩序は維持せられて居るかも知れない、けれども個人的に社會的に之を觀る場合には奈何であるか、其社交の拙劣なる、其公德心の缺乏せる迚ても謂ふに忍びざるものがある。我國民の大なる缺點は私情私慾であつて、公德、公慾に缺けて居ると謂はなければならない。是れ家族制度より來る弊害であつて、社會に對する個人の觀念の甚だ乏しい缺點より來て居るものである。而して亦公共的慈善事業に於ても到底彼等に及ばないのである。彼等の慈善行爲は最も高い處に目的が置かれて居るのである。即ち人類の爲めには國境なく人種なく、或は精神方面より或は物質方面より貢献して居るのである。カーネギにせよ、ロックフエラーにせよ奈何に莫大な資金を各國の教育事業や公共事業に投じて居るかは公知の事實となつて居る。兎に我國家の末だ此等に於て彼等と並行又は凌駕するに至らない迄は、獨り我文化を誇り、國民の優秀を語つて、宇頂點になり居る譯には行かないのである。

第六章　改造と我社會

一　言論の自由

(1)保守主義と進歩主義

時々刻々時代は推移しつゝある。社會は進化しつゝある。ヴオルテールは年齢に無頓着な人は愚かであると冷笑したが、此の時代の推移や社會の進歩を知らぬ人は更に愚かであると予は惟ふ。ダーヴヰンは生物進化の理法を立て、スペンサーは更に進むで社會進化の法則を哲學的に定めた。兎に角人間は不斷に進歩發展して居る如く、社會も不斷に進歩發展して居る。今より五千年以前ナイルの河畔に文化を築いたエジプト人の自然力を崇拜した時代より、紀元前五六百年頃のギリシヤ、ローマの特有の新文化を開いてから、近世期に入つて文藝復興となり、次いで宗教改革となり、封建思想のフランスは革命せられ、更に時代は進むて、科學の創設となり、産業の革命となり、封建主義の國家は倒れたが、之に入れ代つて資本主義の國家は生まれた。而して世は個人主義、民主主義、帝國主義の國家となつた。是等過去の思想、國家はやがて這回歐洲の野で一大戰禍を見るに至つたのである。而して之が九百十萬の人命を犧牲とし、二千九百四十億の戰費を空費した。有史以來空前の而かも地球總上げの大戰爭をしたのである。そこで戰後は是等災禍を産むだ過去の國家思想より、一轉して新國家思想に移らなければならなくなつた。實に舊世界を改造しなければならなくなつたのである。人類はいくら働いても、奈何んな文明を造つても、這回の戰爭のやうに破壞せられては、折角の骨折は何んの約にも立たないことになる。之は最初より人間の考へは過まつて居つた。過まつて居ればこそ此う云ふ破滅に陷入つたのである。そこで國民は今其の過去の過まりより考へ直さなければな

戰後の世界

人類の不斷の進歩

らないと云ふところに進むで居る。唯だ單にそれは世界のみでない。此の世界に在る凡ての人類の生活とか信條を更新しなければならなくなつた。即ち人類の國家生活個人の信條まで更へなければならなくなつた。それが戰後の世界は期せずして、國家永遠の平和を確立する爲めに、國際聯盟は提唱せられ、タトヒ、それは亞米利加の共和黨の無批准に災せられて、現在骨拔きの姿となつては居るけれども、其の主唱者は元々米國であるから、彼の共和黨ウイルソン氏の主唱した國際聯盟には反對の意思を表明して居るけれども、彼等たりとて正義人道を重んじ、永遠の平和を熱望する國民であることは同一である。故に現に新大統領ハーディング氏も國際聯盟には亞米利加のモンロー主義の立場から不賛成ではある、けれども、吾々は平和を目的とする國際平和會議を確立しなければならないと謂ふて居る。今日世界中一國として此の人類の平和に對して異議を挿挾むものゝないことは勿論である。而して一方國家内に於ても貴族主義や資本主義に對して、デモクラシイは實に世界に共鳴せる國家の信條となつて來た。更に進むで封建思想を受け繼いだ、個人主義、資本主義萬能の弊に懲りて、新社會の創造に世界の機運は向ひつゝある。ギリシヤ、ローマの文明は藝術、哲學、宗教に其特色があつたとすれば、實に現代の文明はそれよりも更に一層復雜な要素を内容とせる文明となつてゐる。少くとも是等に科學は加つて居る。歴史は擴つて居る。二三千年前に人間の想像もつかなかつた幾多の事物は今日發見されて居

思想と時代

る。それが即ち文明は進歩し、國民は進歩しつゝあるので、要するに人類、社會は進化して居るのである。是れ人類の限りなき創造性、不斷の進歩を意味するものでなければならない。然るに此の過去の時代より更に一段進歩し變化しつゝある場合に、社會は依然として舊時代の思想を包有し、人類の此進歩と相容れないものであるならば、それは恰かも前途の進路を知らざる船長を有する船の如きもので、何時かは闇礁の上に乘り上げられ破船の運命は免れないのである。實に今日の我社會は全く行詰まつた狀態になつて居る。此の人類進歩の過程に於て、少し頭を先きに出した人達、即ち先覺者とか新思想家とか云ふものは、何か感じたことや考へたことを發表すれば、それは直ちに國家の厄難に遇はなければならないのである。其の船中の客は右眄左顧もがきあせつて居るは、是れ我社會の現在の狀態である。此の進まんとして進まれず戻らんとして戻られない、國民は五里霧中に迷つて居る場合に於て、其の人生の進路を開き、鬱屈した民心を光明に導くと云ふことは、今日の爲政家の任務でなければならないのである。然るに現在我邦の爲政家とか當局者は果して此處に着眼を措くものは幾人あらうか。人類社會生活に於て自然的に且つ必然的に起つて來る、此の自然の要求と環境の順應性を唯だ單に壓抑防止するは、決して人類の眞の發達進歩を助長する所以の道でないのみか、百害ありて一利ないものである。且つ亦此の大巨濤の如く打寄せる自然的不可抗力な時代思潮に對して、何等理解なき壓迫による防

人間の性は進歩的か保守的か

人類の動物に於ける地位

人類の使命

止策は決して聰明なる方法ではないので、却つて其れの反動的勢を增大せしむるばかりである。

ロムブルゾは人類は本來保守的のものであると考へたが、是れ確かに一面の眞理であることは否むことが出來ない。一種の執着性とも云ふべきものは、人間をして自然保守的ならしむる傾向はある。然しながら他面に愛新性と云ふものがあつて、新奇を好む一の性能がある。之は人間をして自然進歩的ならしむる要素なのである。ロムブルゾは人類は本來憎新的保守的であつて生存の必要に餘儀なくせられて、新らしきに變移して行くものであると謂つて居るが、吾々もすべて萬物の通有性として惰性とか習慣性とか云ふものを認めるけれども、予は人類を進歩的動物であると云ふことを前提として、人類は唯だ單に現在の境遇や常則に滿足して居ることは出來ないものであると予は思ふのである。若し人類は生まれると宿命的な決定的條件内に生活するものであるならば、それは一般動物と何等變りはないことになる。然しながら人類の動物より優れて居る點は不斷に進歩と云ふことを意味するからである。動物學者は動物に於ける人類の位置を大腦に歸して居るが、若し人類が他の動物よりも優れて居るものとするならば、此の大腦に在りとすることが出來るであらう。故に人類は生活の必要に應じ又は本能的に不斷に、既知の世界より未知の世界に向つて、新らしきを追求し、發見し、創造して、以て人類生活を向上發展せしむるは、是れ人間の本性であつて使命である。即ち人類に限りなき進歩性、創造性のある所以である。而して人類は不斷未來に理想を追ふて進むで居るのが其れが爲で、之が即ち人間をして進歩的動物であると謂へ得る所以である。然しながら之を唯だ單に日常の生活に餘儀なくせられて、始めて現狀打破に入るものとするならば、幵は餘りに消極的な物質的な解釋であると予は惟ふ。勿論人類の一切の活動は或意味に於て廣義の生活に相違ない。生活なき處に人類あるべき筈はない。然しながら其の生活は單に人爲的な否な動物的な衣食住の生活ばかりではない。自然的に本能的に或人類の使命なり目的はある。それは予をして謂はしむれば、限りなき創造性であると惟ふ。不斷に進歩向上して行くところに在ると思ふのである。優秀ならんこと、完全ならんこと、絶對を望み、眞一無二の天地に、末來に或理想を抱き即ち眞善美に向つて進むで行くのは、人類の使命且つ目的であると吾々は信ずるのである。

執着性と愛新性

予は今此の執着性と愛新性とを一般社會に於て考へて見るに、前者は保守的となり、後者は進歩的となつて、何れの時代、何れの社會に於ても、此の二要素は其の内容を爲して相對立して居ると惟ふのである。若し之を政黨の方面から見るならば明瞭に分かる。英國の傳統を重んじ、比較的改革を好まない統一黨と、政治、經濟、宗教其他社會の總ての問題に對し、國民の自由を尊重擁護し、民主政治を主義とせる自由黨の對立の如き、獨逸の

保守黨、帝國黨等を含む右黨に對する國民自由黨、社會民主黨を含む左黨の如き、又佛國の保守黨に對する共和黨、社會黨の如きそれなのである。我國の政黨の如きは略同一の綱領を以て居るので、旗幟鮮明なる主義らしい主義を有する政黨は現在に於ては觀られないのであるが、何れを保守黨、何れを進步黨と稱すべきかは、判然たる甄別が出來ないが、大體に於て政友會を以て保守黨と稱することは出來得べく、同時に憲政會とか國民黨を稱して、進步黨と見做すことが出來るのである。是等は極く表面に顯はれたる結社團體より觀たる其の一端に過ぎないが、若し之を個人的に觀ても亦同樣である。此の如く國家社會には各信條を異にせる二派の集團は出來て居る。此の二派極端に發すれば、保守派は頑冥固陋となり、更に進むでは退嬰墮落することになる。之に反して、進步派は餘りに突破して急進に陷入れば、過激思想となり破壞性となる恐れはある。勿論是等の極端は何づれも不健全な危險思想と謂はなければならないが、けれども社會は全く此の二派ありて適當に進步發展して行くのである。保守的な舊思想家ばかり居つたならば、社會國家は過去や現狀のみに愛着し支持して行くことになるから、自然社會は進步の領域より退步し依然として舊慣舊制に泥溺して居なければならぬ。之と同時に進步主義の人ばかりであつたならば、或は傳統や國粹は滅びるかも知れない。故に國家社會は此等二派が適當に融合調和して行くところに眞に穩健なる國家社會の發達進步は在るのである。歐洲戰爭後デモクラシ

イとかソシアリズムとかアナーキズム、ボルシエヴイズムと云ふ樣な幾多の外來思想は恰かも大海の潮の如く大迂廻を爲して我國に打寄せて來た。それが未だ封建思想を脫ぎ切らぬ舊思想と貴族主義を豐滿に湛へて居る現在の我が社會よりは、此等は何よりの恐怖でなければならなかつた。現在我が社會に於ては全く是等二派の相容れぬ新舊又は保守、進步の思想は對峙し爭鬪して居る。此等互ひに自說を擁して、何れも自分の持說は正しいものと惟つて居る。而して何れも自分のは卓見剴切を盡したものとして、筆舌に論戰に火花を散らして居るとは現社會の狀態である。政黨、學者、思想家を初めとして、學生、婦人、職工に至るまで、皆な此等の何づれかの種類に入るべきものである。是等は保守性の多量に備へた人と、進步性を多量に備へた人の、天質的自家判斷であつて普遍的な妥當的な正理論ではない。それは兎も角、社會の進步は是等先覺者たる哲人とか新思想家によつて、指導されて行くものであると云ふことは誰人も異存のないところであらう。

我國七百年の封建の長夢は嘉永六年米國の水師提督ペルリによつて破ぶられた。德川三百年の太平は幾多の學者志士を養つたが、此處に我國よりもより以上の文明のあることを知り、漸く世論は囂々となつて來た。即ち開國論者となり、鎖國主義者となり、進步派あり、保守派あり、國粹保存者もあれば、新文明主義者も現はれたのである。實に天下騷然として鼎の沸くが如しとは、當時の我社會の現象であつたと謂はなければならない。即ち

危險思想何處に在りや

當時の開國論者とか、新文明輸入論者とか云ふものは、當時の進歩論者と謂はなければならない。當時の社會國家よりは彼樣な人々は皆な或危險思想家の如く觀られて居つたのである。彼等は實際には社會の先覺者であつて、社會を指導する卓見を備へて居るのであつたけれども、當時の社會よりしては、彼等は全く國賊呼ばはりをしなければならない程恐ろしいものであつた。佐久間象山にせよ、吉田松蔭にせよ、彼等は全く文明開發の犧牲者となつたのである。

さて當時と今日とは勿論其の社會の狀態は異つて居るけれども、今日のデモクラシイとかソシアリズムとか云ふ新思想の戰後澎湃として我が帝國に打寄せて來たのは、弘化嘉永頃ペルリの來朝を初めとして露、英、佛の入國したほどには、周章狼狽しないかも知れないけれども、然しながらそれは當時此等進歩論者の思想は、當時の當局より觀たならば、危險な思想である如く世の一般の人は暗愚であつたと同じ樣に、今日輸入せる新思想に對しても、我が過去の時代にのみ執着して居る人より觀るならば、矢張り恐怖せしむるに足る思想であるかも知れない。それかあらぬか最近殊更に言論の取締りを嚴にし、思想罵題に對する當局の神經過敏なところを以てするも、是等想像するに難くないのである。唯だ予の此處に恐るゝのは其の外來の危險なりとする思想よりも、現在の社會は一層此の危險思想を醞釀する、且つ取り入れる要素と缺陷を以て居ると云ふことを考へなければならない。現在の社會の機運は過去の思想を以ては殆んど破綻に行詰まつて居る。過去よりも一層高い理想の上に合理的な社會的な人類の生活に移らんとする自然の趨勢、社會の進化、人類の要求を捨てゝ、自然に進歩發展せんとする文化を阻止するは、是れ却つて人類の幸福を增進せしむる所以でない。且亦よくも阻止し得られるものでもない。萬物は常に平均を得んとして運動しつゝある。恰かも水の低きにつく如くである。環境に順應せんとする、は、是れ萬物の通有性でなければならない。自然は人を生み、社會は思想によつて支配されて行く。過去があつて現在がある。原因あつて結果はある。今日の社會運動は是れ要するに順應性と因果關係に據る總てゞなければならない。故に現在社會の表面に現はれて居るものは、是れ悉く過去の社會に緣由して居るので、偶然的なものは一もない。若し危險思想なるものありとするならば、徒らに其の由來眞相を究めずして、其の表面に現はれたる泡沫に及を向くるも何の効があらう。此の因果關係によつて生じたる社會の現象は宜しく正理に照らして之を裁斷し、其の原因の切除根本の改造は必要なのである。新思想とか學者の意見は今日兎角危險思想の宣傳者の如く思はるゝ傾向があるが、之は非常な過まりである。これは過去の習慣や惰性的考へより見たる保守派と進歩派の一の爭鬪に過ぎないのである。一體哲人とか思想家は普通常人より社會の眞相や時代の推移を見ることは頗る敏感であつて、先きの先きまで見えて居るが故に、此の見地に立つたる意見や觀察は、時

の社會や制度と合はない爲めに、此處に種々の問題が起つて來る、單り希臘のソクラテスに於て觀る事柄ばかりでない。結局之が現狀維持者と進歩主義者の衝突となる譯である。

保守的の人と進歩的の人

保守的の人は常に過去に執着し、因襲に馴じみ、傳統を重んずるが爲めに、勿論之には多くの特長美點もあるけれども、概して此種の人は消極的、退嬰的頑固であつて事物の眞相を觀ることが遲鈍である、之に反して進歩的の人は積極的で進取の氣象に富むで居るから、新を容れるに多くの度量を持つて居る。而して此の保守的な人は奈う云ふ人に多いかと謂へば、概して排他的で青年よりも老年に多く、男子よりも婦人に多いこと、それから世界の大勢に通じない人、天質頑固な人等は此の部類に這入て居る。之を若し國家的に觀るならば、西洋人よりも東洋人は概して保守的になつて居る。東洋人にても支那とか印度とか云ふ國は一層保守的である。それから觀れば我邦の如きは進歩主義的國家と謂ふことは出來る。西洋人は往々東洋人を冷評して過去に執着し、過去を保存し、模倣のみをする國民であると謂つて居るが、世界で一番進歩的國民であると云ふ所謂文明の創始者と謂はるゝフランスは進歩的國民の典型とも稱すべきものであらう。兎に角世界で最も進歩發展して居る國家は進歩主義の國家であつて、それは歐米の文明國であると云ふことは、誰人も疑ふことの出來ないところであらねばならない。

危險思想

(2)**危險思想發生の原因**――予は此處に危險思想と稱するは嚴密な意味に於ての危險思想で

ない。官僚とか舊思想家より觀たる或新思想に對する所謂反對思想を、世間は一般に危險思想の如くに謂ひふらすから、予も之に從つて假りに危險思想と云ふ文字を暫らく此の外來思想の意味にとつて措く。

一體此の危險思想と云ふのは、奈れが眞の危險思想であるか、却々明瞭なる判斷のつくものでない。舊思想より新思想を觀るならば、或危險思想であるに相違ない。保守主義者より急進主義者を觀たならば、矢張り危險思想の持主と見るに相違ない。現狀維持者より現狀打破者を觀るなら、一の危險思想であるかも知れない。政府當局者より現在の社會改造論者を以て任ずる學者とか思想家を觀るならば、或は悉く危險思想の部類に這入つて、而かもそれが刑法局や警視廳あたりの注意人物になつて居るかも知れない。孔子、孟子、キリスト、ソクラテスなどと云ふ賢哲は今こそ、人類の慈父と仰がれ、神と祭られ、哲人と尊敬されて居る。而して幾千年の後までも、萬人の崇拜喝仰の的となつて居るけれども、其當時の國家社會よりは厄介至極な危險思想の持主であつたことコレラ保菌者と同樣に政府より睨められて居つたに相違ない。實に此等は自家の利害より打算した、即ち自己を基點として、觀たる危險思想で、普遍妥當的見解でないことは謂ふまでもない、予は或思想なり言動なりが、社會に現はれた場合に於て、それを抽象して考ふる時に、それが正當な合理的な要素を含むで居るならば、而してそれがタトヒ理想論にして現實の社會に適合し

ないものであるとするも、それが將來可能の目的あり、且つ人類の最高の理想は當然其處に進むで行く可き性質を有するものであるならば、それは決して危險思想と謂はれ得べきものでないと惟ふ。唯だ其の言論なり思想なりは、其の時代を標準として現在の社會國家と矛盾抵觸するところあつて、其の政府當局者より見て初めて危險思想となるので、是等は嚴密なる意味に於て眞の危險思想でないことは謂ふまでもないのである。然らば予のいふ眞の危險思想とは奈何なるものを指していふかといへば、社會人類の進歩を認めざる頑冥固陋者又は正當なる理論と根據を有せざる、唯だ慢然たる感情より來る何等建設の要素を含まぬ破壞性を指して謂ふのである。建設の爲めの破壞ならば、それは改造と云ふことになるけれども、破壞の爲めの破壞は頽癈を意味するもので、唯だ不平なるが故に社會の破壞を好む、支那人や朝鮮人の一部に在る所謂亂を好む底のものは、是れ眞の危險思想と謂はなければならない。何んとなれば、此等は何等人類の幸福を念とせる其創造的精神より出發せるものでなく、其破壞的な不健全な其不平より出發して居るからである。

戰後の改造

さて這般の歐洲戰爭の原因はといはゞ、墺國の皇太子フエルヂナンドのサラエボオの奇禍に端を發して居るけれども、精細に此を觀る時は、最等各國家間の過まれる觀念より來て居るのものである。十八九世紀に產むだ物質主義、個人主義、帝國主義などは大部分の原因を爲して居るものと謂はなければならない。其結果として戰後の國家は新らしい思想に依つての是等の改造に他ならないのである。戰後世界改造の發源地は何處かといへば、眞先きにデモクラシイを振り翳しながら世界に呼號したのは何んといつても亞米利加である。ウイルソン氏は世界はデモクラシイに據つて安全にせられなければならないと叫んだのは、今日も尙ほ鮮やかな記憶となつて世界の國家に共鳴を與へて居る。戰後の世界は單に軍國主義とか帝國主義とか云ふ國家のみの改造でなかつた。從來民主的國家であつた英、米、佛なども、同樣に改造は叫ばれ改造を要せねばならなかつたのである。然しながら是等世界中に於て最も大なる改造を要する國家と云ふのは、即ち封建的要素を多量に含む軍國主義とか帝國主義又は專制主義の國家であつた。故に戰後最も大なる打擊と多くの犧牲を拂つたのは、世界の三大專制帝國主義であつた、ホーヘンツオルレルン、ハプスブルク、ロマノフであつたのである。是等の國家の破滅は單にそれは國家と國家との關係ばかりでなく、國內に於ても當然滅びなければならない或病根を有つて居つたのである。何故露西亞と獨逸は恁くの如く極端な破壞は行はれたかといへば、それは當然であると應へるより他に言葉はない。先づ予は戰爭前の露西亞に就いて考へて見たい。露西亞ほど戰爭前にも絕えず革命運動の行はれて居つた國はなかつた。勿論其は這回の戰爭のお蔭で或意味の成功はしたけれども、戰爭前は頑强なる官僚と貴族に擁せられて居るロマノフ帝の儼然たる存在と廣大なる領土を有する國家だけ却々さう旨く成功は出來なかつた。露西亞はピーター

改造の中心國

露西亞の改造

貴族と革命運動

大帝以來此の戰爭前まで權力萬能の專制政治を行つて來た國である。官尊民卑の弊は烈しく、一般國民は何等自由を得なかつた。一般農夫は農奴として、全く牛馬の如く賣買せられて居つたのであるが、それが一千八百六十一年アレキサンダー二世に依て解放せられたのであるけれども、近代まで全く是等國民は自由を得て居らなかつたのである。少しでも國家社會の組織でも批評するものならば、直ちに言論壓迫の聲が起つて、是等の論者は社會主義とか無政府主義と云ふ名の下に、西伯利亞に又は外國に放逐せられなければならない。此う云ふ國家であつたから、社會には幾多の不平分子は續々醱酵したのである。即ち一種の危險思想を醞釀したのである。バクニンとかクロポートキンとか、トルストイとか、ツルゲーネフとか云ふやうな、露西亞獨特のロカルカラーを備へたアナーキズムと か、ナイヒリズムを產むだのである。而して是等は奈何なる人々であるかといへば、皆な貴族名門の育の人で、佛蘭西とか獨逸とか云ふ外國に學んだ一流の學者とか思想家に多いと云ふことは烏渡不思議と謂はなければならない。予は敢て之を日本の貴族に求むるものではないが、日本の華族とか、富豪階級には、自ら率先して社會運動や、社會主義を唱へる人は殆んど無いやうだが、勿論日本でも往時佛蘭西より歸つて來て、我社會に熾んに平民主義、自由主義を鼓吹した西園寺公は在る。西洋には却々此う云ふ貴族から有名な社會主義者や、國家の改造運動者が出て居ると云ふのは、全く奇異な現象で東西貴族の生

言論壓迫の惡弊

活狀態を異にせる一端かも知れない。佛蘭西革命當時のサン・シモンにせよ、バクニンにせよクロポートキンにせよ英吉利のロバート・オウエンにせよ、此う云ふ種類の人々である。日本の貴族は社會より或特別の階級の如くに觀られて居るので、自然潑溂たる意氣と抱負を缺いて居る。是等は現今の我社會に由來するものであつて、我國の貴族の民間に全く通ぜざる結果と、國民の貴族に對しては特別な人間として全く特別な取扱をして居るからである。故に彼等をして人間らしき活動を爲さしむるには、一般の社會に接觸せしめて、自覺せしむると云ふことは最も必要であると予は惟ふのである。そこで露西亞の此の專制主義の國家を背景として、最も言論壓迫の社會から奈んな思想は生まれたかといへば、現狀の國家に取つて、最も危險な思想は不知不識の間に胚胎されて居つたのである。ツルゲーネフの農奴の悲慘なる生活を描寫した「獵人日記」は、時の皇帝アレキサンダー二世を深く動かして、奴隷解放を宣言せしめたといふのであるが、其他トルストイの作物でも、ドストエフスキーの創作でも、言論壓迫は色を更へ品を代へて、或は藝術に化け、創作となつて皆な是等の作品は、當時の政府國家を呪つたものに過ぎなかつた。予は戰爭前民主國の英米よりも、專制主義、軍國主義の露獨に社會主義の多く發生して居ると云ふことは、烏渡奈何にも不思議に考へられるのであるが、よく之を考へて見れば至極當然であると結論しなければならない。言論壓迫國に健全思想の發育する筈はない、壓迫あればこそ

危險思想は奈何なる國家に發生するか

我國の危險思想に對する救濟策

其反對に危險思想は生まれるのである。專制主義とか帝國主義の國家に社會主義とか民主々義の胚胎するのも同樣の理由を以て居るのである。英米國に比較的極端な社會主義とか危險思想の生まれないのは、此等の民主國に於ては可成國民の意志を尊重して自由平等主義を執つて居るからである。戰前の獨逸はカール・マルクス主義を信條とした社會民主黨は最も優勢な政黨となつて居つた。而して獨逸は實際に於て社會主義的氣分を濃厚に備へた國家であつた。露西亞も戰前レーニン、トロツキを領袖とせる社會民主黨は却々優勢な地位を持つて居つた。此等から見ても極端な專制的な國家よりは、却つて其の反對な一種の破壞思想が生まれると云ふことは、事實に於て今此處に證明が出來るのである。そこで現在我邦などにても、其處此處に今や全國に或一種の危險思想が起つて居るやうである。國家は成る可く穩和に健全な發達を望むのであるが、而して我邦の如きは歐米諸國に比し、頗る統一と結束に便利なる同一血統と傳統を有するものであるけれども、近時漸く階級的爭鬪が熾んになる傾向を以て來て居る。而して他方に是等多くの不平分子を作るが如き、今日の如き時勢に於ては、國家は最も愼重に考へて、其不平の根本的除去に努めなければ國家は全く恐る可き結果を齎さなければならない。何んとなれば此の國民の不平は確かに社會の何處かに或缺陷があるからで、其不平は何時かは爆發しなければならないからである。若し現在の社會の制度にして今日の國民をして信服せしむることが出來ないならば、

言論壓迫の恐怖

必ずや其の社會の制度に或缺陷があると謂はねばならないことになる。二十世紀の現在の國民を十八世紀の社會國家によつて支配せしむることは不可能である如く、若し今日の新人は既成の不適當は社會に對して其の制度の改正を要求するならば、之に對して或程度の適當の改革は、やがて其社會より或不平なり危險思想を除くことゝなるのである。若し今日覺醒されたる新らしき社會なり民心にして、既成の階級なり因襲に對して全く不信任の態度を持して居るならば、國家は之に對して適當の方策を講ずるの責任があると謂はなければならない。現代の國民の不平は階級制度にせよ、財產制度にせよ、それは何んであつても、唯だ國民の不平を抑壓せしむるは、一層危險思想を釀すことゝなるから、今日の政府當局者は宜しく是等社會の不平危險思想の發生を究めて、其の根本的驅除法を施こさなければ、唯だ單なる思想に理解なき防遏手段は何の効果をも齎さないこと除りに明瞭である。

(3)言論は宜しく言論を以て制せよ——近來言論壓迫の聲は漸く熾んになつて、民間の言論界は一種の恐怖を抱いて居ると云ふ有樣である。學者思想家の中には自分の研究なり思索した物を發表し得ずして、其儘埋沒すると云ふ者はいくらあるか分らない。實に腹の膨くるゝ次第である。雜誌社とか新聞社などでも、其の法の適用の範圍は不明瞭な爲め、其の論說なり原稿の取捨に頭を痛めると云ふことであるが、兎に角此等は筆者に取つても、又言論發表の機關に立觸はる人に取つても、且亦國家の言論界と云ふ領域より考へて見て

言論尊重の意義

も、大いに遺憾な次第である。暴言は國家を破壞し、秩序を紊亂する恐れあるかも知れない、けれども、正當なる言論は縱令現在の社會國家には不相應なものであつたとするも、それは社會を指導し、社會を發展せしむる原動力となるものであるならば、徒らに是等有識者の言論思想は一概に抑壓埋沒すべきものでない。英國の大法官ウキンスフォード卿は言論の自由に關して法廷に於て述べて曰く、人は他人に智識を分つ權利あり、國の政府と宗敎に敬意を表する限りは、奈何なる新說を唱ふるも可なり、當局者の人身攻擊を爲ざゞる限り、其の處置の過失を指摘するの權ありと。實に是等は英國の如き自由な言論を尊重する國家に於ける法官の言としては、何れも殊更に異とするに足らないかも知れないが、實に是等は國家社會を指導するに最も敬服に價する賢明なる辭と謂はなければならない。希くば我が法官も、言論を取締る當局者も、高い處に着眼を置き、社會常識を以て、唯だ一片の法文のみに拘泥せずに文化の進步を助くる言論を紊りに抑壓せざらんことを此處に切望して止まない次第である。國民思想の幼稚な文化の進まざる時代には、或は或程度の言論の抑制は必要であつたかも知れないが、現在の社會の如き社會力に依つて支配される時代には、言論の壓迫は全く無要であると謂はなければならない。社會國家の進步は決して一般常人より原因して居らない。賢哲とか先覺者に依つて指導され開發されて居ることは、古今東西等しく見る事實である。而して此等先覺者の思想の發表に依つて、初めて社會

輿論とは何か

は其發達を期すること出來るのである。故に予は此處に言論尊重を我社會に主張しなければならないのである。そこで先づ予は輿論と云ふことに就いて考へて見る必要は起る。一體此の輿論とは奈何なるものであるかといへば、社會心意の一方面であつて、社會現象に對して社會共通的判斷と稱することは出來る。社會が社會的知識に依つて爲さんとする判斷作用の具體的發現なりと云ふことが出來るのである。即ち輿論は各個人の意見でなくして、各個人の意見を資材として、是等相結合せるものを稱するのである。故に其の輿論を形成せしむる必須の要件は、社會の各個人をして出來るだけ意見の交換を圓滑ならしむると云ふことが必要である。即ち之が言論の自由と云ふことに他ならないのである。言論の自由なきところに、健全な輿論の生まるゝ理由はない。昔時の如く交通機關の發達せざる時代、又は言論壓迫の專制時代に於ては、各個人の意見は廣く公平に社會に現ほれて居らないから、其の出來上りたる輿論らしきものはあるとするならば、それは極めて偏狹な不健全なものと謂はなければならない。故に眞の輿論は國民は平等の機會を得る自由な民主國に於て實を結ぶのである。英國や米國の如きは實に輿論を尊ぶ國である。而して輿論に依つて政治の行はれて居る國である、輿論に忠實な國民であると謂はなければならない。勿論必ずしも多數の意見は輿論でない、けれども、優秀な意見は多數を支配するものとなるから、輿論と見做すとも敢いて不可はないと思ふのである。最近米國の大統領の候補者は火花を

散らして爭つたのが、此處に勝敗の決定するや、落選した民主黨のコックス氏は、當選の榮冠を得た共和黨のハーディング氏に、最も興味ある謙讓した祝意を表したが如き、是等は輿論を尊重して、何事も輿論の力に俟つ民主國に於ける美點と謂はなければならない。而して此の輿論は各人の意見中にて最も優秀なるものはなるのであるから、最初より不健全なる正當な根據を有せざる意見や言論は輿論となつて、社會を支配する力となることは出來ない。そこで予は社會の一偶に起つた言論にして何等價値のないものであるならば、それは其儘社會に放任して居つても、輿論を作成するやうなことなく、淘汰作用に依つて自然湮滅するものと信ずるのである。然しながら之に反して、或言論にして眞に價値があり、妥當なものであるならば、それは遂に輿論を形成するものとなることは明らかである。故に予は思想家とか學者の意見なり主張にして、タトヒ其れは現在の社會に相容れないものであるとしても、それは他日社會國家を指導し、且つ亦價値あるものであるならば、徒らに民心を煽導する暴言でない限りは、社會の表面に現はして、社會の輿論の作成に資すると云ふことは、最も正當であつて利益であると謂はなければならない。そこで此輿論を作成せしむるには、可成廣く識者の意見を求めて、言論の力に依つて其意見の淘汰を行ひ、言論を以て言論を制禦すると云ふことは最も賢明なる方法であると惟ふのである。價値なき言論は、タトヒ社會の表面に一度現はれるとするも、それは到底社會を支配するものと

なるものではない。最近英國で倫敦市を痲痺せしむるやうな勞働者の一大罷業が行はれた時、其終熄後の倫敦市の大會に臨むで、首相ロイド・ジョージ氏は市民の捷利と云ふ言句に於て、最も趣味ある演說をした。即ち產業界のプロシヤニズムに對して一鋒鋩を向けながら、英國は何事も此の國民の輿論に依つて支配されて居る、パブリック・オピニオンは實に彼等を制服したと云ふ句調を以てして居るのであるが、是等は實に傾聽するに値するのである。當時英國は奈何に賢明な思慮ある方法を以て彼等に臨むで居つたかは分かる。一方に此等勞働者の自由行動に委しながら、他方に市民の保護に極力盡した英國政府否な輿論は終にハイド・パークをして彼等の慈善市たらしめたのである。英國は奈何に勞働者と社會主義者が跋扈しても、彼等の容易に崩壞しないのは、何時も國民の健全なる輿論は中心となつて、彼れ全英國を支配して居るからなのである。

若し之が言論を壓迫し、集會を禁んじたりしたならば、必ずや其反動は恐ろしい結果となるに相違ない。最も我國民と英國人とを同一に見ることは出來ないが、殊に我國民の如く雷同附和煽導に乘り易い國民に對しては、夫れ相當の取締りは必要であるけれども、それには相當の程度と加減が必要なのである。兎に角封建時代とか專制時代の如く、政府は其の失政を蔽はむが爲め、無謀不正な抑壓を以て緘口政策を執るが如きは、決して賢なる方法手段ではない。秦の始皇帝の自家の權勢を維持せんが爲めに、學者を穴にし、書籍を

過渡期と新思想

焚きしが如きそれである。而して今日の如き文明の過渡期一轉移期に於ては、それは明治維新時代の如く、論客や志士が現はれて、種々の言論や思想の現はれるのは止むを得ないことである。これが唯だ現狀の社會を謳歌して居る者のみならば、其處に人類の發達も社會の進歩も舊弊の改造も見られないのである。專制時代の政治の特色は即ち民をして依らしむべし、知らしむべからずの祕密主義と威力と權力政治にあつたが、近代の民主國家に於ては、秘密主義の政治と外交は其意義をなさない。人民の意思に依る輿論政治でなければならないのである。威力とか權力の政治は孟子も誡めて居るが、國家社會の安寧秩序は到底權力によつて、保持され得べきものでない。獨逸や露西亞や朝鮮の如き何よりの例證を吾人の眼前に齎して居るを以ても知るべきである。

警官と思想問題

予は言論の尊重を主張すると共に風敎其他思想上の取締を、唯單に警察官の萬能に任ずるが如きは大いに考へなければならない。人を見れば泥棒と思へ底の眼光を以て是等思想とか藝術に對して奈何なる理解を以て臨むことは出來るのであるか。是等は或高遠な理想の上に立つもので、人類の文化生活に資するものであるから、唯だ單に法の末規にのみに捉らはれて、輕卒に其の是非を決すべきものでないことは勿論である。何時も文展で其の出品畫に對して、警官と藝術家との間に衝突を來たすことは殆んど常例であるが、是等の如きは警官の見る眼と、藝術家の見る眼とは、餘りに隔つて居るからである。實に是等より

藝術家と警官

歐米社會と我社會の根本的相違

見ても理解なき壓迫は奈何に人類の文化を妨げて居るかと云ふことを知らなければならない。是等言論又は文藝に對する壓迫干渉も、是れ要するに專制思想の餘弊で、人類文化の自然の發達を阻止するものと謂はなければならない。歐米の是等藝術品に對して比較的自由なるは此處に鑑みるところがあるからで、我國も一般國民は最と是等藝術に理解と知識を有し、批評的見地に立つて美を觀賞するやうに趣味性は向上しない限り、藝術をして極致の妙技を發揮せしむることは出來ないであらう。歐米にて少年にモウパッサンの小說を讀ませたり、裸體畫を公衆に展覽せしめたとて、それは實際社會上の風敎に奈れだけの影響を與へて居るか、人間の好奇心は隱くるゝほど見たきものである。此の微妙なる心理は眼前に展開せるものよりも、目を蔽はるゝものに、一層其反動心は起るものである。是等要するに角を矯めて牛を殺すが如きものである。從來我社會は此の性慾問題とか男女問題を思想問題と同し樣に殊更に禁遏主義目を蔽ふ主義を執つて來たのであるが、それが果して奈何程の効果を有するものであるかは、大に疑はしいのである。自由よりも嚴重な方面に却つて弊害多くあるに鑑み、むしろ東洋的な男子七才にして席を同じうせず的方法を執らずして、出來るだけ許す限り男女間の從來の障壁を取つて、自由な交際上の機會を與へ、男女相理解し合ふと云ふことは、寧ろ却つて人生の目的に適つて居るものも謂はなければならない。從來の東洋的敎育は消極的な禁壓的なところにあつたが、今後の敎育の方針は

新時代に入る爲の解放

從來の弊より去つて、積極的な自由な方面より、所謂人格的人間的の教育に進まなければならない、否らずんば眞の人間性を完全に發達せしむることは出來ないのである。封建的な威壓の下にあつては恰かも昔時の奴隷の如く、又資本家に隷屬せる勞働者の如く、完全な人格的人間を作ることは出來ない。故に將來の日本は此處に目覺めて完全な人格化した人間を作ると云ふことの新らしい希望に轉化して行かなければならない。維れ今日の改造の眼目であると吾々は惟ふのである。過去の我社會は權力、威壓に對して奴隷、依賴の精神を養つたが、今後は此より轉じて自覺、自治と云ふ處に向つて、最善の努力を爲さなければならない秋である。是等總べての改造に就いて、將に現在は種々の言論を要する場合である。思論は敢いて言論でない。崇高な人生の目的の爲めの意義ある言論は、此の現在の未整理の社會を改造する爲めに、廣く歡迎しなければならないのである。

實に現代は解放運動を要する時代である。進歩した人類の思想が、封建的舊社會より、ブルジョアよりプロレタリヤ、男子より女子の、權力壓迫の國家より自由の國家へ、總ての舊弊社會を改造して、自由平等に歡喜する希望に充ちた新社會を建設するは、實に今日の時代の要求でなければならない。而かも此の人類の究極の理想に進むプロセスに於ては、種々の思想や言論の起るのは決して怪むに足らない。資本家より觀るならば勞働解放運動は一の危險思想であるかも知れない、又舊社會のみに憧憬して居る人より觀るならば、新思想家の考へて居ることは皆な危險なものであるかも知れない。東洋的な男子偏重主義者より觀るなら、女子の解放運動は一の危險思想であるに相違ない。現在の社會や制度のみを善美なりと思つて墨守して居る政府當局者より觀るなら、之に對して或鋒鋩を向ける人は確に危險思想家であるに相違ない。けれども是等は皆な自分の立場より考へた一の偏見で、それらと利害を異にせる立場より考へて見るならば、唯だそれは利己的自己擁護の一の詭辯に過ぎないのである。人間は利己的動物なりとして、銘々吾儘勝手を通してそれで濟むものであるならば止むを得ないかも知れないけれども、少くとも此の人類に社會に正義と云ふものがあつて、之が凡てを支配するものであるとしたならば、其の正義の主張こそは眞に人類を指導し、社會を改造するものでなければならないのである。現世の如き過渡期に於ては或意味に於ての危險思想の起るのは止むを得ない。それは改造の爲めの正義を意味する思想、言論であるならば、タトヒそれは現在の社會制度に適合しないものであるとするも、それは將來の國家人類を指導する理想論又は學說言論として觀る時には、之は決して危險思想の區域に入る可きものでない。彼の英國の名法官の謂つた如く、それは唯だ破壞性を帶びたもので、文化の進歩に何等資するところのなき、不平の爲めの暴言や人間攻擊であるならば、眞に之を危險思想として排斥するの當を得て居るけれども、學者や思想家の研究や思索に依る眞面目な眞摯な意見や發表は、必ずや過去や現在の國家社會を

誠意の在る言論は危險思想でない

資材として生まれて來たもので、是等は社會を指導し文明を助くる原動力となるものであから、言論を尊重する意味に於て濫りに法規の末節に捉らはれて、社會より葬むり去ると云ふやうなことをしてはならない。若し是等言論を取締る既成の法規にして、不完全であるならば宜しく之を改廢して新國民新文化を指導するに於て充分欠陷なきを用意しなければならない。文化は實に此の解放に始まるのである。總ての因襲と舊慣に依據して、新文明と相容れざるものは、宜しく聰明なる社會の輿論に訴へて、社會の公義に依つて其の正否曲直を定めなければならない。言論壓迫は今日露西亞とか東洋に於てのみ行はるゝ拙劣なる政治主義の國家でなければ、封建政治時代の專制思想の產物である。現今の文明には全く時代錯誤と謂はなければならない。輿論の起らざる時代には或は必要であつたかも知れない。けれども今日の如き文明には、何事も常に社會は輿論を中心として支配されて行く國民政治の時代には、人類の文化生活と相容れない暴言でない限りは壓迫の必要はないのである。何んとなれば社會の多數の輿論は常に勝利を得るからである。而して亦國家社會を安定に導くに、言論壓迫位い無意味な拙劣な手段方法はない。是等の壓迫干涉は却つて他に之に增さる反動思想を醞釀して、一層社會を危險に導くと云ふことは、多少にても思慮ある人の誰人も考へ及ぶべきことである。社會は作られたるに非ずして自然に成れる一の有機體なりとはスペンサーの社會觀であるが、予は是等から考へて見ても、社會の

スペンサーの社會觀

言論の指導は人海の水先案内である

進歩とか變化とか云ふものは、原因結果の自然的事象で、人爲的に奈何ともすることの出來ないものであると惟ふ。今日世界騷然として改造思想の醞釀として地球の表面に躍出せるは、是れ取りも直さず過去の社會の原因に依る一の事象で、決して偶然的に起つたものでない、一定の時間に秩序を經て必然的に起つたものである。スペンサーは個人主義の立場より、國家の干涉とか壓迫を極力排斥して、干涉は却つて弊害と害毒を社會に流すものであると謂つて居るが、至言と謂ふべきである。言論は宜しく言論を以て制すべきである。

デモクラシイのない處に眞の愛國心のない如く、言論壓迫の國家には、眞の繁榮は其處にない。何んとなれば人生の目的は眞實の世界に向つての絕えざる創造發見である。國家社會は其過程に於ての其實在の一の表現に過ぎないからである。故に思想や言論は其の truth 又は goal に向つての人間進歩の當然の現象である。此の言論、思想は其の眞理の世界に進む唯一の鍵である。それだから此の言論、思想に依つて始めて其の人間の究極の目的たる眞實の世界に進むことは出來るのである。社會あり國家ありて始めて其處に思想なり精神あるのではない、思想あり精神あつて創めて其處に社會なり國家は存在するのである。精神なき靈なき社會國家は、價値なき一の空虛形骸に過ぎない人間の價値あるは其肉體でなく精神在るが爲めである。眞理の世界に達するの途は、實にその精神、思想に依つてのみ之を得られるのである。依らしむべし知らしむべからずは現狀維持を頑守

する封建專制主義の政治的信條であつた。けれども社會の進化と人間の進歩を是認する現代は、其の眞實の世界に向つて、其の眞善美の理想に憧憬する文明人は、其奥妙なる眞理を闡明する唯一の鍵、其言論と思想に賴らなければならない。一人又は少數より多數全體の聰明――言論、思想――に其眞理を聽かなければならない今日のデモクラシイは、言論の自由と思想の自由を要求しなければならなかつた。此の思想を發表する言論の自由を得て、始めて國家は吾人の理想とする究極の眞理に達することは出來るのである。

二　華族制度論

我が華族制の起源

王政維新の改革は封建時代の公卿諸侯の特權を廢して、國民平等の精神に據る政治の體現にあつたので、此處に從來の封建貴族の政治上の特權は剝奪せられたのであるが、之に更ふるに彼等に華族と云ふ特別の名稱を與へたのである。更に明治十七年に至り華族授爵の詔に依つて、公侯伯子男の是等の爵を設け、國家に功勞ある者をして此授爵の榮に與るものとした。而して此等の華族を世襲制にし、貴族院に列せしむることゝして、全く國家社會より特別の地位と恩典は與へられて居るものであつて、一般庶民階級との間に全く相融通せざる溝渠は築かれて居るのである。

故に我が此の華族制なるものは、其最初に藩主の私有せる其土地と人民を棄却せるに對して、其應償として彼等の身分を表彰して其の名譽心を滿足せしむる爲めと、後に之を以て社會の功勞を表彰する目的としたものに過ぎないのである。

華族制存在の意義

若し此の封建貴族に對する何等其處に人格とか功勞を表彰するものでなく、唯だ一片の身分門閥を表彰するに過ぎないものであるならば、其の華族制度の今日存ずるの不合理無意義なることは、此處に論ずる迄もないことであるが、然らば此名譽、功勞を表彰する意味に於て建てられたる華族制度は果して奈何なるものであるが、國家は其發達を期する爲めに、個人の名譽と功勞を表彰紀念する何かの方法を設けて、國民の名譽心と奮發心を督勵すると云ふことは國家政策上確かに有意義なることであつて、且つ亦必要なものである に相違ないけれども、若しそれが何等其人の名譽功勞を表彰する意味のものでないならば、それは却つて社會に有害なものとなることは此處に論ずる迄もないことで、即ち社會に怯惰、浮薄、猜疑、虛僞の不健全なる精神を培養して、國家社會の眞の發達を阻害することゝなるのである。然るに我國の華族制度は此の點に於て、果して其處に矛盾せる或缺陷はないのであらうか、若し此の華族なる名稱は、其國家社會の功勞名譽を表彰紀念する爲に設けられたものであるならば、其階級職業の奈何を問はず、奈何なる人も此華族の榮爵を受くる自由を持つて居らなければならない。即ち軍人とか、政治家とか、官僚ばかりでなく、哲學者も、學者も、藝術家も發明家も、皆悉く特に國家に功勞のある者は此華族の榮譽を受くる機會を

一代家族制の提唱

得て居らなければならないのである。何んとなれば國家社家は決して是等軍人とか政治家にのみ待つものでない、學者、發明家皆各事其專門に依つて國家社會に貢献して居ること彼等と同一なのである。然るに我國の華族は單に封建貴族の外には、軍人、政治家、富豪にのみ之を限つて居るのであつて、實に奇怪と謂はなければならない。而して又彼等の間に在りても、必ずしも國家に功績の在る者は華族になつて居ると云ふ事實も、吾々は認むることは出來ないのである。否な之と反對に却つて此の國家の榮譽たる任に堪へない、非人格的な左迄功勞なき者にして、此華族の榮爵に與つて居るものもあるに拘はらず、他方に顯著なる功勞を有する人にして全く之に與らぬ人も澤山ある。此等より觀るならば我國の華族制度なるものは、眞に其人の功勞、名譽を表影するに其生鵠を得て居らぬのみならず甚だ不公平なものであると謂はなければならない。

次ぎに又此の華族制度に於て、最も背理的な無意義なものとして指摘しなければならないことは、我が此の世襲華族の制度である。一代華族は其人の功勞を表する意味に於て、それが合理的要素に立つて居るものならば、敢て不可とすべきものではないが、何等國家に功績德望なき者が、單に華族の子孫なるが爲めに之を襲爵するが如きは、全く意義なきことであつて、親の罪刑を其子孫に及ぼすと何等異なる處なき不合理なものであると謂はなければならない。是等は國家の個人に於ける其功賞を過まるもので、其處に何等の

價値を有するものでないことは謂ふ迄もない。而して我が華族制度に於ては國民の一部を華族とならしめたか爲に、有用な人間をして人爲的に無智無能ならしめ、地位の向上は却つて人間の價値を低下せしめ、爲めに却つて彼等に淫逸遊惰の風を助成せしむる傾向なきにしもあらざるは、或意味に於て人類の頽廢を豫告するものであると謂はなければならない。而して此等同一血統を有する同一民族の間に、恰かも希臘羅馬の被征服者と征服者との關係の如く、封建的時代に於て其能力の優秀奈何よりも、弱肉强食的に武力を以て或政權又は特權を獲得したるに過ぎない、彼等藩閥と又他方に何等合理的正當な人選に依らざる者をして、社會に華族と云ふ特權の下に、四民平等の兄弟であるべき此等國民の間に、上下貴賤の二階級を永久に拵くるが如きは我國家本來の性質より觀るも、又國民思想統一の上よりしても、決して健全な國家の發達を期する道でない。殊に今日の如くデモクラシイ思潮の旺盛なる時代に於ては國民に益々階級的憎怨を高からしむるものであるから、國家は是等に對し時代に適合したる或種の改造整理が必要であると吾々は惟ふのである。世界何處に於ても未だ文明の進歩せざる時代に於ては、昔時の征服者たる治者は、自然社會に貴族として特權的地位を占め、被征服者たる被治者に壓制を加へたのであるが、それが文明と知識の進歩に從つて、是等階級の自然廢滅せらるゝに至るのは、全く自然の理であつて、何も其處に不思議のあるものでない。今日歐米の文明に於て、此貴族制の存じてあ

るのは英國位のものであつて、其英國に於てすら此貴族なるものは今日有名無實となつて居るので、我國の如く政治上社會上に特權を持つて居るものでない。否な貴族院に於ける彼等政治上の權利は益々削減縮少されて來つゝあるのである。

人間の眞に尊きものは人爵にあらずして天爵に在る。故に人爲的爵位の到底人間の價値を表彰し得るものでないことは謂ふ迄もない。門閥や慢然たる社會的地位は、決して人間の尊貴を表するものでない如く、彼等の社會的功勞又は評價は必ずしも其人格と一致するものでもない。然しながら若し國家は社會生活を向上發展せしむる手段として、國民の或名譽心に訴へて奪勵心を培養せしむる爲めに、それは空虛でなく、眞に其人の功勞を表彰紀念する意味に於ての名實相伴ふ華族であるならば、其の功勞榮譽は眞に其人の人格の上に立つたるものであるから、社會の欣慕となり木鐸となる價値あるものである。恁くてこそ始めて華族なるものに眞の價値は生ずるのである。在來の我華族制なるものは此の點に於て一大缺陷が在つたと謂はなければならない。故に今日は全く此華族制度に一大改造を施して其從來の虛機に對して其生命を與へて遺らなければならない。即世襲華族制を廢して之を一代華族制となし、唯だ單に其れは金持なるが故でなく、軍人なるが故でなく、亦政治家官僚なるが故でもなく、國民の總ての階級職業等にも普く奈何なる國民でも此榮譽に與かる平等の機會を與へ、而して此華族なる名稱をして徒らに國民の猜疑嘲罵の的たらしめず、眞に國民の國家的純淸高潔なる其名譽心を喚起向上せしむるものに代らしめなければならないのである。恁くして始めて華族なるものは國民崇敬欣慕の的となり、社會の木鐸ともなり儀表ともなつて、其華族に一段の光彩を放つことは出來、國家に於ける華族存在の意義を明らかにするものである。今日の我國の華族は全く愚人にのみ其價値を有するものであつて、識者には何等の權威を與へ得るものでないのである。

上院制の意義

三　貴族院制度の改造

世界は今日階級政治の時代を脱して國民政治の時代に進むで來て居るのであつて、之が國民の意思を代表する即ち人民直接投票に據る二院制度の現存する理由なのである。けれども此の二院制度も實際は一院制度を以て其主なる目的とするものであつて、上院とか元老院なるものは、結局衆議院の一の補助機關に過ぎないのである。實に此の國民政治の理想は國民の意思を代表する議會政治に依つて、始めて其美果を結ぶことが出來るのであるが、我國に於ては此衆議院の外に貴族、官僚、富豪等の其特權を代表する貴族院あり、猶此の上に樞密院、元老院ありて、國家の事は總て此等の諸官府を通じて始めて有効なるものとなるのである。

我國の貴族院制度は是れ素と英國の貴族院を模倣せるものであつて、何等國民の意思を

代表せるものでない。其封建貴族の特權と、富豪、官僚を代表せるものに過ぎないのである。彼の英國は一九〇九年自由黨内閣の際、衆議院に於て一度可決した其財政法案を貴族院に於て否決せるに對し、下院の宿怨漸く此處に爆發して、之が上院の權能を削除せる國會法案（The Parliament Act）の提議となり、時の首相アスクイス氏は斷乎たる態度を以て上院は國民に服從せざる可らざることを言明し、一九一一年に於て、此間貴族反對派の幾多の波瀾重疊を經、遂に百二十四票の多數を以て可決し、宿年の上院權限縮少論は此處に於て、初めて實現せられたのである。其後英國の貴族院に於ては、法律、豫算案に對する絶體の否決權はないのである。唯だ僅に衆議院に於て可決したものに對して、之を修正する權利を維持して居るに過ぎないのである。米國の如きも其最初は一院制であつたのであるが、其後一八八七年新憲法の成立と共に、從來の一院制を改めて二院制と爲した、けれども此等は決して一部の特權を代表するものでなく、下院と同じく上院も國民の意思を代表するものである。即ち下院は各州の人口に應じて代表せられて居るものであるが、此上院は各州二名を以て其代表機關とするものである。而して其上院議員たる資格は下院議員よりも一層高き程度にあるもので其資格は、(一)九年以上合衆國の公民たること、(二)年齡三十歲以上、(三)選擧の當時其州に在住する者は是等を條件として居るものであつて、其任期は六年で、四十八州中九十六名の上院議員を選出して居るのである。

米國の上院制

佛國の上院制

佛蘭西は彼の革命後一八八四年に一院制度を實行したのであるが、其後第三次革命に於て、今日の二院制度と改めたのである。華此の佛國の元老院も米國と同じく國民の選擧に據るものであつて、各地方の自治市町村會議員の選んだ選擧人の間接投票に據つて選出せられるものであつて、其定員三百人と制限せられて居る。而して此被選擧資格は(一)四十歲以上の男子であること、(二)公民權を有すること、唯だ此二條件を内容として居るもので、全く此元老院は其地方の長老を以て充つる觀を以て居るのである。

我國の貴族院制

然るに翻つて我國の此貴族院構成の其内容を觀るならば、(一)皇族、(二)華族公侯爵は滿二十五歲以上、伯子男は全員の二分の一、互選制度、(三)勅選、(四)多額納稅者等であつて、全く是等の公侯爵議員は封建貴族の特權を代表するものであり、此勅選議員は主として老朽官吏を代表するものであり、又此多額納稅議員は單に富豪を代表するものに過ぎないのである。國民の意思の上に立つた、其普遍我の表家の或特權を代表するものである。國民政治の時代に於て、此の封建時代の階級特權政治を今日此の貴族院に未だ其殘影を止めて置くのである。是等を以てするも我貴族院の如く、何等國民の選擧に據るものでなく、又國民の意思を代表するものにあらざるものが、今日の庶民時代即ち國民政治の時代に於て、人民を基礎とせる衆議院と相對峙し、豫算法律に於て對等の權利を持つて居ると云ふことは、それ自身極めて矛盾撞着せるものであると謂はなければな

らない。其處に何等の有意義な合理的な要素を持つて居らないのである。勿論今日の我衆議院の如く、其實力奈何はしき時代に於ては、此貴族の勢力も強ち非難すべきものではないかも知れないけれども、兎に角、此の我貴族院制度の如きは、今日何處の世界にも現存して居らないのみでなく、衆議院と同等の權利の下に之を存置すると云ふことは、全く時代錯誤の無意義なものであると論結しなければならないのである。

そこで今日は當に此貴族院に大改造を要する時である。貴族院議員の其員數を減少することも其一でなければならない、其世襲の無意義なることも華族制と同一の論據によつて、否認すべきものである。而して亦終身たらしむることも、其弊害こそあれ決して利益のあるものではない。而して有爵者をして衆議院議員たらしむることも、人物經濟の上より當然必要であると謂はなければならない。加藤高明氏は子爵なるが故に、衆議院議員たるを得ず、原敬氏は平民なるが故に其首相に都合が宜いなどの如きは、哲學なき我國民には多少の光彩と價値を添へるものかも知れない、けれども是等は餘りに兒戯に類したものであると謂はなければならない。さりながら加藤子は華族なるが故に、今日の内閣の首相たることに不適當なりとするならば、其華族も今日は寔に禍なる哉と謂はなければならない。其から見れば原首相の華族の辭退も最も意義のあることで、今日の時代的處置であるといひたい。兎に角貴族なるが故に衆議院議員となつて、國事に鞅掌することは出來ないとす

改造の急務

るならば、其貴族院なるものは全く國家の廢物機關と同樣のものと謂はなければならない。

次ぎに此貴族院の一要素たる勅選議員は或點に於て有意義なものであるが、然し之れすら我國に於ては何等人選を意味するものではない。勿論此勅選議員の中には相當の人物も居ない譯ではない、此等の多くは官吏の廢物老朽を以てせるが如きは、新らしき我上院を觀念する場合に於て、無意味なものであると謂はなければならない。而して唯だ富豪なるが故の多額納稅議員の如きは、素より玆に論ずる迄もなく、全然其理法を過まれるものであつて、此の如きものは全廢するを以て至當としなければならない。而して今後の新らしい意味に於ての貴族院は、封建貴族や官僚又は富豪を一團とせるものでなく、衆議院の補助機關としての上院又は元老院として觀念し得る、是等貴族平民を問はず、國家の長老を以て之に參せしむる樣に改造しなければ、其處に吾人の理想とせる將來の貴族院なるものを見出すことは出來ないのである。兎に角以上の理由に依つて貴族院の本來の使命は米國や佛國の元老院と云ふ樣な意味に於ての衆議院の補助機關として意義を有するものであつて凡ての點に於て國民の府たる衆議院と同格の地位に措くは決して妥當なものでない。けれども我國の衆議院の如く國家に對する誠意よりも、寧ろ黨利本位若くは黨勢擴張の爲めの政略政策を以て他を顧みざる議場に於ては、政黨的偏見感情なくしては之を傾聽する價値なく、國家的誠意は却つて貴族院の少數の人に依つて發言せらるゝ事實を認めなければな

らない、是等より以てすれば我國に於ては衆議院の今後一層向上しない限りは、貴族院をして徒に無用機關呼ばはりするは早計である。況んや、此處四五年間に於て觀るに衆議院は唯黨爭のみを事とし、殆んど彼等の眼に國家なき狀を呈し、世人をして其衆愚の陋劣に或慊惡を與へしに反し、國家に對する至誠熱心は單り貴族院に於て保たれたかの觀があつたからである。

四　世界の政黨より觀たる我國の政黨

政黨存在の理由

(1)　**政黨に就いて**――政黨は國家の政治に參與する目的を以て結合する處の一の團體であつて、其存在の理由は各個人の意見を各事に發表するよりも、同一主義政見を以て糾合する共同團體に依つて之を爲すは、實際便宜であり優つて居るからである。而して亦人類の社會生活を爲すや、同一主義意見を有する者の、融合提携して共同動作を執ることは、是れ人間の自然的要求であつて、又本能であると謂はなければならない。若し此等政黨政派なるものなくして、各自分立の姿を取り、何等其處に主義政見の統一なく、融和なく、責任なく、慢然として各自抱懷せる意見のみを主張するならば、政治の運行を阻害することと謂ふ迄もないのである。故に今日我國の政黨の弊害を罵倒する識者の中にて、時に政黨の無用を主張する人さへないのではない。けれども人間の自然的本能と、又實際必要に迫つて自然的に政治團體の生ずる以上は、現在の既成政黨の善惡是非は別として、是等の悉く解散して、一人一黨的にならうとは勿論想像することは出來ないことである。

政黨と時代

そこで政黨は今日立憲政治を行ふ上に缺く可らざるものであることは、世界の等しく認め現在行ひ居る處のもので、最早其存在の必要奈何の問題ではない、然らば奈何なる政黨を以て吾人の理想と爲す可きか、是れ此處に於て究明せざる可らざる問題でなければならない。人類は常に進歩發展して熄まない。社會國家は駸々乎として常に新たならんとして居る。政治は常に此不斷の進歩の潮流に立つて、一日も凝滯してはならない。社會をして常に新らしきに導き、人心をして倦まざらしむる處に政治の要道はなければならない。故に其政黨はよく其時代と社會を觀破して、それに順應する主義政策を定めなければならないのである。若し其政黨の主義政綱なるものにして、實際其時代と社會に添はないものであるならば、それは眞に民心を代表するものではない。少くとも國民に基礎を置く人民の意思を表示する政黨と稱することは出來ないのである。それであるから政黨の眞の價値は眞に國民の意思を代表するや否かによつて決せらるゝものと謂はなければならない。而して各政黨は旗幟鮮明なる主義政綱を以て國家に臨み各黨員は悉く其政黨の主義政見に共鳴して集まるものでなければ、眞に政黨の價値はある可き筈はない。政黨は利害關係に於て結合せられたる徒黨ではならない。此等黨員は純乎たる政見主義を以て參加するものでな

政黨と黨員

理想の政治

ければ、其處に政黨としての意義も價値もないのである。若しそれは單に政治的でなく、物質的利害より集まる團結であるならば、其政黨は其處に何等の意氣抱負なく、怠慢、惰性、無能に陥入るは自然の數と謂はなければならないのである。

而して此の政黨は國民の其政治的意見主義に依つて種々の黨派は自然其處に起ることゝなるけれども、今日此の政黨の理想とせられて居るのは、嘗つて英國に於て行はれた彼のホイッグとトリーの如き、其後自由黨と統一黨となつたが、又米國の民主黨と共和黨の對立の如き、此等進歩派と保守派の二大政黨相分れて、互ひに相異なれる主義政綱を以て對峙し、相互に善美を競ひ、國民の輿論に訴へて政權を授受すると云ふことを以て政黨の理想的とせられて居る。けれども今日の世界に於ては米國の二大政黨を除いては、各國悉く主義政見を異にせる多數の政黨は分立蜂起して居る。米國の如きも近頃米國四十八州の勞働黨を糾合したる第三黨は出現して、這回の大統領總選擧の際には、此新政黨より其大統領候補者を出さんとした程であるが、內部の分裂より現在行難みとなつて居るのである。

英國と政黨

(2) **歐羅巴の政黨觀**——若し今此處に、歐洲二三國家最近の政黨の概況を窺知するならば英國に今日現存して居る其政黨は、統一黨(National Unionist Party)自由黨(Liberal Party)勞働黨(Labour party)シン・フェーン黨(Sinn Fein)其他無所屬の此等を含むものであるが、歐洲戰爭後一九一八年の總選擧の結果は、定員七百十名の內、統一黨は三百七十九名自由黨は百六十四名、勞働黨は七十五名、シン・フェーン黨は七十三名、其他無所屬十五名と云ふ各黨勢を示して居るのである。而して英國は彼の歐洲戰爭當時例の臨機應變主義は、ロイド・ジョージ氏の擧國一致の聯合內閣を組織して以來各政黨は漸く動搖を來し政府黨と非政府黨と云ふ二大分立の姿を爲して居る。勿論此の聯合內閣は戰爭當時便宜上組織せられたものであつて、平時となつた今日となつては甚だ無意義となつて居ることは謂ふ迄もない。そこで今日は在來の政黨の一大改造は行はれんとして居るので、ロイド・ジョージ氏(ラチックバーティ)ボナーロー氏等に依つて、統一黨、自由黨の大多數より成る新政黨は國民(ナショナルデモクラチック)主黨(バーティ)の名稱の下に企劃せられたのである。

自由黨の政綱

更に進むで彼等政黨の政綱を一瞥するならば、彼のアスクイス氏、ロイド・ジョージ氏に依て指導せられて居る自由黨は政治、經濟、宗教其他社會百般の問題に對し、國民の自由を尊重し、之を擁護するものであつて、勞働者階級に對しては同情厚く、民論を尊重して自治の觀念を奬勵擁護し、財政に關しては緊縮を旨とするものであつて、諸般の改良を斷行し、以て國民多數の福利を增進せんことを努め、外交に關しては專ら平和主義を以て其政策の骨子として居る。而して國民强制保險、愛蘭自治、選擧法改正の如き其政綱中の顯著なるものである。實際此の自由黨が政權を掌握して以來、社會改良に關する各種の法規を制定し、着々として其政綱を實行しつゝあるので、社會政策としては國民强制保險法など

を實施して、下級勞働者階級を救濟せる其功積顯著なものがある。而して此選擧法改正意見に於ても、從來の階級選擧法たる重複投票を廢して、一人一票の平等主義を支持し、貴族に對しても下院議員選擧資格を認め、大學特別選擧區たる特權を剝奪して、選擧資格の一大擴張を爲し、議會をして純然たる國民の代表機關たらしめんと努力して居つたもので、先年ロイド・ジョージ內閣に於て改正せられた新選擧法も、此自由黨の主義の大部分を實行したものと觀ることは出來るのである。

統一黨の政綱

次ぎにボナーロー氏やバルフォア氏を黨首とせる此の統一黨の政綱を觀るに統一黨は進步的急進的な自由黨より觀るならば穩健な保守的政見を懷抱するもので、從來の保守黨と自由黨との內、英本國と植民地との經濟的聯衡を主張し、愛蘭の自治に反對する、此等黨員の合併したるものであつて、在來の慣行を尊重して新規の改革を排し、宗敎と國權を重んじて、敎會及皇帝を擁護し、英本國と植民地と統一聯衡を圖つて、英帝國の繁榮を期すること、又就學兒童に對しては、有効なる宗敎々育を施し、貧民を救護して其境遇を改善し、關稅制度を改革して一方國民多數の收入を潤澤ならしめ、以て社會改良の實を擧げ、又海軍力の充實を圖つて、國防を完備せんとするが如きものである。而して社會政策としての勞働問題に對しては、自由黨と同じく勞働者の地位の改善を目的とし、國富の根源を枯涸せしむることなく、富の配分する方法を發見して、勞働者の賃銀を昇騰せしめ、財政

欠

獨逸の政黨

に於ては百六十四名と劇減して居る。之に反し彼の統一黨は一九〇六年には百五十七名、一九一〇年後には二百七十三名となり、一九一八年には三百七十九名と劇增して居るのである。けれども勞働黨は一九〇六年には五十一名であつたのは、一九一〇年には四十名と減じたのは、最近の總選擧に於て、七十五名と劇增して來て居る。此等より觀察すれば英國は大體に於て穩健保守的であると云ふことは出來るかも知れないけれども、勞働黨の漸次優勢ならんとする傾向も觀過することは出來ない。此總選擧後の補缺選擧には殆んど此勞働黨の勝利に歸して居るのである。

更に予は獨逸の政黨に就いて觀るに、獨逸は英國や米國の如く政黨は決して單純なものでない。極めて復雜なる多數の政黨は分立して居るので、若し今戰前の獨逸の政黨を觀るならば、一、右黨(Die Parteien der Rechten)(一)獨逸保守黨(Deutsch-Konservative Partei)(二)帝國黨(自由、保守)(Reichs-od, Freikonservative Partei)(三)經濟聯合(Wirtschaftliche Vereinigung)(イ)ブラウンシユワイグ・ハノーヴァー黨(Braunschweigisch welfische Partei)(ロ)基督社會政策黨(Christlichsaziale Partei)(ハ)獨逸社會政策黨(Deutsch soziale Partei)二、獨逸改良黨(Deutsche Reform Partei)三、中央黨(Das Zentrum)三、左黨(Die Parteien der Linken)(一)國民自由黨(Nationalliberale Partei)(二)進步國民黨(Fotschrittliche Volkspartei)(三)民主聯合(Demokratische Vereinigung)(四)社會民主黨(Sozialdemokratische Partei)四、地

欠

政黨と其主義

方派（Regionale Gruppen）(一)領域防護派（Protestler）(イ)波蘭黨（Polen Partei）(ロ)丁抹黨（Daren Partei）(ハ)アルサス・ローレン中央黨（Elsass-lothringisches Zentrum）(ニ)ローレン獨立黨（Una blängige othringische Partei）(二)部局的利益防護派（Portikuralisten）(イ)獨逸ハノーヴァー權利黨（Deutsch-hannoverscheRechtsPartei）(ロ)獨逸メクレンブルグ權利黨（Deutsch-meklembur gische Rechts Partei）(ハ)バヴァリヤ農民同盟（Bagerischer Bauernbund）(ニ)リタウ黨（Litanische Partei）**五、其他の諸黨**(一)地主同盟（Bund der Land wirte）(二)獨逸農民同盟（Deutscher Lauernbund）(三)ハンザ同盟（Hansabrnd）(四)獨逸中產協會（Deutsche Mittelstandsvereinigtms）(四)獨逸聯合（Deutsche Vereinigung）(五)獨逸國民同盟（Deutschen volks bund）

以上の如く獨逸の政黨は極めて復雜になつて居るのである。此の右黨とは即ち保守黨を指して云ふので、獨逸保守黨、帝國黨、經濟聯合、獨逸改良黨の總稱であつて、古い王黨政府黨として政府の政策を維持擁護して來た。此等の諸黨は猶太敎を排して、基督新敎を奉仕すると、在來の社會組織を維持踏襲して、急進的自由主義、社會主義を抑壓する點に於て、大體其主義を一にして居るものである。而して此左黨と云ふのは、國民自由黨、進步國民黨、民主聯合、社會民主黨を總稱するのであつて、信仰の自由、因襲階級の打破等に於て主義を同じうするものである。此等の中にて社會民主黨は最も極端なる急進的左黨に屬して居るもので、此等獨逸の政黨中社會民主黨は最も完全な模範的政黨と稱せられて

社會民主黨の政綱

居るものである。今此の社會民主黨の戰前に於ける政綱を擧ぐるならば、

一、民間經濟の發達に伴ひ、少數資本家大地主等の勢力益々增大し、勞働者は愈々悲境に沈淪せんとするの趨勢に向つて居る。文化の日に進步するは國家の慶事ではあるけれども、小市民農民等の下層階級が糊口の途を失ひ、薄倖、抑壓、虐遇の下に呻吟するが如きは看過すべからざる事實である。此の如くにして進まば貧富の懸隔を益々激甚にし、遂に兩者間に一大溝渠を築きて、相互に排擠するならば、其害毒實に恐る可きものはある。今に此弊害を除去し、下層階級をして塗炭の窮境より脫せしむることは、定に人類の一大責務である。吾人は其救濟手段として、彼等の權利と利益を伸張擁護し、彼等の奮鬪をして効果あらしめ、扶掖して其目的に到達せしむることは本黨の責務であつて、最大綱領たることを確信する。

二、勞働者階級の利害は各國共通なるを以て、吾人は他國の同志と相提携して、一致の行動を執らなければならない。

三、本黨は特種階級の特權を撤廢し、階級制度に基く全社會組織を打破する爲に、此目的を阻害せんとする階級黨派の民族に對しては、飽迄奮鬪を辭さない。

四、二十歲以上の獨逸國民は男女の別なく、選擧上平等の待遇を享受する爲に、選擧は直接無記名連記制度たること。

五、常備軍制を廢し、民兵制度を採用すること。
六、完全なる思想の自由を確保すべく、宗教は全く個人の任意にして、國家に於て何等干涉せざること。
七、公共の費用は累進的所得稅及財產稅制度に依り、之を醵出すべく、相續稅にも亦累進制度を採用すること。

間接稅の關稅其他或階級の利益を犧牲とせる經濟政策を防止すること。

以上は社會民主黨の綱領である。同黨は理論に於てはマルクス徒であるが、其活動、實行方法は彼のフエルヂナンド・ラッサルに依つて指導せられたもので、彼のビスマルク當時以來、奈何に獨逸の保守主義の政府と戰つて來たかは、彼の社會民主黨の歷史を播けば直に理解が出來るのである。而して此の社會民主黨は終始一貫勞働者の味方となつて、勞働者救濟を目的とせる社會政策の實行に、奈何に政府を鞭達督勵したかは顯著なる功績となつて今日現はれて居るのである。此社會民主黨は戰前既に獨逸の政黨中拔群せる最大多數黨であつて、一九一二年の總選擧に於て、全員數三百九十七名の中、此社會民主黨は百十名の議席を占めて居つたのである。而して革命後に於ても最近の調査に依れば、議員總數四百六十名中、社會民主黨は百十名、獨立社會黨は八十名、中央黨は六十七名、獨逸國民黨は六十五名、獨逸人民黨は六十一名、民主黨は四十五名、基督敎聯邦黨は二十一名、

社會民主黨の優勢

佛蘭西の政黨

ゲルフ黨は五名、巴威農民黨は四名、共產黨は二名と云ふ黨勢を示して居るのである。

佛國は一九一三年頃の政黨の狀勢を觀る時は、佛國の政黨は大體保守黨、共和黨、社會黨に三大別することは出來る。一、保守黨（Conservateurs）(一)立君黨、(二)加特力黨、(三)其他の保守主義者、二、共和黨（Republicains）(一)溫和共和黨、又は進步共和黨、(二)民主共和黨(三)急進及社會急進共和黨、(四)フラン・マソン社、三、社會黨（Socialiste）(一)統一黨、(二)社會共和黨。

戰後の佛國の總選擧の狀勢

極最近の選擧の結果に依れば總員三百五十名の中、左席共和黨は七十二名、急進派は三十名、社會主義的急進黨は三十五名、共和派社會黨は九名、合同社會黨は三十二名、非國敎社會黨は一名、進步黨は九十四名、自由派五十八名、保守黨十九名と云ふ黨勢を示して居るものである。

政黨の分脈

此等を以て觀れば今日純然たる二大政黨對立の姿を保つ國家は一國もない。多數の政黨は或は合從連衡の姿に依つて或は政府黨ともなり、反對黨ともなつて居るのである。此等の政黨は大體に於て國民の總ての階級を代表せるものであつて、之を保守主義、進步主義、急進主義の三種に分類して考へることは出來るのである。尤も此等は各國其事情、程度を異にして居るものであるけれども、英國の統一黨、米國の共和黨、佛國の立君黨、加特力黨の如き獨逸の右黨の如きは大體に於て傳統と慣例を遵守する保守主義の政黨である。又

英國の自由黨、米國の民主黨、佛國の共和黨、獨逸の左黨の如きは大體に於て社會主義的傾向を有する進歩主義の政黨であるが、英國の勞働黨、佛國の左黨、獨逸の社會黨の如きは、勿論是等は國々に依つて必ずしも同一でないけれども、社會主義、無政府主義を主張する最も急進的政黨であると云ふことは出來るのである。佛國や伊國の政黨は他國よりも頗る社會主義的傾向を濃厚に帶びて居るもので、伊國の最近の總選擧の結果を觀ても、社會黨は一大優勢な地位を占めて、伊國改造の中心を握つて居ると云ふ有樣である。

我國の政黨

(3) **我國の政黨觀**　更に進むで茲に我國の政黨を觀るに、現在我國にては政友會、憲政會、國民黨の三黨の外に是等無所屬に在る庚申倶樂部、無所屬を指すものであるが、其の黨勢を觀るに最近の改正選擧法實施後の大正九年五月の總選擧の結果に於ては、總議員數四百六十四名の內政友會二百八十四名、憲政會百七名、國民黨二十九名、庚申倶樂部二十五名、外に無所屬十九名と云ふ黨勢を示して居るものである。

我國政黨の沿革

而して今爰に是等政黨の沿革を尋ぬるに、政友會の起源は彼の官僚藩閥に反抗して起つた、自由民權の首唱者板垣退助氏に依つて指導結黨せられたる自由黨に其の前身を措くものであつて、それが後に政友會となり、議會開設以來常に我政界に於て優越の地位を保ち比較的穩健堅實を標榜して來りたる觀あるも、それが常に政權の支持者となるに從へ、其權勢を賴みて漸く橫暴となり吾儘となり官僚化した傾向がある。而して其の政策主義は何處

かと謂へば、現在資本主義に多く傾いて居ることは否定が出來ない。けれども現在野黨たる憲政會たりとて大同小異其の政見なり主義なりの其の分野を穿索する時は、矢張り資本主義に立脚して居るもので、不幸續きの腹癒せの民心迎合の何かである。是等は政治的信念主義より出づる聲でなく、彼等の偶々唱へる普通選擧も二三の人を除いては、腹の中心と云ふよりも寧ろ政權にあり就かんとする迄の羊頭狗肉策に過ぎないのである。其證據は這回珍品問題となつて是等を何より雄辯に語つて居るではないか。丹は兎も角今此の憲政會の沿革を考へて見るに、過去十年此方、即ち大正元年暮れ最終の西園寺內閣以來の政變は、我が是等の政黨に幾多の動搖變化を齎した。多年政界の闇礁たる二個師團問題にて西園寺內閣總辭職となるや、桂內閣の出現となり、爰に桂侯に依つて創設せられたのは、此の新政黨同志會である。而して此處に參加したものは大部分國民黨所屬議員であつた。而して政友會と國民黨とに依つて叫ばれた憲政擁護が、官僚と政黨とを以て揑上げた桂內閣を倒して、之に代つて現はれたのは政友會を與黨とせる山本內閣である。然るに之が海軍リヒテル事件の爆發となり、此處に於て政友會は山本內閣の擁護派と非擁護派との二分派に分れ、之が尾崎氏一派の政友倶樂部を見るに至つたのである。此の政友倶樂部と同志會の合同せるものは、即ち今日の憲政會なのである。故に黨政會の本來の成立を吟味する時は、桂侯の懷柔の下に官僚と政黨の結合したるものであつて、政黨的眞の色彩を持つて居

つたものでない。故に當時世間より兎に角多年民黨の功勞者として押すも押されもしない河野翁や島田氏を官僚閥族に降れりとし、又は桂侯を利用するものなりとの二樣の見解は降されたのであるが、幷は何れに在るとしても、國民の一般は當時或は現在も一種の不可解と疑惑の眼を以て眺めて居るものに相違ない。故に其後政友會は山本内閣當時より可なり横暴な秕政を行つて來ても、それは必ずしも國民の歡迎する處のものでないけれども、兎に角今日迄飽きられ乍らも民心をより多く維いて來た譯であらう。又此の憲政會の一分子たる國民黨の前身はと謂はゞ、大隈侯の創設した彼の改進黨に基を開いて居るので、それが後に進歩黨となり、今日の國民黨となり、又其の一部は更に憲政會となつた譯である。故に黨の系統より觀るならば、憲政會よりも政友會は單一純白なる要素を備へて居る。然るに憲政會は國民黨の刷新派と政友會の一部との意氣と主義の合同せるものと觀られない譯でもないけれども、實際は官僚の野心家と政友會國民黨の不平分子の慢然と桂侯の牽引力の下に集合せるものであるから、桂侯死後以來は漸く其政黨に分裂解體を生じ、元勳大石氏後藤氏等の脱退を初めとして、最近忘れ可くもない我が政界の元老にして憲政會の首腦者たる尾崎氏島田氏の連袂脱退せる。素より是れ憲政會の爲めに大なる損失であるけれども、黨の成立より考へても、亦黨の主義政策の上より觀ても、例へば尾崎氏や島田氏の如き進歩派と、其他の資本主義的色彩を濃厚に帶べる或要素を内容として居る處より觀れば

國民黨憲政會解體の理由

政友會の結束

今日其の主義の整理上恁く分裂するは當然のことであつて、最初より其の解體は期待せられてあつた。是等の歴史的墨痕を國民の腦中に印刻した以上は、從來の主義の整理と最つと際立つたる誠意とを國民に見せない限り、優秀なる政黨となつて政友會に拮抗することは困難であると、吾々は思惟しなければならない。然らば此の政友會は憲政會の缺陷を補つて居るかと謂へば、勿論之には首肯することは出來ない。政友會は此の結束と云ふ方面より觀るならば、其處に甚だ見上げたものがある。けれども政友會の結束とか一絲紊れずとの美名には、其内容に一大瑕瑾のあることを知らなければならない、それは謂ふ迄もなく、此の政黨の結束は政治的主義政見より來たものでなく、利を見て集まるもの丶情弊として必ずや其處に意思なき屈從、無能と頑守が在るからである。政友會獨特の幹部一任は即ち是なのである。黨議は二三の領袖に依つて決せられるので、各黨員の政見なり聰明なりは其黨の政綱政策には現はれて居ないのである。故に政友會は單に黨勢擴張にのみ汲々として、其候補者の能不能を詮議する迚はないのである。唯だ彼等は黨利の爲の金權候補者と、其黨擴張の爲めの有權者懷柔策を行へばそれで今日の彼等の目的は達して居る。犬養氏の統率する國民黨に至つては資本主義にも遠慮し、さらばとてプロレタリヤの味方となつて堂々立つの勇氣もない。至つて旗幟の不鮮明な割合に潑溂さが缺いて居る、何時も空威で鳴つて居る其勇氣は健げであるとしても、最つと何んとか時代的新精神を吸込まぬ

國民黨と時代

限は、其黨の蔭には或寂しい光りは漂つて居ないであらうか。

我國政黨の政綱

次ぎに予は我國の政黨の政綱に就て苦言を發しなければならない、とは何等其處に確固不動の主義政見の現はれて居る政綱を觀ることは出來ないからである。政黨の主義を表示すべき是等我國の政黨の綱領は政友會、憲政會、國民黨何れも大同小異漠然たる抽象的文字を以て飾られて居る、何等其處に確固不拔の一貫した主義政策なりの横流して居ることを認むることは出來ない。故に此處に集る黨員の素より主義政見を以て參加する理由はない。唯だ慢然たる感情と利害に依つて離合集散するものが、即ち我國の政黨觀であると結論しなければならない。

我が政黨の內的觀察

現代の政治は當に專制政治の時代より貴族政治の時代を過ぎて、庶民政治の時代に進むで居る。即ち特權や階級の政治の時代でない。國民全體の政治、民衆政治でなければならない。故に其政治の手段たる政黨は國民に基礎を置く國民の意思を代表するものでなくてはならない。若し之れが時代後れの政綱や、國家の或特種の階級を代表する政黨であるならば、それは專制時代封建時代に適合しない政黨であつて、少くとも今日の時勢の要求する政黨でないのである。然るに我國の現存せる政黨は果して國民に基礎を置き、國民の意思を作表するものであらうか。予は遺憾ながら之に對しては、我政黨を謳歌することの出來ない一人である。何んとなれば我國現在の政黨の其政策奈何を彼等の政綱に於て之を觀る時は單にそれは曖昧なるものなるのみならず、資本家階級の上に立つたるブルジョアを代辨する金權政治の一手段となつて居るからである。歐米諸國の政黨は旗幟鮮明なる主義の上に立つて居るけれども、我國の政黨は主義政見の凝結したものと考へることは到底出來ないから、あらゆる國民の階級と社會を代表擁護するものと觀ることは勿論出來ないのである。若し予は強へて我既存政黨を歐米の大陸的例に倣ひ之を右黨、中央、左黨の三派に分けて考へる時は、政友會は概して傳統と慣習を重んずる保守主義の政黨と觀ることは出來又憲政會は中央黨又は進歩主義の政黨と認め、國民黨を急進派と見做すことは出來るかも知れない、けれども、我國は歐米大陸のそれの如く其處に明確なる主義信念を此等の政黨に依つて見出すことは困難である。何んとなれば我國の政黨の主義主張は甚だ不鮮明曖昧であるからである。唯だ其時々に民衆と社會に迎合して、新らしきを裝ひ政權の獲得に焦心せる、今日の憲政會に於て明らかに見られる事象である。故に此等から云ふならば、彼等政黨に其主義政見の其處に何等の軒輊の在ることを發見することは出來ない。此等野黨憲政會や國民黨に何處に英國の自由黨や又は勞働黨、獨逸の社會民主黨の如き確固たる主義の下に、民衆の味方となつて、庶民階級の爲めに、勞働者の爲めに、プロレタリヤの爲めに、社會より虐げられた弱者の爲めに、往時の貴族やブルジョアに依つて造くられたる其特權擁護の社會制度の改造を目的として邁進奮鬪した政黨はあるであらうか。今日何處に英國

歐米の政黨と我國の政黨との比較

の自由黨や獨逸の社會民主黨に依て捷利を得たる社會政策的勞働保險や、廢疾不具少年者に對する救濟方法などを、一度も注意し彼等の爲めに努力した政黨を是等の中に見出すことは出來るであらうか、予は現在の憲政會や國民黨に此を期待することは勿論出來ない。であるから予は彼等を皆悉く大同小異ブルジョア階級に立つた政黨であると謂ふを憚らないのである。實に我が既成政黨は何づれも國民を基礎として立つて居るものでない、少くとも庶民階級勞働者、無資產階級を擁護代表するものでない。國民の意思の具體化したものでもないのである。實に我國には社會黨も勞働黨も生まれて居らないのである。彼等は實に政黨の爲の政黨であつて、政治の爲めの政黨でない、否な國民の爲めの少くとも庶民を代表する政黨でない、彼等政黨は主義の分野でもなければ、又政見の集合でもないので、彼等の巧言令色は羊頭狗肉の手段であつた。新時代に自覺した新國民は新しい理想と期待を是等の政黨に措くものでなくてはならない。最早彼等の詭辨と不眞面目には信賴することは出來ない。而して今日は新文化に基調せる、民衆の味方としての、庶民政治に適合せる新政黨の出現を翹望して居るものである。從來の政黨は其誠意のなきことに於て、不熱心なる點に於て、資本家を代表せる點に於て、明確たる政綱主義なき點に於て、國民の意思を表明せざる是等の諸點に來て或缺陷と脆弱さを持つて居つた。之が國民より新國民よりは時代遲れとして嫌惡と侮蔑を以て眺められて居つた譯である。

新時代の要求する政黨

(4) 新政黨の樹立を望む

新政黨は實に是等の總ての弱點と缺陷を補塡賠償するものでなければならない。此の國民の一大要求に對し滿足なる解決を與へるものでなくてはならない。而して人類の進歩と社會の進化に立つて、人類の其の過まらざる方向を指導するものでなくてはならない。政黨はあらゆる國民の意思の普遍化したものでなければならない。社會の少數階級の擁護者代辨者ではならぬ。資本家や上層社會や或一部の職業を代表するものでは到底社會の總合的發達を期することは出來ない。藝術家や女子や勞働者も、其の政黨の主義政綱中に考慮せらるゝ政黨でなければ、今日の新時代の要求する政黨ではないのである。而して國民政治の基礎の上に立つて、常に新らしき道に向つて新文化を指導するものであつてこそ初めて今日の庶民政治に適當して居るのである。予は此等より考へて從來の舊政黨即舊時代に據る舊社會の要求に依つて生まれたる此等の政黨は、果して新時代新社會に添ふ準備なり用意は出來て居るのであらうか。恐らくは今日擁する彼等政黨の其の政綱は生命なき一片の空辭に過ぎないものでなからうか。其政綱や因襲なりは悉く是等政黨より振撼拂拭せられて、新時代的新生命に甦らなければ其處に新政黨の意義と價値はないのである。今日は將に當に我國政界の一大革新期であらねばならない。此等舊製の政黨の一大刷新を要する秋である。封建時代や閥族時代や資本主義の時代より、國民主義、庶民主義の時代に目覺めなければならない時代である。國民總意の上に立つた、其普遍我

外紙の我政黨評

の上に立つた、民の聲は是れ神の聲であるを眞實社會に現はす、其輿論政治の時代でなければならない。而して此輿論は最もよく此政黨に於て表現せられなければならないのである。政黨政治は實に此處に於てのみ其意義と効力を有するものである。

曾つて神戸のクロニクル紙は先年憲政會に於げる尾崎氏の普選問題に對する態度に言及して、日本の政治家は國家よりも政黨に重きを置くが故に、國家の大問題を決する場合に於ても、黨員の自由意思を尊重せず、唯だ黨議を以て黨員を拘束することを非難して居つたが、吾人の觀る處に從つても悉く尾崎氏の行動を是認するものではないけれども、政黨は宜しく政策に對する大綱を統ぶ範圍を以てして、各黨員の政見を悉く拘束すべきものでないと惟ふ。日本の現在の政黨の如く黨議の拘束に重きを置いて、黨議に服從するを絶對條件とするが如きは、全く個人の聰明を蔽ひ、人間を機械視する最も拙劣なる手段である。殊に國家の重大なる問題に對しては、唯だ少數の幹部に依つて建てられた黨議に據る其政黨の政綱政策を以て決するが如きは、國家の百計を樹つる所以でない。殊に普通選擧の如き國家の重大なる問題にして、各人其理解を異にするものに對しては、單に黨議に依つてのみ決するが如きは、未だ其當を得たるものでないと惟ふ。實に恁くの如き重大案に對しては議員の一般投票に依るか、それでなくとも國民の意思に從ふことに遺漏あつてはならない。政黨は要するに國家の政治を行ふ其の一の方便手段に過ぎない。政黨は決して國家

政黨の弊害

本來の目的でない。けれども我國は今日恰も此の政治と政黨を轉倒して居る。殊に政友會の如きは國家の憲法よりも、其政黨の政綱を尊きものと惟つて居る。實に彼の外紙の批評の如く、國家よりも政黨を重しとして居るので、是れ我國民の理知なき盲從より來る一の病的缺陷であるかも知れない。

而して又政黨は國家と云ふよりも黨利政權に汲々として焦心苦慮する結果、政黨は院内又は院外に於ても、正々堂々たる主義政見の爭ひでなくして、甚だ確固不拔たる主義信念が現はれて居らない。此等主義なき政黨に之を望むは、素より不可能であるかも知れないけれども、兎に角、唯だ感情的な私事的人心攻擊の如きは極めて拙劣なる野卑なる方法であつて、苟くも一世の人格を以て任じ紳士を以て立つ議員の議會に於て、神聖なる議場は惡罵嘲罵の卷と化し、毎年鐵拳の見舞ふが如きは、實に國民の選良を以て成る我帝國議會の議場の神聖を瀆しものである。此等議會たる者宜しく政見を提げて、堂々國民に訴へ、政見を以て他の政見を降服せしむる處に、言論の意義彼等の意氣と抱負は在るではないか我衆議院に、帝國議會に、否な我政界に、金力にあらず、鐵拳にあらず、此言論の尊重せられ權威を有するに到らざる迄は、民論の府たる我帝國議會は優秀なる其眞價を發揮することは出來ないのである。而して亦此の些々たる黨派感情を以て互に相反目嫉視し或は單に政權を得るに唯急にして國策と大計を誤るならば、それ國家の損失極めて大なるものが

歐米政界の美擧

我國政治家の缺陷

在ると謂はなければならない。這回の歐洲戰爭に際して、彼等英、米、佛の如きは、全く平時の黨派的私情意見を放棄して、舉國一致の美擧を執りたるにも拘はらず、我政界は此戰時を得たりとして、政黨は單に政權の獲得に汲々たる結果、政變に次ぐに政變を以てし、與黨と野黨は互ひに我を立て睨合爭鬪に追なかりしが如きは、奈何に我政黨に其美點を發見せむとするも、是れ全く出來ないのである。是等は實に大局の利害に眼なき小國民の爲す處にして、而かも大國民を以て自ら任ずる我國民の爲す可きものでないのである。

五　我國の政治家を奈何に觀る乎

予は我國民の思想や國家の制度慣習の改造覺醒せられない間は、吾々の理想に適合せる眞の政治家を今日我社會に期待することは、或は殆んと不可能の事であるかも知れないけれども、從來の我國の政治家は之を奈何に善意に解しても、時代錯誤の政治家たることは蔽ふことは出來ないのである。政黨は其主義よりの結合でなく、唯黨の擴張にのみ熱中腐心し、金力を背景とせる金權候補者のみ議員の資格ある以上、又政治を以て自家の職業の爲めの方便として敢いて怪まない間、而して國家の政治をして、一種の虛榮機關の府として、之を遊戲視し玩弄視する間は、勿論我政界に眞面目なる意氣抱負を有する潑溂たる候補者なり、代議士を物色することは不可能であるかも知れない、けれども、國家社會は何時ま

將來の政治家の任務

英國議會觀

でも時代錯誤の封建思想を夢想して因襲と舊慣にのみ浸つて居る時代ではあるまい。政治を遊戲視する時代は封建時代か專制主義の呑氣な時代のことである。政治を玩弄視するには今日の國家は餘りに多岐復雜多忙を極はめて居る。現代の政治は實に世界的一個の事務であり、參謀であり、經綸でなければならない。唯だ議員は三個月の開期中、議場の空席を塞くばかりは、彼等議員の能でも職責でもない。實に今日は一個の政治家としてのみでなく、國民のサーヴァンドとして自覺し、社會國家の經綸者として、世界文化の指導者を以て任ずる處に、今日の政治家の使命なり目的はなければならない。各議員は悉く國民の意思の代表者となつて、意氣抱負を以て壯んに經綸を行ふ處に眞の國民政治議會政治の眞價は發揮せられるのである。然るにそれは今日の如く政黨は唯單に無能議員を多く刈り集めて、他を默殺して一二の人に依つて總ての事を決裁するならば、それは少數政治專制政治と何等異なる處のないものとならざるを得ない、奈何に我政界は此等の不熱心なる職業政治家や無能議員に依つて、實際政治は放慢亂雜無責任に打捨てられて居るかを、吾々は觀知せざるを得ない。一八五二年頃より二十四年間の英國の議會史は、彼のグラットストンとヂスレリーの龍虎相搏の壯觀と謂はれて居るが、奈何に彼等は連年彼の英國の議場に於て、熱辨火花を散らして戰つたかは、或時彼のヂスレリーが揮身の心血を濺いで案出せる農業保護の或る豫算案を議場に提出するや、辨難囂々深更に至るも熄まず、ヂスレリーの其演說

の終つた時は、正に當日の拂曉二時頃であつたと謂はれて居る。我國の日比谷の議場には、反對黨に對する感情的復讐より、時として鐵拳の飛ぶことは珍しくないけれども、斯かる誠意と熱心の籠つた緊張した其の議場を觀ることは出來やうか。又嘗つて英國の植民大臣スタンレーは、英領植民地に於ける奴隷使用廢止決議案を時の議會に提出した時、前の殖民次官ホルウイック卿は之を以て緩漫なる嫌ひありとし、例證として西印度地方なるジョン・グラットストンの田園に於ける奴隷の死亡率の多き事を述べた時に、當時議場に列席して居つた二十五歳の一青年立つて、奴隷制度は全廢すべきも、猶相應の準備と適當の賠償を要す、予は實に正義人道宗教上の問題として、此議案に大なる興味を感ずるものであると而かも眞摯に大膽に述べて席に下つた。是れ誰あらう後に自由黨の首領となつて、八十歳以上に至る迄民衆の味方となつて英國の政界に千古磨せざる功績を積むだグラットストンの處女演說であつた。我國に彼樣な眞摯な眞面目な政治家は何處に居るのであらうか。而して彼樣な二十五歳の處女演說は其議場に於て、何等の支障なくして意思を發表し得られるのであらうか。英國の議場にては、初舞臺の處女演說に對しては、殊更に敬意を拂ひ、タトヒ其處に多少の脫線失敗はあつても、終始讃辭拍手を以て迎へると云ふ謙遜的美擧は行はれて居るが、我議場に於ては果して此等の光景を目擊することは出來るであらうか。斯かる眞面目と熱心とがあればこそ、國民は其議會を信賴尊敬し、又帝國の立法府たる議場は、內に意氣抱負を以て輝く選良を以て、國の內外に睥睨することは出來るのであらうけれども、我國の現在の如くアルコールの力を借りて檀上に登り或は鐵拳の橫行し、彌次の跋扈する議場に於ては、國民は奈何に彼等を色眼鏡にて見るも蔑視こそすれ、尊敬する筈は勿論ないのである。奈何に議會は其神聖尊嚴を云々するも、今日の如き內容を有する我議院に於ては、其眞價を發揮することは出來ないのである。勿論此議員の能、不能は國民の能不能に在るので、國民全般の覺醒を俟つにあらずんば、其處に吾人の期待する理想する政治家の出現する理由はない。此等は一に選擧民の自覺に依つて始めて、實行され得べきものである。

社會と政治家の關係

而して予は政治は國家社會の總てに關聯するものであるから、總ての社會の階級職業を代表するものでなければならない。從來の政治家は主として辯護士、實業家、新聞記者に限られて居つた傾向があつたが、今後の政界はあらゆる階級職業より、其代表者たる人を選出して、國家の政治其立法に萬遺憾なきことを期さなければならない。政治は決して法律家や金持の占有でない。彼等に依つてのみは其理想を發揮し萬全を期することは出來ない。宜しく今後は學者も、文士も、畫工も、職工も、僧侶も眞に誠意と抱負があるならば、皆此の立法府に參與する機會を得なければならない。縱令彼等直接政治家たらずとも、此等の階級職業に理解同情ある代表者を選び出す必要がある。從來の如く法律以外に何物をも

哲人政治

理解せざる、又は金勘定以外に何等の思考を有せぬ人々に此貴重なる政治を獨占せしむるが如きは實に國家の無智無能を曝露するものでないか。プラトーは哲人政治を高唱したのであるが、出來るならば此哲人に增した政治はないのである。政治家たる者此プラトーの理想政治家たる哲人でなくとも、少くとも多少哲學を解し、人生問題に興味を有する眞摯な眞面目な政治家の出現を吾々は熱望して止まないものである。實に歐米の政治家には彼樣な人々は澤山出現して居るのである。今我國の政治家に之を期待することは出來ない。予は常に神を敬す天下畏るべきものは只神あるのみとして、上帝に敬虔を表したビスマルクやグラットストンの如き又リンコルンやクレマンソ、ロイド・ジョージ、ウイルソン諸氏の如き、彼等は一面政治家であると同時に他面實に哲學を解し、藝術を理解する思想家である。斯の如き眞面目なる眞摯なる政治家に依つてこそ、貴重なる國家の運命、國民の生命を託することは出來るのである、けれども、唯一片の法律以外に何等人生に理解なき政治家や、待合狂ひに豪を誇る彼等政治家に、國家の運命や國民の貴重なる生命を委託するが如きは、實に甚だ危險なものであると謂はなければならない。實に今日は東洋的英雄を誇る時代ではない、眞摯な、眞面目な、哲學を解し、宗教を知る、人生問題を考へる、節操ある、正義ある、自信ある。勇氣ある、大膽なる政治家の出現を期待しなければならないのではないか。

富豪階級と脫稅問題

社會政策

六　社會政策の樹立

現在の我政治的施設は富豪階級に利多く、貧民階級に少い或傾向を持つて居る。是等其の一端として上層に厚く下層に薄い何よりの證據は、上層の富豪階級に脫稅となつて現はれて居るからである。近く澤代議士に依つて調査發表せられたる東京市内に於ける宅地外土地に對する此等脫稅者は、而かも輦轂の下、歷々たる一流の富豪又は華族である。時勢の自然的結果は國民に一方生活難は刻々に迫り、四方に住宅難の聲頻りに起つて居るにも拘はらず、此等富豪華族は處々に宏大なる家屋庭園を有し居り、剩へ一方に脫稅を敢てして居るが如きは、時代に餘りに矛盾の甚しき現象ではないか。而して政府の此等脫稅を公然と知りながら、之に對して何等適當の施設方法を講ぜざるが如き、當局の等閑怠慢の程も一驚せざるを得ないのである。而して他方下層階級を觀るならば、其衣食住すら覺束なき實際納稅の能力なき者に過分の課稅を負擔せしむるが如き事實も目擊するに苦しまないのである。是等果して何に起因して居るのであるかと謂はゞ、是れ政府の課稅の不公平、其正鵠を得ざる缺陷より原因するものと謂はなければならない。今日此等法規の不完全其他の缺陷より、此等納稅に對する國民の負擔は、或は脫稅となり、或は偏重となつて、國民に公平なる課稅は行はれて居ない。從來の我稅制の課稅の標準は、累進法に準據して、

的課税の必要

可及的納付能力に適應せしめんとするものであるけれども、此は單に各階級間に於ける負擔の衡平を期せんとする迄であつて、何等其處に社會政策的な立案は樹てられて居らない。産業革命以來生産集中と企業集中は自然貧富の階級を激增し、全く今日はマルクスやエンゲルスの杞憂ばかりでなく、社會に是等貧富の懸隔を益々激甚にし、殆んど此等兩者を救濟することの出來ない迄に貧富の運命は決定せられて居る。いくら勞働者は朝から晩まで粉骨碎身して働いても、暖衣飽食する資本家に追付くことは出來ない。此等社會問題の發生する當然の結果であつて、今日是等に對する緩和方法最も必要なる秋に於て、而も一面に富豪階級に脱税を許容し措きながら他面下層階級に對して苛斂誅求すると云ふが如きは、さなきだに危險思想の發生せんとする社會狀態をして益々惡化に導くものである。

危險思想の防止策

此等反動思想として起れる社會主義者勞働運動者に對しては、唯單に高壓的手段に訴へて之を防止せんとするも、それは何等是等を除去し得べきものでない。ビスマルクは當時獨逸の社會主義者の跋扈して居つた時に、隨分思ひ切つた壓制や箝口策を講じ、他方に勞働保險法など制定して、社會主義者の緩和慰撫に努めたが、是等は社會主義撲滅には何等の効力は無かつた。兎に角今後社會の趨勢は此儘に於て進むならば益々貧富の懸隔を激甚にして、生活の脅威を感ずる國民の大部分は危險思想の抱有者となつて所謂社會の一大階級闘爭は行はれなければならないことになる、此等を未然に防ぐには、國家は此等の貧富の調和を圖り危險思想の發生を防止する爲に勞働者の不具癈疾老齡を慰案する適切な設備や遊民の徒を救濟する方法を講じ、或は保險法等を制定して是等の窮貧を救濟する方法としての社會政策を行はなければならない。國民の生活程度や納付能力を適確に調査吟味して、下層の負擔を出來るだけ低下し、上層の負擔を或適當な程度迄釣り上げ社會政策的課税方法を執るは今日の當に時勢の要求するところのものである。今日の如く國民生活の急迫した場合には、其實際必要な生活以外の贅澤物に對して即奢侈税として其他種々の課税方法を設くるも又其一策であると謂はなければならない。兎に角從來の課税法の如く、一方に脱税を許し、下層に重く、富豪に輕いやうなことでは、決して今日の時勢の默過することが出來ないのである。實に此危險思想は社會の生活の脅威より起つて來るのである。此危險思想の發生を除去する唯一の方法は、國民生活の安定を圖ると云ふ事を先づ第一に必要とする。それは從來の如く弱者虐めの我が俸給制度を撤廢して、少くとも國民の生活を保障する最低俸給制度を定めなければならない。我國の富豪商人は往々公共心と社會道德の缺乏せる爲め、他人の迷惑不幸も顧みず、唯彼等自身の營利慾を滿さんが爲に、時代の趨勢を是れ得たりとして借家人に對しては家賃の不當の値上げを强要し、又は吾勝次第に不當の暴利を貪つて、恬として耻ぢざる如きは實に今日の我社會の現狀であるが、彼等の社會的良心の痳痺せるを今更指摘するも及ばざる處であるけれども、是等は從つて國民思

社會道德の一大缺乏

想を惡化せしむる培養を爲すものであれば、我國の如き一般國民の道德の幼稚なる國家に於ては、宜しく國家的權威と施設を以て彼等の虎狼より是等の窮民者を救濟する方法講ずる必要はある。即公定價格を設けて奸商の不當の暴利を防止することも其一策である。

七　文明と解放論

國家の起源と階級の發生

(1) 何故の解放運動か――ルソーが惟つた樣に最初の國家の始まりは或は契約の樣なものから次第に發達して來たものであるかも知れない。何んとなれば國家の最初の起源は部落と云ふことを想像せずしては考へることは出來ないからである。けれども之は歷史的事實ではない。然るに國家は漸次擴張發展して、征服と合同に依つて漸次今日の如き大國家に迄進むで來たのであるが、國家の一番の最初には現在の如き種々の階級と云ふものは無かつたに相違ない。それが段々に發達するに從つて、是等國民の中にて制服關係に因る强者は自然社會的特權を支持して其後門閥とか階級を作る樣になつたのである。我國の如き大化の改新前後に於ける蘇我氏、物部氏、藤原氏の如き、其後封建時代となつても同樣、鎌倉幕府の創立より江戸幕府の大政奉還となる迄は、北條氏とか豐臣氏、德川氏の如き、氏族政治とか閥族特權は國家に現はれて居つたのであるが、此等と共に社會に於ても士農工商の如き種々の階級は作られて居たのであるが、此等の階級は全く封建社會を背景として生まれたものであつて、決して永續性を有するものではなかつたが、此等が王政維新に於て根本的に覆されて、四民平等主義なるものは實現されたので、此封建的特權政治は覆滅せられたけれども、未だ社會から此等封建時代に養はれた階級思想は絕滅せられて居らない。而して今日の世界は人類の同一通則によつて改造を强要せられて居るのである。國家は總てに於て平等と云ふことに目覺めて居る。而して個人の解放より國家の解放に迄叫ばれて居る。實に此等の解放は社會の合理化に入る要路であつて、不自然なる人爲的社會生活に對する自然的社會狀態の要求である。從來の封建的特權とか不平等を崩壞して社會を平等化せしむる使命を持つて居るものである。解放は決して破壞を意味するものでない、强者が弱者に對する其特權に對して、人類の平等を要求する文明的人道的武器である。未だ文明の進步せざる時代に於ては、社會は强者に對する弱者、權力者に對する屈從者となつて現はれて居るけれども、文明が進步すればするほど、正義と眞理は個人の平等化と人格主義に向つて進むで來るのである。文明は實に强者や權力者の物でない、正義と人道の上になければならない。ニイチエは個人主義的立場より强者道德を主張し、唯だ人生を以て是れ征服と降服あるのみとして、此世界を戰鬪狀態に見、又荀子、ホッブス、ダーウヰン、ヘッケル等の如き、是等は人類を性惡的見解より人間の本性の一部分鬪爭性のみ觀た謬見であると謂はなければならない。マイト イズ ライト ではない、正義は力となり權力と

解放は破壞を意味しない

ならなければならない。此のニイチエ主義の國家はホーヘンツオルレルンに於て、ロマノフに於て、ハプスブルクに於て滅びたではないか。

プラトーの婦人觀

(2) **婦人の解放**――婦人の解放は實に古代の希臘に於て始まつて居る。プラトーは大に婦人の能力を尊重した一人で、婦人の能力は決して男子より劣等なものとして觀て居らない、唯其體力に於てのみ差別を認めて居つたのである。けれども因襲的權力に反抗して、弱者の味方となつて、古代より此虐げられて居つた婦人や勞働者の解放の先覺者は何んと謂つても彼の救世主キリストを指さなければならないのであらう。彼の馬太傳の第十章には何と書いてあるか、「地に泰平を出さん爲に我來れりと意ふ勿れ、泰平を出さんとに非ず、及を出さん爲に來れり、夫わが來るは人を其父に背かせ、女を其母に背かせ、媳を其姑に背せんが爲なり、人の敵は其家の者なるべし、我よりも父母を愛む者は我に協ざる者なり、我よりも子女を愛む者は我に協ざる者なり」と、此等キリストは奈何に當時の因襲と家族制に對して憤懣の情を抱いて居つたかと云ふことは分かるのである。實にキリストこそは此近代文明の解放運動の先驅者であることを吾々は注目しなければならないのである。其後十六世紀に於ける婦人解放の先鋒はオリンプ・ド・グージュでなければならない。彼は婦人の權利の宣言をして曰く、「婦人は經濟的にも社會的にも政治的にも男子と同權たらざる可らず」と主張した。佛國の哲學者コンドルセーや英國のヒッペルも熱心な婦人の解放

キリストの婦人觀

グージュの婦人解放

ミルの婦人解放論

論者であつた。此等はフランス革命以前に於ける婦人解放運動であつたが、十九世以後に於ては、婦人を最も尊重せる米國の婦人運動となつて現はれた。而して是れは漸次英國に移つて、彼の有名なジョン・スチアルト・ミルに依つて壯んに此婦人解放論は唱道せられたのである。彼の著「婦人の屈服」は今日尙婦人解放論者の金科玉條として信奉するところのものである。而して彼は一八六七年には婦人選擧權同盟會を組織したのである。ミルの婦人に對する見解は、人は生れながらにして支配服從の關係、地位の上下あるべきものでない。男性の女性に於ける優越權は、是れ人爲的傳習の結果であつて、悖理的社會の制度である。而かも此の如き關係は長き歷史の行程に於て、益々女子の能力を痿痺沈滯せしめ、殆んと救濟す可らざる宿命的境遇に陷入らしめたもので、かくては此の人類の一半たる女子の能力を壓抑して、其人類の能力の一半を損し、人類の文化と其進步を阻害することを極めて大なるものはある。故に女子を速かに解放して男女同權の基礎の上に社會制度を樹てゝ、人類全體の福利を增進せしめなければならないとは、是れミルの婦人解放の根本觀念なのである。佛蘭西に於ても十九世の半ばに於てテブーレーに依つて婦人解放は提唱せられ、其後組織せる解放運動となつたのである。獨逸の婦人解放運動も十七世紀頃より起つて居るが、獨逸の此等の婦人運動は政治的方面よりも、經濟問題、敎育問題の範圍に於て行はれて居つた。

テブーレーの婦人解放

イブセンと「人形の家」

而して文藝の方面に於て此の婦人解放運動を穿索するならば、十七世紀の後半彼の有名な諾威の文豪イブセンに依つて「人形の家」となつて現はれた。ノラは最も自分に親切な一人の良夫と、三人の愛兒を有する最も和氣靄々たる家庭の或若き美しき主婦であつた。けれども一朝忽焉として己れに歸つた時のノラの心持は何んであつたか、彼は一日其良夫のヘルマに向つて曰ふには、「貴方と同棲して此處に八年、少しも幸福を感じたことはない、否、唯だ愉快であつたばかりである。貴方は妾を愛して呉れた、けれども妾等の家庭は、唯だ或遊戯室に過ぎないので、妾は唯だ家に在りし時、父の人形の子であつた如く、貴方の人形の妻に過ぎない。貴方の妾を抱いて、之を遊戯するは、恰かも妾の子供等を取上げて、以て嬉戯すれば子供等の喜ぶと、同し樣に妾にも嬉しきものであつた。けれども此等は妾等の夫婦關係であつた」と。自分は最早人の妻たり子たるものでない、ヘルマと同じく人類たることを信じ、又自ら人類たらんことを試みんとて、其樂しき家庭を捨て、愛する良夫と子供を捨てたと云ふのは即ち此の人形の家のノラである。奈何に彼のイブセンは當時の家庭に於ける婦人の境遇は、唯だ男子の權力に屈從する、男子の道具であり、人形の如く生命なきものであるかを、此の人形の家の戯曲に於て諷刺して、新らしい婦人の自覺を、此のノラに依つて現はしたのである。予は敢いて此のイブセンの戯曲を借りて謂ふのではないが、今日我が富豪又は貴族の家庭に於て、今日は三越明日は歌舞伎、帝劇と思

ズーデルマンの「故郷」

ふが儘に浮世の快樂を娛むで居る婦人にして、果して是等に對して眞に自分の幸福と滿足を感じて居る者は幾人あらうか。内に在りては夫の愛に、外に在つては貴婦人として、浮世の快樂に何不足なき此婦人にして、一度其家庭より其社會より離れて、靜寂なる天地に已れの本然の性を默想した時に、人類として人間として一個の女子として考へる時に、其處に果して眞の滿足と幸福を感ずることは出來やうか。其處に人生として　人間として、弱きものとしての、女子としての悲哀と不滿はないのであらうか。

彼の獨逸のズーデルマンの作「故郷」に現はれて居るマグダも、ノラの如く醒めたる新らしい女であつた。彼女は保守的な父の選むだ良夫にして牧師なるヘフテルデインクトを嫌ひ、自分は父の許をも得ないで勝手に歌妓の群に這入て居つたのであるが、之と知りて父はマグダに勘當を與へた。其後マグダは處々方々浪流して居る中に、彼女の非凡な其天才は發揮せられて、名聲頗る高き歌妓となり、其が或日自分の故郷の音樂堂に往むで、彼女の妙技を演ずる段になつたのであるが、此時其正直なる牧師のヘフテルデインクトは舊怨を忘れて、此の親子の和解に努めたので、マグダは自分の父と遇ふことゝなつたのであるが、此兩者の意見は根本的に異つて居つたので、其融和を見ることは却々困難であつた。父の惟ふにはマグダは前非を悔いて、爾後自分の親權に服從するであらうと思つて居るが、マグダの方にては自分の今日これ迄に才能を發揮して知名の音樂家となつたのも、局

りは父の意見に背いて隨意に自分の欲する處に從つたからである。何んで今更父の赦免を乞ふて、親權に從ふ謂はれはないと。而してマグダは密かに故郷に於ける其狹隘固陋なる思想を嘲笑し侮蔑した。自分の兩親の家に歸り來れるを恥ぢた。而してマグダ惟ひらく、自分は兩親に仕ふる念を強くすればする程、藝術家たる自分は益々劣れる者とならねばならないと。而して後にマグダは父の意に背いて、父の知己ケルレルと情を通じ、子迄ある仲となつたのである。此等は新舊思想の衝突であるが、若しマグダは因襲に從つて、唯だ家庭に於ける女子として子としての、所謂婦德を行つて、父の親權の下に絶對服從しなければならなかつたならば、其非凡な天才を發揮して自分も滿足し、世間をも悅ばせる事は出來なかつた。そこにマグダの人間としての人類としての堪へられざる悲哀と懊惱はなければならない。女子に對して絶對服從を强ゆる我社會に於て家庭に於て、果して此悲哀と煩悶は隱れて居ないのであらうか。女子に何等人格的人間的主張權を與へて居らない、我社會我家庭に於て、弱き者よ、汝の名は女なりに仇名されて、其個性は無慙に埋沒されて居るのでなからうか。若しミルの謂ふことは正しいものであるとするならば、而して其文化の一半を婦人をも之を負ふものとするならば、我社會の如く全く女子を驅逐して居る場處に於ては、彼等女子の能力は宿命的に痿痺沈滯せられて、從つて人類の能力、文化の進步發展を阻害して居ること甚大なるものがあると謂はなければならない。

我國社會と女性

東洋の女子に對する偏見

シヨウペンハウエルの婦人觀

東洋殊に支那の如きは此等女子を侮蔑するも甚しいもので、全く女子を男子の道具か物品の如く見做して居るのである。今日は全く歷史的に女子に對する此等の觀念は固着して殆んど救濟すること不可能なる迄に達して居ると謂ふても宜しい。外面如菩薩、內面如夜叉とか、又は女子と小人扱ひ難し、接近れば馴れ遠かれば恨むとか、女子は汚れたる者、成佛し難き者とか、皆是等は東洋的女子に對する或迷信偏見より來た恐ろしい呪ひの辭であると謂はなければならない。而して女子も此等の偏見を宿命的に觀念して、自ら安じて此辭に滿足し居る傾向がある。故に我國の女子の覺醒は、此の因襲思想を根本的に覆へして、新しい空氣に甦らなければ從來社會の弱者として打捨てられたる女子を人格的に救濟することは出來ないのである。最もいくら女子最負の西洋たりとて勿論、皆々女子の讃美者ばかりある譯でない。最も多く東洋思想の影響を受けた彼の獨逸の哲學者ショウペンハウエルなどは女子に對して、極て皮肉な觀察をして居る。「矮小なる肩の狹くして腰の廣い脚の短い者を美なりとするは、畢竟性慾に曇らされたる色眼鏡で見るからだ。女子は自身が美しくないから、美に對する觀察も少いもので、一見美を好むが如く見ゆるのも、實は人の氣に入られやうと思つたり、或は人眞似する虛榮心の結果に過ぎない」と。古代に於てもヒポクラテースやアリストートルは女子を目して不完全なる人間と謂つて居つた。予は何時ぞや西洋の本で、婦人は長髮を有する不可思議なる動物である、と云ふ辭句を見た

聖書と佛敎に現はれたる婦人

ことがある。舊約全書の卷頭に神は最初アダムを神になぞらつて造つたが、其後アダムの肋骨の三本を取つて、女に造つたのはイバであることを書いてある。佛敎も女子を濟度し難きものにして居るけれども、成佛の出來ぬものとは勿論謂つて居らない。兎に角何んと謂つても婦人に對する福音は、キリストの思想を中心としたる西洋から來て居る。東洋の婦人觀は全く彼等女子に對しては痛々しい打擊である。此等の傳說は全く女子を罪深き者とか穢れたる者として打捨てゝ居つたので、此等は全く東洋的偏見から來て居るものと謂はなければならない。故に此等は原因となり、習慣となり、惰性となつて、遺傳的に還境性に從つて婦人は益々劣等に退步して、其宿命的生活に安んずる樣になつた。故に此等東洋の女子に對する人爲的抑壓主義は社會的に女子を自殺せしめて居るもので、之が即ち我國の婦人は歐米の婦人の如く潑溂たる生氣のない何よりの證據で、亦社會的に活動して居らない現象なのである。

歐米と婦人

歐米では今日奈何なる方面に於ても婦人の要求するが儘に社會は開放して、自由に婦人の能力を發展せしめて居るので、種々の方面で男子と競爭拮抗すると云ふ狀勢を呈して居るので、文學者、藝術家、新聞記者、學者とか凡ての社會に於て、其非凡な能力を發揮して居る者である。而して今日は政治界にランキン女史とかバーンカスト女史の如き婦人政治家迄現はれ、英國や米國では女子の秘書官すら決して珍しくない現象である。實に彼等歐米社會は單に男子のみを以てせず、性的に於ても徹底的に社會は門戸開放を行つて居る。之を何事も抑壓的な消極的な偏見的な東洋國家より觀るならば、何んと謂つても彼等白人は其公平なる點に於て、襟度の廣い點に於て、見上げたる處はあると謂はなければならない。

女子の國家的功績

彼の偉大なる政治的手腕を振つた露西亞のカザリン二世、英國のエリザベス女王、ヴイクトリア女皇の如きは、最も婦人として優秀なる能力を發揮したではないか。佛蘭西ドムレミーの一少女ジャンダークは其纖弱なる身を以て、危き祖國を救つたではないか。ナイチンゲールは奈何に神の如き尊き心を以て、世に雄々しき活動をしたかは、今日尙ほ不朽に傳はる所のものではないか。日本でも楠公の妻とか光秀の妻の如き女丈夫とか賢母とか云ふものは現はれて、奈何に良夫の成功を助けて居るか知れないのである。

我國將來の婦人の地位

兎に角、予は彼のプラトーの觀る如く婦人の能力に於て差別を置くものでないが、其體力に於て必ずしも男子と同一でないから、婦人をして必ずしも男子と同一の境遇と地位を得させよと云ふものではないが、彼の歐米諸國に反して、婦人の自然的發達を殊更に止どめて、人爲的に宿命的に打捨て置く婦人に對しては、飽迄解放を叫ばなければならない。而して東洋的因襲思想に依る其過まれる傳說や僻見は其權威を失ふ迄は、婦人の自覺を喚起すると共に、男子の專橫な特權を覆さなければならない。而して婦人は從來の奴隷的屈從的境

遇より脱して、個人的にも、家族的にも、社會的にも、國家的にも、人格者たる自覺と地位を得て、人間として、人類として、其主張を獲得しなければならない。從來我東洋否日本の婦人は過まれる傳說と因襲の爲に禍されて、宿命的に痿痺沈滯せしめられて居つた。然し今日は將に此等より解放せられて、完全なる一個の人間として、人格者として、個人的にも、社會的にも其地位を向上し轉じなければならないのである。

勞働者解放の起源

(3) **勞働者の解放**——勞働者の解放は婦人の解放と同一觀念の下に之を考へ得べきものである。今日勞働者の解放は此の婦人解放と同樣に世界的運動となつて來て居る。此の勞働運動も其起源はと謂へば、極めて古い歷史を持て居るのであるが、其一番最初古代の希臘羅馬に於ける奴隷制度に於て現はれて居る。即ち征服者たる貴族と被征服者たる平民又は奴隷の間には、絕えず社會的鬪爭は行はれて居つた。アテネーに於ては紀元前三〇九年に四十三萬一千の全人口中四十萬の奴隷が居つたと云ふことである。コリントに於ては四萬の市民が六十四萬の奴隷を使役して居つたと云ふのである。羅馬に於ては奴隷制度は蠻族征服者の間に行はれて居つた。英國に於ても彼のノルマン入寇後約百年迄は此の奴隷制度は存在してあつたのである。而して此の奴隷制度は漸次農奴制度となつて現はれたのであるが、英國は十八世紀になつて此の農奴制度は消滅したのであるが、他の諸國に於ては十九世紀頃まで存在して居つたのである。リンコルンやアレキサンダー二世の奴隷解放は、全

農奴制度

勞働團體的運動の起源

く人類の尊き使命たる人道の上に立つた偉業であつた。而して十八世紀の產業革命後資本主義制度は賃銀勞働者となつて、此處に近代の勞働問題は起つて來たのである。此勞働者の團體的運動は夙く既に古代及中世期に其端を發して居るのであるが、此の橫暴强慾な資本家に對する結束した運動方法として組合を組織したのは、米國に於ては一八〇三年に初めて紐育の船大工組合となつて現はれた。而して英國に於ては一八七一年に勞働組合は組織せられたのであるが、十九世紀以後は自由思想の旺盛なるに伴れ、此等勞働運動は各種の組合組織が行はれて、益々優勢なものとなつて來た。而して今日はサンヂカリズムとかソーシアリズムと相呼應して、從來の抗爭目的たる勞銀乃至時間の問題より更に一步を進めて、社會政治組織の改造に迄進むで來て居ると云ふ狀態である。而して更に國際勞働組合は組織せられて居るので、實に今日の勞働運動は單に國家間の問題でなく實に世界的の問題となつて居るのである。

勞働の價値

從來社會は此勞働を蔑視して、金力と知識を過重するに至つたのは、奴隷制度以來の因襲思想と、近代文明の齎らしたものである。予は敢てナイヒリズムに陷入る譯でもないが人類の社會生活に於て一日も缺く可らざるものは此勞働である。而して此の實際價値ある神聖である可き勞働價値を輕んじて、無爲徒食して居る非人格的な貨幣と知識のみを過重すると云ふ事は、決して正當なる理論でもなければ、又人間に對する正解でもないのであ

る。何んとなれば若しも此世界より知識や貨幣よりも此勞働を失つたならば、全く人類の生活は停止しなければならないことになるからである。然るに社會は實際此價値ある人格的な勞働を輕んじて、資本と知識を過重せる結果は、非理非道を働いても富さへ之を捷得れば、或は國民の最高の榮えある華族の地位迄進むことが出來、いくら人格なき者でも或知識有れば、之が人より尊重せらるゝとは、社會的評價の大なる矛盾ではないか。故に實際金や知識は其人間の價値を定め得べきものでないことは謂ふ迄もない。經濟上の勞働價値はアダム・スミスやリカードに依つて確立せられて居る。カントはルソーに刺戟されて此う云ふことを考へて居つた。「自分は性向から謂ふならば學究的である。知識に對する熱望と之に依つて進歩しやうとする不安と、或は亦凡ての進歩の喜びを感ずる。嘗ては自分は此等のことが人類の榮光を爲し得ることを信じた時代があつた。而して自分は何も知らない庶民階級を蔑視したが、ルソーは其過まれる自分を直した。自分は此人の目を眩ます特權は消滅する、人を尊敬することを學び、而して若し自分は此の考へ方が人類の權利を改新する價値を凡ての他の考へ方に與へ得ることを信じないなら、自分は平凡なる勞働者よりも遙かに無用なものでなければならない」と。是れカントのルソーの思想に影響せられたる實感である。

勞働者の文化的に地位の向上せざる原因

勞働者と雖も一個の人間であり人格者である。人間として觀る場合に、資本家、勞働者、知識階級の此等に對して何等區別ある可き筈はない。けれども人類の文化は今日此の如き階級と區別を建てなければならなくなつた。彼等勞働者たりと雖も、資本家や知識階級の如き境遇と機會だに與へられるならば、文化的地位を得ること勿論出來るのである。然るに近代の資本主義制度は、此の資本家と勞働者の間に全く相融通せざる溝渠を築いて、權力者と屈從者の雇傭主從關係を生じたのである。マルクスやオウエンの考へた樣に、一方に勞働者は額に汗をして、二六時中間斷なく働いて居つても、其得る處は最低限度の生活すら出來ないのに拘はらず、他方資本家は暖衣飽食坐して暴利を貪りながら、酒色に戲むれて居ると云ふ、甚だ非人道的矛盾した奇現象は現はれて居る。それが故に勞働者は掠奪者として社會より葬られて、彼等は凡ての文化的機會より逸出せられて居る。

ハウトマンの「日の出前」

一八八九年伯林のレッシング座に於て上演して、端しなくも觀客の物議を釀した、自然主義者であつて、亦時代の啓蒙作家であつた、彼のハウトマンの日の出前の人物アルフレットトロートを此處に紹介して觀やう。彼は社會主義的思想を有する經濟學者であつて、現代社會組織の非理矛盾に對して、强い憎惡と反抗を抱いて居つた青年であつた。彼の頭には常に此う云ふ思想は往來して居つた。「自分は萬人の幸福の爲に戰爭をする、自分が幸福になる爲には、自分を取り圍む凡ての人が幸福にならなくてはならない。自分の周圍の社會に疾病や、貧窮や、抑壓が行はれてゐることは奈うしても忍び得ない所である」と。而し

て彼は額に汗して働く者が饑餓に苦み、歌留多と女に戯るゝ者が富裕に暮すと云ふ奇怪なる現象を默忍することは出來なかつた。そこで彼は飽迄此社會の不合理と因襲に對して鞏固なる反抗を試み、新思想を宣傳し、婦人や勞働者の解放に任じたのであるが、或時彼のロートは社會問題研究の爲め、近頃炭鑛の開けて有名となつた彼のウイッツドルフの村に行つて、土の底に深く這入て働いて居る鑛夫の生活狀態を調査することゝなつて、不圖したところから、彼の舊友ホフマンに出遇ふことになつて、彼の家に數日間逗留することゝなり、それが何時しか此のホフマンの義妹のヘレーネと云ふ若い娘と近しくなり、彼女に自分の抱懷を打語る其會話中に此う云ふ興味ある事が書かれてある。ヘレーネにゲーテの「ウエルテルのわづらひ」を、あれは馬鹿な本であると言つて、ダアンの「羅馬の戰ひ」をお讀みなさいと進めて、ヘレーネを驚かしたロートは、更にヘレーネのゾラやイブセンをあれは偉い作者であるかと訊くのに對して、ナアにあれは必要の際に用ゐる毒藥で、ゾラやイブセンの與へて呉れるものは病人の飲む藥であると應酬して、ロートは美しく朝露の輝いてる果樹園に眼を走らしてゐたが、今太陽が赤々と山の端を登るのを見て、其美觀を讃美して止まなかつた。そして枝もたわゝに實つた果樹園の赤い寶玉を賞美し、田舍生活の悠々を推賞した。そして吾々の樣に激烈な戰ひをやつて居る者に取つては、此う云ふ日光や新鮮なる空氣は他一倍必要であると謂つた。之に對してヘレーネは、「さう仰ると私

ロートとヘレーネの會話

ロートの社會評

共は戰ひはしてゐないといふのですか。私だちたつてこれでも戰ひをしてゐましたよ」と謂つたので、更にロートは、「そりや無論でせう、然し貴女がたの戰ひは終る時がありますが。私のは生涯の戰ひです。貴女がたのは單に個人の幸福を得んが爲の戰ひだと謂つても可い。けれども僕の戰ひはあらゆる人間の幸福の爲めの戰ひなのです。僕が幸ひならんとするには、先づ僕の周圍の貧乏や病難を取除いてからでなくてはならないのです。謂はゞ僕は一番最後に食卓に就かうといふのです」

ロートの其高潔な思想に感激しながら興味を以て聽いて居るヘレーネに、更に彼は特異の社會問題に氣焔を轉じた。「汗を垂して働く者が饑に迫つてゐるに、惰け者が却て贅澤な暮しをしてゐると云ふのは不合理ではありませんか。平穩の際に人を殺せば罰せられ、戰爭の折に人を殺せば賞せられるといふのも亦矛盾でありませんか。また慈悲忍辱の基督敎を國敎として居りながら、皆兵主義を取つて國民全體を悉く殺人者に造り上げると云ふのも、亦理屈に合はんではありませんか、此う云ふ矛盾の例は數限りもなく現代にはあるのです。此矛盾不合理を正して行くには非常な勞力を要します。それに早く著手しなければ之に間に合はない事です」と、彼は尙も幾多の社會制度の無盾缺陷を指適し更に此う云ふ事を語つた。「人を殺せばどんな事情があるにせよ、必ず犯罪として罰せらるゝものだと彼は信じて居つた。ところが同じ人類でも比較的緩和の方法を以てすれば、法律上罪に陷ら

ないで濟むといふ奇怪なる現象を彼は發見した。或石鹼工場に傭はれてゐた職工は子供が八人もある上に、自分は不治の肺病に罹つて居つた。此上工場に居れば病は愈々募るばかりであると醫者に注意されたけれども、此處を出ると他に就職する處はなし、眞先に生活に苦めらるゝ怖れがあるので、彼は病弱の體を押して出勤して居つた。工場主は病身の職工を置いたのでは割に合はないが、特別の好意を以て彼を置いてやつた。處が八月の怖しく暑い日に、彼は衰弱した體を石炭車にもたせかけて、あいぎあいぎ車を押して居つたが、遂うとう持ちこたへられなくつて倒れて仕舞つた。口は喀血して一面紅がにじむで居つた。家へ運ばれない中に、彼は最う息を引取つて仕舞つた。それからもの〻一週間ともた。工場主は特に彼を勤務さして、彼の生活の保障を與へてやつたのだから、主人の方から見れば大なる恩惠を施した譯である。然し果して之は恩惠であらうか。吾々が日常用ゐて居る一個の石鹼に對して、此んな悲慘な裏面が潜むで居ることを誰が知らう。之を思ふと、烏渡綺麗に洗つた手を見た丈でも、堪らない程苦しい思ひが浮むで來る」と。此等は平日抱いて居るロートの所見をヘレーネに語つたものであるが、新らしい時代新らしい人生に目覺めた彼の青年ロートの眼には、現在展開せられて居る社會の凡ては、文明とは唯だ名ばかりで、實際は獸慾と我利の跋扈する醜惡なものであらねばならなかつた。さて自分の家のみだらしのないきたなきを少女ながらも嘆いて居つたヘレーネは、其高傑なる理想の高いロートに對して、そゞろに想ひを寄せて居つたのであるが、遂に此の二人は戀仲となつたのであるけれども、ロートは切なる彼女の心に背いて、遂に此の舊友ホフマンの家を去ると云ふのは此の日の出前の大體の筋書であるが、奈何に彼のロートは新時代に於ける社會を背景として生まれた、其解放運動に任ずる、一の青年であつたかと云ふことは分かる。

我國と勞働運動

是等ハウトマンにしても、亦イブセン、ズーデルマン、ヅラにしても彼等は新時代に目覺めたる新思想自然主義の立場より其因襲的社會に對する強い反抗は彼等の藝術となつて社會の啓蒙運動に從つたのである。

さて轉じて若し此等の勞働問題を今我國に於て觀るならば奈うであるか。個人主義な人格主義な西洋では飽迄個人を解放しなければ止まなかつたが、我國の如き階級的東洋道德は、資本家や富豪に取つては何よりの防衛であつた。而して此等の階級觀念は權力者と屈從者となつて、何等の主張と理想なき勞働者は、全く非人道的な資本家の無理なる强要、即過重な勞働と低廉な賃銀を以て、宿命的境遇に安んじて何等敢いて不滿を抱く處がなかつた。勿論それが不滿不平が在つたとしても彼等には何等主張する權利も力も乃至後援者も無ければ、彼等は永久に因襲と慣習に屈從生活をしなければならないのであるが、それ

が歐洲大陸思想の齎した福音が、是等勞働者の多年の宿命的生活に新らしい意氣と生命を與へたのである。實に我國の勞働者の解放運動は全く極く最近のことで、大勢思想に餘儀なくせられて、世界人道の其強い叫び聲に依つて、世界の後援に依つて起つたものと觀なければならない。彼の歐米は十九世紀の初め頃より、勞働問題は社會に叫ばれて居つたにも拘はらず、我國に於ては此等に對する一人の先覺者、彼等弱者の境遇に同情する一人のハウトマンも彼のロートも現はれなかつた。是等勞働者の慘じめな非人格的な其境遇に對して或聰明なる觀察を降す者はなかつた。封建的因襲思想は是等勞働者を世の弱者として侮蔑して而かも敢いて異を挿挾む者は一人もなかつた。而して彼等の慘じめなる奴隷的境遇を積極的に救濟して、資本家の横暴貪慾に對して慧眼を有する者は一人もなかつた。實に我國には一人のマルクス、ラッサル、エンゲルス、オウエン、ゴットウイン、ルイ・ブランは居らなかつたのである。若し我國に於ても一人のオウエン一人のラッサルは居つたならば、當時或紡績會社の工女の如き、兩親より賣られて遠く工女生活を爲す彼等憫れなる少女等の多數は全く牢屋の如き幽閉生活に、年ならずして肺患に冒され、求めて短命となるを聞かば、奈何に強い抗議は是等資本家に向つて放たれたかに相違ない、けれども、我國の過去には遺憾ながら皆な資本家擁護、資本家崇拜ばかりであつて、一人も其社會の弱者たる薄幸な虐げられたる彼等勞働者に對して、蔑むこそ知れ味方となり後援となる者は一人も居らなかつたのである。是れ今日迄我國に於ける勞働問題社會問題の絶無なる所以である。是れ我國の封建的階級因襲思想に依つて支配されて居つた結果であつて、彼等勞働者は單に僅に溫情とか主從とか云ふ名目の下に、個性とか人格を全く無視せられたる奴隷的境遇に甘んじなければならないと云ふ狀態に措かれたのである。故に是等の因襲惰性は今日未に我社會に殘つて居るものであつて、それが歐米の勞働者より我國の勞働者の智能、常識、體質等總てに於て劣弱なる地位を持つて居る所以である。是等勞働者の其無氣力なる生氣なき確信なきは、全く是等社會的宿命と因襲的屈從に慣れたる結晶なので、勞働者の地位人格の向上進歩せざるも全く之が爲めなのである。而して之が今日未だ彼等は資本家の横暴より脱することは出來ず、依然として社會より一種の無能底弱者として觀られて居る譯なのである。

勞働者に對する自覺

實に此の勞働者解放運動は全く西洋の齎したものであつて、彼等の文化的創見自覺に基くものである。此等の頑强に執着した其因襲思想より彼等勞働者を救濟して人間的な人格的な個性の自覺を喚起せしめ、社會的に彼等の地位を向上せしむるは素より容易の業でないかも知れない、けれども最近我國も漸く世界の大勢に動かされ、多數識者の後援の下に、一方に資本家の横暴に對し、他方勞働者の地位の向上に向つて種々の方法手段も講ぜられつゝあるのであるから、我國の勞働者もやがては立派な自覺された人格者としての地位を

得るに到るは明らかであるが、社會も階級的因襲思想より離れて、從來の金力、知識の偏重主義より去つて、人格の尊重に進み、勞働の價値、勞働の神聖を眞に自覺するに至り、是等の將來に蟠る社會問題勞働問題を根本的解決をしなければならないのである。

○世界の進歩人類の文明は實に不平等より平等に目覺め不自由より自由に蘇生しつゝある。過去の其偏重や特權は現代の文明に依つて、悉く之を解決し整理しなければならない。我國社會の男子の偏重や貴族や資本家の特權は是れ過去の封建的因襲思想に其根抵を措くものであるから、是等を倒壞消滅せしむるは、是れ新思想に向つて封建的形骸を脱する所以であるから全く今日の時代の使命であり、目的でなければならないのである。恁くするには實に是等男子より女子の解放、資本家より勞働者の解放は今日我國の當然執らなければならない問題であつて、之を解放し改造するに依つて、初めて新文化の基調に立則することは出來るのである。

八　軍人萬能の崇拜より一轉せよ

軍人萬能の弊

封建時代は武士の跋扈せる社會であつたが、明治の御代も軍人萬能の時代であつた。而して大正の今日は將に新らしい人類の文明に新正面を打開しなければならない秋である、けれども、尚未だ我國家は此軍人萬能の弊より脱することは出來ないのである。國民より

軍國主義の終焉

苛斂誅求した國費の大部分は、此陸海軍の國防費即軍艦と師團の增設に仕向けられて居る。而して政府の上には軍閥と云ふ頑强な最高の政府が存在して、奈何に輿論とか、代議政治とか、民本主義を高唱しても、それは此國家の運命は此最高政府即ち軍閥に依つて支配され指揮せられなければならないと云ふことは、果して今日大勢に順應する所以であらうか。國民喝仰の目標たる文官や學者や政治家や藝術家の何等紀念すべきものは其處にないけれども、此軍人の銅像は到る處に威かめしく建てられて居る。軍人の遺靈を慰むる招魂社はあるけれども、シエークス ピヤとか ナイチンゲール夫人を忍ぶウエストミンスター・アーベーは我國にはない。我國は楠公や西郷の銅像はあるけれども、近松や馬琴を追慕する其處に何物もない。斯くして我過去も現在も閑燥無味なものとなつて居る。而して國民の崇拜と憧憬は此の劍を以て立つミリタリズムに集まつて居る。大和魂は是れ封建時代の武士の如く、唯だ劍を提げて戰へばそれで宜しいと思つて居つた。然しながら這回の世界戰爭は是れ何に所因して居るのであるが、スパルタ的プロシヤ的スラヴ的なミリタリズムに原因して居つたではないか。勿論彼等は這回の戰爭の直接原因ではない。けれども彼等のミリタリズムや軍備擴張は是れ何んの爲めに執られたのであるか、彼等軍國主義の國家は競ふて表面にては防禦と云ふ美名を飾るであらうけれども何んが爲めに國民の負擔を重くして迄も此巨大な軍艦と師團を增設して軍備を擴張しなければならないのであるが。

各國の我が國家觀

是れミリタリズムの本統の精神はイムペリアリズム、侵略主義、領土擴張のアンビション以外に何を目的として居るのであるか、プロシヤ、スラヴの本統の精神は开は何物であるか。而して此五個年の長期に渡りての世界戰爭に於て得たるものは何んであるか。一國の經濟を疲弊に導いて迄も軍備を擴張して獲たる其物は果して何物であるか、ホーヘンツオルレルンやロマノフの其のミリタリズムの目的は達せられたのであらうか。其所期の希望は果して實現したのであらうか。彼等は巨億の資財と巨萬の生命を犧牲にした以外何物も得て居らないではないか。ウイルヘルムとザールのミリタリズムは此んな儚ない空想であらうとは神ならぬ人の知る由もないのである。獨逸のバクダート鐵道、露西亞の東方政策は果して何を目的として居たのであつたか。然しながら戰爭を正義なりと主張する好戰者は別者として、神は常に正義の味方となつて居ることを知らなければならない。劍を持つて立つ者は劍を持つて滅ぶると云ふ諺は全く這回の戰爭に於て證明したではないか。內外の憎怨の的となつた彼等ミリタリズムは、平素武力なき國家の爲めに見事に破滅されて仕舞つたではないか、而して戰後の今日の世界は捷利者も敗殘者も共に〳〵此の戰爭の罪惡の爲めに極度の頭痛と苛嘖に懊惱して居るではないか。而して今や世界は我帝國をして東洋の獨逸、ミリタリズムとイムペーリアリズムの國家として、猜疑と反感の眼を以て視て居ることは、最早一點の疑ひなき事實となつて居る。亞米利加のサガレンや浦鹽に對する手強い抗議は何んであるか。濠洲の盛んに黃禍を叫んで居るのは何んであるか。若し米國が軍備擴張をするならば、それは我國に對する軍備擴張であると思はなければならない。兎に角我帝國は過去一世紀に於ての世界に於ける獨逸の運命の如く、四面楚歌の包圍の裡に置かれて居るは事實である。軍國主義と好戰國民と猜疑する彼等に、飽迄正義を愛する平和を好む國民たることの確信を擧動に於て證明してやらない迄は、永遠に彼等の誤解を解くことが出來ないのであらう。

國民憧憬

戰後の國際聯盟は是れ世界平和の土臺を造り上げたるものである。而して此國際聯盟は今日未だ完全なるものとはなつて居らないけれども、人類文明の使命目的を完うする爲には、我國家も勿論卒先して此等の完成に盡さなければならない義務がある。戰爭は是れ罪惡であるけれども、競爭は是れ正義である。國民は武器を以て戰爭を以て國家の問題を解決する間は、未だ蠻風を脫したと云ふことは出來ない。將來の文明國家は、宜しく劍を以てゞなく、正義に依つて勝利を得なければならない。實に戰は正義なりと主張する福音は過去に於て滅びた、文明に於ての平和に於ての劍でなければならない。而して世界の國家は此武裝を脫ぐに至らない限りは、世界の地上に眞の文明と平和を齎すことは不可能であり、亦期待することも出來ないのである。

實に今日の世界は秀吉、義經、ジンキスカン、フレデリツク、ナポレオンの時代でない。

の目標の一轉

英雄崇拜否な武人崇拜の時代は最早遠き過去に退いた。今日の文明は當に正義と人道を目標として進む心的英雄を要する時代でなければならない。ワシントン、フランクリン、リンコルンの時代であらねばならない。而して過去の武器を此正義に更へて世界の凡てを解決しなければならないのである。此正義の武器こそは今後の最も偉大なるミリタリズムであつて、最後の勝利を得る何よりの武器であることを吾々は確信するものである。我國家は宜しく武力萬能の時代錯誤の妄想より覺めて、過去の軍人萬能の崇拜より一轉して、正義としての人道崇拜に向はなければならないのである。而して我最高政府の軍閥と、我が陸海軍は積年の因襲的我を折つて、デモクラシイに降伏し、軍人萬能の偏重國家より國民平等の國家に轉化しなければならない。文明は其究極の目的に向つて時々刻々進歩して寸時も停滯して居らない。此時代と環境に從ふは實に是れ適者生存の目的を完うするものと謂はなければならないからである。正義の武器に隱れて侵略を夢むるは過去の時代である。今日は眞正面に正義を武器として進まなければならない時代である。何んとなれば世界には國家に於ける如く、「公論」と云ふものは存在して居るからである。其の公論否な世界の輿論は正義と一致するものであつて、世界を支配する力を持つて居るからである。進め大膽に進め、徒に各國の鼻息を窺はず、正義の信念は自ら平和を提下げて世界の舞臺に進まなければならない。

新時代の覺悟

外人の日本觀

九　外人の日本評

外人の日本評は必ずしも同一ではないが、佛人ポール・リシャル氏の如く稀に我國を賞讃する者もないではないけれども、多くは我國家社會を觀た彼等外人に依つて難點惡評せられて居る事實を觀過してはならない。日本人の外國より歸り來れば、彼等の文明を謳歌するに反し、歐米人の我に來れば、彼等社交上より幾多の美的讃辭は並べ立てられるけれども、一度彼等歸國すれば、忽ち日本の社會を嘲罵攻擊する排日派と一變することを忘れてはならない。單にそれは彼等西洋白人のみではない。隣邦同人種の支那や朝鮮も同樣であるとすれば、確かに其處に何か或原因はなくてはならない。此等の間に根據なき排日や惡感情は決して起る理由はないからである。

然らば彼等の排日的惡感情の原因を何處に覓むるかと謂へば、予は开を我社會的或欠陷に之を認めなければならない。兎に角彼等歐米人の我文明の未だ幼稚なることを等しく觀て居るは事實で、英國の少年や學生は未だ我國を文明國として觀て居らぬと云ふことすら、吾々は往々耳にして居るのであるが、此等より察するも、今日の世界に於ける我國の地位は決して一部の人の思惟する如く自負する迄に進むで居らない事は疑ふ餘地もないことである。今日世界五大國の一となり、東洋の盟主と云ふ地位に立つては居る。けれども、

外人の我社會に對する冷評

是等は果して實質的に彼等文明國と比肩する迄に其内容は充實して居るとは信ずることは出來ない。今日彼等の我帝國に對する最も大なる呪の聲は、此軍國主義より始まつて居る。次ぎに社會的公德の缺けて居ること、商人の不誠意なること、警官跋扈の國家として眺めて居ること、佩劍せる我が警官は、人民を保護せむよりも、奈何にして罪人を見出さんかに熱狂して居ると彼等は傍觀して居る。そこで彼等は我國家をして師團と監獄の所謂銃と劍とを以て武裝したる國家と結論して居るのではないか。而して何等其處に自由と平等の無き社會は、此等の劍と銃との拔扈に依つて支配せられて居ると、恁く大體に於て觀察して居るのである。

兎に角、歐米に比し我國に於て最も缺乏せるものは公德心なきことである。殊に商業道德に於て一層其の缺陷を曝露するものである。此等は社會を觀た彼等外人をして苦笑顰蹙せしめ、遂に反感や排日を嵩せしむるに至るのであつて、單に彼等外人のみでなく我國の識者も等しく之を觀て居るものであつて、我國民として最も恥づべき大なる瑕瑾であると謂はなければならない。此等は責任觀念の缺乏、家族主義的偏見、道德心の薄弱、社交の拙劣より來るものであつて、依つて國民は此等の缺點惡弊を自覺し國家社會より是等の缺陷を驅逐するにあらずんば、我國家より彼等外人より受くる排日其他惡感情を除去し、將來大國民として世界に重きを爲すことは到底出來ないのである。同一人種でありながら支那人や朝鮮人の動ともすれは、彼等歐米人により多く親近して、我國民を疎んずるの傾向あるは、矢張り是等の國民的一大缺陷の然らしむる處で、國家の發展に大なる禍を釀すものである。

人間は社會的動物である

性惡的社會觀

十　社會奉仕と人類の本能

アリストートルは人間は社會的動物であると謂つて居る如く、人間の社會的生活は是れ人間の本能であつて、又自然的要求より起つた必然的結果である。人間は此の社會生活に入つて、初めて其生存を完うし、人間本來の慾望目的を達せしむることは出來るのである。然れども人間の此の共同共存を目的とする社會に於ては、其處によりよき成果を得る爲に、適當の奉仕と犧牲は當然起らなければならない。若し人間自然の慾望とか絶對の自由なるものあるとするならば、或は开は此人間の社會生活に於て得られないものであるかも知れない。けれども人間は此社會生活に於て、其生存の目的を達し、個性の價値を發揮することは出來るものであるとするならば、此の社會生活に於て人間は失ふよりも、得ることの更に大なるは誰人も疑ふことの出來ないものである。彼の性惡的又は極端な個人主義的立場よりソフイスト、ホッブス、ニイチェ等の考察した社會觀の如く、人間は單に私利私慾を念とするものであつて、人間の社會を構成するは實利的讓和に過ぎないものとす

るならば、彼様な人間の社會は唯だ法律と云ふ閑燥無味な一片の空文に依つて僅かに其慾望を制馭して居る野獸の集團と見做さなければならないので、其社會は此等個人の利害によつて、何時でも解散されなければならないのであるが、予は實際彼様な人類の社會生活を認むることは出來ないのである。

プラトーとアリストートルの社會觀

プラトーの全體は部分に先ち部分が全體に屬する場合にのみ存在するものであると云ふ國家至上主義は、必ずしも今日の民主々義と一致するものではないが、アリストートルは人間は社會生活に於てのみ其至高善を發揮することは出來るもので、人間は本來自足自全のものにあらずして、他と協力して始めて生活の保障を得る政治的動物であると謂つて居る。予は若し彼のソフイスト一團の考へた様に、社會は唯だ個人の私利私慾を目的とせる單なる集團であるならば、其處に人類特有の友愛とか親交とか云ふ精神的情的方面をば奈何に此を觀るのであるか、予は人間の社會的生活は單に物質的需要のみならず、精神的にも情的にも要求するものであつて、人類は到底個人のみにては其處に滿足も幸福も得られべきものでない。此社會的團體生活に於て始めて人間の性能を發揮し慾望を滿足せしむることは出來るのである。此が即彼のアリストートルの謂ふ人間は社會的動物なりとせる所以で、人間の自然の本能であると予は惟ふのである。ロビンソン・クルソーの無人島に於て、孤獨の生活に堪へ得ずして、彼の鸚鵡と親みしが如きは、人間の社會生活に入る其本

個人と社會

能なのである。

そこで人間の此の社會生活を完うするには、共同協力の必要は當然起つて來る。犧牲奉仕の精神、正義、人道、博愛、公德も其處に必然的に起つて來なければならない問題である。プラトーの觀察する如く、社會なき個人は在り得ないので、社會があつて始めて個人が存在すること、なるので、此の社會と個人は決して分離して考へることは出來ないのである。茲に人類の社會的動物たる所以は在るのである。故に人類の社會生活は相互扶助に依つて現はれなければならない。各個人は團體意識なくして生活をすることは出來ないのである。自分の生存は他人が在つて始めて其處に在るので、他人なき社會なき單純なる個人は實際其處にないのである。故に人間の社會生活は共同連帶の相互奉仕に於て現はれなければならない。衆と共に生き衆と共に樂むは實に人間の社會生活を爲す上に缺く可らざる條件である。人間の慾望は唯だ一直線に向つて進むで居る。けれども社會は常に圓を爲して居るのである。故に此人間の慾望は此社會のパラボラに這入て調和されなければならない。唯だ人間の自然慾とか制限なき慾望は、此社會を意識せざる單純なる個人に於てのみ想像し得られるものである。けれども彼様な生活は人類は出來ないのである。故に人間の社會的生活は、自已は萬人と生きて居ることを意識し、社會と云ふ共同團體の一員であると云ふことを自覺するにあらずんば、其處に人間の社會的動物たる意義はないのである。

而して人間の社會生活は自己の生存を完うする爲めには、我を折り、他人と和し、他人と生きると云ふことは、其の必要條件であつて、彼樣な社會に於て始めて人間の生存を完うすることは出來るのである。公德人道なき社會は、利己的野獸の集團に過ぎないのであるから、彼樣な社會は到底永續することは出來ないのである。であるから人間の社會生活を爲すには、各人悉く其の生存を完うする共同協力の行はるゝ相互扶助を以てせる社會奉仕を其の精神としなければならないのである。

十一　人格主義の社會へ

閥と社會

社會閥の害毒

封建思想の遺物は今日未だ我社會の凡ての場所に殘骸を留めて居る。藩閥あり、門閥あり、官僚閥あり、軍閥あり、學閥あり、財閥あり、地方閥あり、男子閥あり而して是等閥の中に亦閥ありて、殆んど社會は此閥の餘りに多きに苦しまなければならないとは、全く現在表現せられて居る我社會の眞相でなければならない。而して此等の閥に依つて、奈何に我國家社會は其健全悠暢なる發達が阻害せられ、各人の人格は社會に表現せられて居らないかを知らなければならない。健全なる優秀なる國家社會は人格主義に依つて、各人の意思や目的は充分に社會國家に徹底するものでなければならない。之を社會に實現せしむる唯一の方法は即自由平等の上に立つて、機會均等、門戸開放を社會に行はなければならない。各人の意思や能力は完全に社會に具表し體現されて、始めて眞の國家の繁榮社會の發達を期することは出來るのである。然るに我社會の現狀を之を觀るに國家の樞機は單り元老藩閥の掌中の能くする處であり、現在の政治家とか代議士は資本家階級の上に立つた資本家擁護であり、眞に國民の代辯者擁護者たる人、今日彼等の中に幾人あらうか。何故に彼の軍閥は我國家の最高政府となつて、國家の最大樞機を握つて居るのであるか。是れ鎌倉幕府以來の武士萬能主義の餘弊を今日も尙持續して居るもので、日清、日露の武功は一層此處に彼等をして、國家の樞機を握らしむるに至つたのである。

軍閥の頑執

學閥の餘弊

學閥は何故に或社會を獨占して、萬人の機會の自由を阻害して居るのであるか、大學教授と博士と官吏は何故に大學出身にのみ其優越な權利を與へて、其他の偉材や天才を我國は社會的に葬むつて居るのであるか。蓋し我國の此等閥族以外に、人物を出すことの出來ないのは、其處に種々の理由はあるであらうけれども、要するに我國民性の缺陷より來て居るもので、家族的排他的狹量な精神より來て居ることは確實である。我が社會は眞の人材とか人物を拔摘選擇するには餘りに雅量と聰明は缺けて居る。是れ我社會の歐米文明國に比し優秀となり得ない何よりの證據である。予は何等學校教育を受けたる者にあらず、ウエルスの教會は予をして今日の如き偉大ならしめたと豪語する現英國の大宰相ロイド・ジョージ氏や、一印刷職工より身を起して、今日亞米利加の新大統領に當選したハー

藝術界の閥的弊害

デイング氏の如き人物の出現は、今日の如き偏見と狹量な思想を以て支配されて居る所謂閥的社會に於ては、容易に期待することは困難である。此等の機會の自由は單に學閥や官僚閥にのみに依つて妨げられて居る憚りでない。最も自由に其の妙技と天才を發揮して些の僞善を容さない藝術界に迄是等幾多の情弊や偏見は現はれて、眞の天才や無閥の人を失望させて居る。文部省の美術院なるものは是れ我國の美術奬勵を目的として創建せられたものである。隱れたる藝術家や天才を社會に紹介するは、即ち此美術院展覽會の其の存立の意義と目的でなければならない。然るに其作品技工を鑑査撰擇すべき審査員の情實的不當偏見は、幾多の有爲の青年畫家をして空しく致命的失望を與へ、此の藝術家唯一の登龍門に對して、徒に忿怨の場所たらしめて居るのではないか。勿論是等悉く審査員の審査採擇の不當不忠實のみを責むる譯には行かないかも知れないけれども、其の弊害の在るところは到底之を蔽ふことは出來ないのである。

言論界と閥族的思想

而して社會國家の文化的指導者として最も權威ある言論機關に於ても、我國に於ては同樣の缺陷と弱點を持つて居る。言論の其眞の價値は謂ふ迄もなく大學敎授なると、高等官なると、肩書あると、洋書を讀む人なるとに限るものでない。實に其の卓見と聰明とに其言論の眞の價値と權威を措くもので、社會を指導し人類を敎養する其の眞理の闡明に其の絕對價値を有するものなれば、其言論は奈何なる人より出づるも社會は之を大に尊重しなければならない。謂ふ迄もなく國民政治又は民衆政治は實に言論に依つて指導せらるゝ、即ち輿論政治である。即ちアリストートルの少數より多數の優れりとする、各個人の聰明は悉く社會國家に具體化する處に、其輿論政治の價値と意義がある。然るに此等輿論の發表機關たる我が新聞雜誌は、極めて少數の人の代辯機關となつて居る。いかに價値なき平凡なる言論や思思であつても、それは空名と魅力の何物かを有するものであるならば、彼等操觚界は喜んで筆者の爭奪に餘念がない。而して其の言論と思想と平凡なる低級なる社會の讀書子に盲從的歡迎は行はれて居る。而して又他面新奇を迎ふる幼稚なる讀書子の趣味性を刺戟するに唯だ是れ迎合する賣名の徒か又は新思想家とか云ふ人々に依つて、我が今日の言論界や輿論機關は獨占せられて居るので、眞の國民の聰明や輿論は現はれて居らない。主義ある言論や權威ある思想の此等我が言論機關を通して見ることは殆んど不可能である。であるから我言論界は痿痺沈滯何等清新澄澈たる思想は現はれないのである。是れ我が社會に是等言論に對する用意周到の機關はないからで、又嚴密なる意味に於ての言論なり思想の批判がない。縱令あつたとしてもそれは姑息な不健實な薄弱なものであるから新人や天才や無名の異材は我社會に現はるゝことは非常に困難である。凡て情實利害偏見に陷入つて居るのであるから、生氣潑溂たるものは其處に現はれないのである。彼等言論界は口に筆に是等閥族を攻擊嘲罵しながら、已れが不知不識に其の閥族に這入り是等閥族

閥族思想の損失

を作りつゝあるのである。而して此の閥族は社會に於て、國家に於て、學校に於て、官廳に於て、會社に於て、凡ての場所に於て悉く是等情弊の下に機會の自由は妨げられて居る。唯だ此等の門戸は個人として人格者としてゞなく、閥族として、我味方として喜んで開かれて居るのである。

此等全く我國民的一大弱點であつて、家族主義私情的偏見より來る情弊で、島國的狹量なる思想より發するものであらねばならない。之が爲に個人の自由な發展と國家社會の進歩發展が著しく防害停滯せられて居るのである。些々たる是等眼前の小利小慾の爲めに、人類の最大の幸福の利益は忘却放棄せられて居るのである。今や此の島國根性を脱して世界的に其眼界を轉換し、人類として世界と共に凡てを考へ凡てを爲す時に於て、若し此の私情的方法に依つて、内外の諸事に當るならば、必ずや其の政策は拙劣失敗と不幸を招くは當然の結果である。我の外人に對する社交の拙劣も、又外交の失敗も、要するに此の民族的小域のみに逡巡跼蹐拘泥して居るからである。家族としてゞなく、血族としてゞなく、人間として人類として主張し接觸する場合には、其處に何等の支障掣肘するものがあつてはならない。此人格主義は謂ふ迄もなく個人の自由な發展を主張するものである。而して一切の閥族的情弊を排して、社會國家は其個人の爲に平等の機會と自由を與へ、萬人悉く其志を得せしむる樣にならない限りは、勿論到底眞に國家を強大ならしむることは出來ないのである。些々たる私情私利に囚はれて事を決するは是れ小人又は小國民の爲す可きことである。大國民たらんとする者、宜しく襟度を開いて高處に着眼し、社會に自由平等の精神の體現に努めなければならない。將來の我國家國民は此の現在社會に執着せる因襲的封建思想、予は之を偏見狹隘なる閥族根性と呼ぶ――即ち此等幾多の閥族を討滅して、機會均等、自由平等の社會の實現に努力しなければならない。而して人格主義に基いて各個人の自由な發達と、各人の天賦の能力を伸展せしめ、個人の意思を國家社會に徹底せしめなければならないのである。

雇傭關係の人格化

更に予は此處に附言しなければならないことは、我社會に於ける非人格的偏重的觀念は資本と知識を過重し勞働（筋肉、精神）を輕視する結果、彼等の社會的待遇地位に非常なる差異逕庭を生じて居ると云ふことである。是れ我國の官廳となく、會社となく、凡ての是等社會の雇傭關係の行はれて居る場所に於ては到る處見受けらるゝ事柄であつて、單に我國は勞働者のみでない、知識階級に於て職を求むる者は凡て掠奪者たる境遇に措かれてある空名的知識による登用は行はれて居るかも知れないけれども、人格的登用は行はれて居らない。從來我國に於ては此等の諸官廳會社に於て、人を傭入れ使用する場合に於て、決して其人の生活を保障する人格的何等の報酬を條件として居らない。而して勞働者などに對しては、今日未だに奴隷的見地より、最少限度の生活費をも與へて居らないと云ふ珍現

象を社會に露現して居る。此等は全く我國民の封建的階級思想と知識過重主義より來たる病的偏見缺點であつて、此の結果は直に彼等の其仕事の成績に現はれ、横着となり無責任となるのであつて、西洋諸國の商品其他に於て着實精巧なるに反し、我國に於て製作せられし商品の粗製濫造となる、決して怪むに足らないのである。此等人間を以て一種の商品又は奴隷とせる病的階級觀念より來るものであつて、此等の根本觀念を放棄して人格化の社會に改造せられざる限りは、到底我國家をして現在よりも優秀ならしめ、世界に其雄を競ふものたらしむることは出來ないのである。國家は實に各個人國民銘々の其能力職業の協力に俟つて始めて、進歩發達を期するのであるから、ナポレオンを偉大ならしめたるは決して彼れ一人の功績でない。彼の下に幾多のナポレオンが居つたからである。今日の國家は若し政治家や學者ばかりであるならば、直に破産しなければならない。官廳は局長や課長にのみ負ふものでない、實に彼等の事務の中心は判任官や雇員に在るのである。故に予は各職業を尊ぶ人格主義の社會の實現を此處に熱望して止まないのである。

十二　模倣より創造の社會へ

西洋文化の模倣

德川幕府の大政奉還となつてから、僅々五十年間にして、我國の文化は奈何に長足の進歩を爲したかは、彼等外人の等しく驚歎するところを以て知ることは出來るのである。明治維新以前の我社會と、大正の今日の文明とを比較したならば、實に其處には雲泥の差がなければならない。武士と二本刀の横行した時代には、百姓や町人は唯だ平伏と屈從より他に途は無かつた。實に此武士萬能の封建時代には、其處には何等の自信のない自覺のない、唯だ權威と因襲とに忠實、從順、暗愚、無能時代であつた。故に此時代に於ては全く個性とか人格とか云ふものは虐げられて居つたので、國民には勿論自由平等の觀念などは、露ほども味ふことは出來なかつた。依然として國家、社會、家族の全部は、威力と屈從を以て內容を爲して居つたのである。實に此封建時代は未だ野蠻時代の蠻風を脱ぎ去ることは出來なかつたのである。然るにそれが王政維新となり、全く此處に舊時代の面目を一新し、西洋文化の輸入となり、自由平等の思想、個人主義的思潮は、急劇に我國民の模倣性を刺戟して、國家社會の制度は、皆彼等の文化の吸收模倣となつて現れ、全く過去と絶緣したる新文化に向つて進み、此處に西洋思想の崇拜は灣然として我日本の全土を風靡するに至つたのである。

我國文化の實質

偖て我國の文化は、實に建國二千五百年の歴史を以て、今日の如き文明を造り上げたのであるが、其最初支那より、亦印度より其文化を移植し、而して現代の文化は實に明治維新後僅々五十年にして西洋の文化を移入模倣して成つたものである。故に今日の我國の文化は西洋の其れの如く、長い間に練磨試錬せられた文化でもなければ、又鬪爭と犧牲と

東西文明

に依つて得たる文化でもない。謂はゞ長期間に渡りて苦辛慘憺の結果得たる、其他家の文化を極て短期間に難なく、移入し模倣したものと觀るのは至當であると謂はなければならない。過去五十年間に於ける我國の文化は、實に以上述べた如く、其質の良否の奈何や、冷靜な批判的態度を以て歐米の文化を攝取したと云ふよりも、寧ろ一氣呵成に彼等の文化を渇仰讃美し之を移植模倣したものと云ふのは、穩當な見方であると思はなければならない。其文化は歩一歩と進むで來た自覺的文化でないから、堅壘鐵壁の上に俯瞰する底の自信勇氣は甚だ乏しいのである。故に一の原本國は滅ぶれば、忽ちにして國民思想は動搖轉變し、他に其原本國を探さなければならないと云ふ奇現象を生じなければならないことになつて、始終國民思想の中心を動搖させなければならないことになる。兎に角我其文化の內容品質は彼等の如く漸進的に鍛錬された堅固なものでないから、未だ其粗製濫造の弊を脫することは出來ないのである。室で咲いた花の觀は呈するけれども、自然の日光に浴びて悠々發育せる其生氣は甚だ乏しい觀がある。故に其形骸は何んとか彼等の文明と肩較追從して行くことは出來るかも知れないけれども、其實質內容は未だ彼等に大に學ばなければならないのである。西洋の文明に對して、殊更に東洋の文明を誇張する人はある。然らば其文明を奈何なる處に概念を措くのであるか、勿論、嘗つてルーズベルトも謂つた如く、西洋の文明に對して東洋にも特種の文明又は何物かを持つて居る。けれども科學文明に對

西洋文明の內觀

して精神文明を云々するは、是れ唯だ一の漠然たる誇張でなければ、色眼鏡を以て觀たる一の反射ではないか。果してそれは直感か、宗教か、哲學か、思想か、將た道德か、人情か、此等の何づれかに其精神文明を覓めなければなるまい。トロヤは奏樂の間に建てられたと云ふけれども、文明は一朝一夕に築き上げられるものでない。釋尊の教理には深邃幽玄、其神秘の永遠に盡きないものはあるであらう、けれども基督には天飛ぶ鳥、野に咲ける百合花に、其神秘を探ぐる鍵に、今其優劣を決定することは出來ないであらう。我等東洋に孔子あり、孟子あり、朱子あり、陽明あり、吐甫あり、白樂天あり、林羅山あり、中江藤樹あり、山鹿素行あり、日蓮あり、親鸞あり、近松あり、馬琴あるけれども、彼等西洋にはソクラテスあり、プラトトーあり、アリストートルあり、スピノーザあり、カントあり、ヘーゲルあり、シエクスピーヤあり、ゲーテあり、バイロンあり、ミルトンあり、シルレルあり、ラハエルあり、コローありて、此等の諸星は史上に燦然として輝いて居るのではないか。而して彼等は自然を歌ひ、人生を語り、眞理を闡明し、宇宙を究めて居るではないか。けれども英國經驗派哲學の首唱者ベーコンの磁石、印刷等の發見を先驅として、歐米は漸く科學の勃興となり、遂に科學萬能の狀態に進むだのであるが、決して精神文明のないのではないが、精神文明は彼の科學に吸收せられ凌駕せられなければならなくなつたのである。實に從來專制的權威を振ふて居つた精神文明は、此科學の爲に降伏しなければならな

東洋文明の内觀

かつたのである。實に現代の文明は古代や中世に觀るやうな精神文明の一元でなく、精神と科學との二元に觀る處に其文明の眞相は現はれなければならない。而して今日の世界の文明は實に此處に基調を置いて進むで居る。而して我國の明治維新後の文明は實に西洋文明の輸入模倣であつた。政治、科學、藝術等何づれか彼等に範を取らないものはあらうか。西洋の科學文明は勿論東洋の未だ及ぶ處でない。これこそ彼等の全模倣といつても、決して過言でないのである。然らば今日我國に現示して其文明の內容に於て、其一半たる科學文明を除いたならば、彼等に優る奈何なる文明は實在して居るのであるか。若し予をして之を謂はしむれば、漠然たる感情の表現せる其濛朧たるものでなければならない。然らば此濛朧たるもの丶其所在眞蹄は果して何んであるか、公德心や商業道德の極めて缺乏せる處を以て觀れば、未だ道德心の彼等に及ばないことを知らなければならない。而して慈善事業に於ても公共事業に於ても今日米國や英國に到底比類すべくもない。若し此朦朧たる者勿論科學にあらず、道德にあらずとしたならば、それの眞締は果して何を觀念すれば宜しいのであるか、宗敎か人情か、結局するところ、我國民性の自然の發露たる感情又は一種の人情美を賞するより他に捕捉するものはないではないか。兎に角今日我社會の文明の基調に從ふには內に幾多の矛盾と缺陷を有する處より觀るも、亦若し此人類の文明は同一目標同一理想に向つて進むで行くものであるとするならば、彼等歐米の文明より七八十

世界文明の基調

模倣の價値

西洋人の創見

年乃至百年は後れて居ると思はなければならない。然しながら勿論此の百年と稱するは國民全般を標準にしたので、現在に於ても識者の中には歐米人に劣らない總明な人や先覺者も決してないではない。然しながら彼樣な人は極めて少數であると斷言しなければならないのである。

模倣といへば一概に蔑視し去る傾向はあるけれども、此模倣性は創造性と等しく人類の文明生活を營むに最も大切な缺く可らざる性能の一であるから、決して吾々は此模倣性を輕視するものはではない。寧ろ此模倣性の最も多量に有る國民は、大いに發展進步する特性を持つて居る。實に社會國家は此模倣性があるが故に向上發達して居るのである。けれども此模倣性に依つてのみ造り上げたる文明は、決して健全なる完全なる國家社會でないのである。唯だ一時的間に合せ急進的文明を造るには宜しいかも知れない。けれども、永遠的な規律ある鞏固な文明を造るには、是非創造性に依つて築上げなければならないのである。歐米人はよく曰ふ。日本や支那は唯だ模倣のみをすると、ギゾーは彼の文明史に於て、文明の發源地はフランスであると謂つて居るが、世界の專制國家に巨彈を投じて近代文明の基を開いたルソーも、今日立憲政治の端を開いた三權分立の提唱者モンテスキユーも、是れ佛蘭西產なのである。それから生物進化の理法を發明して、近世科學の發達に偉大なる貢獻を與へたるは、英國のダーウインである。蒸汽力を發明して近代產業の發達と

科學文明の偉大なる功績を與へたるは彼のワットである。それから近代の最も文明機關たる蒸汽船と汽車は彼のワルトンとスチブンソンに依つて發明された。次ぎに電信電話はモールスやベルに依つて發明せられたではないか。此等擧げ來れば殆んど最限がないのであるが、實に今日の文明は彼等歐米人に依つて貢献せられて居るのである。けれども之を東洋に否我國に於て觀るならば、遺憾ながら甚だ心細い感じがするのである。一として彼等世界の文明に先驅して居るのはないではないか。彼等の文明にこそ浴して居るけれども、人類の文明を積極的に創始し指導したものは殆んどない。實に文明は世界とか人類とか云ふ境界に立つて初めて意義を持つて居る。家族とか個人とかに在るのではない。是等から考へて見ても我國の世界人類に對する貢献は、彼等歐米人より觀るならば、極めて微弱幼稚なることを感知しなければならない。此等は物質的科學的方面より考へたのであるが、精神的方面より觀ても同樣の心細さを感せずには居られない。我國には哲學者とか宗教家は在る。けれども此等人々は唯だ東洋や西洋の其學理的體系や古典を能く忠實に集蒐研究すると云ふ丈の學徒學究者ではないか。今日の一人のベルグソンやオイケンは現はれて居らない。カントとかショーペンハウエルの如き傑物も出ない。實に平凡な學者のみである。光は東方よりと云ふものゝ、今日は遂に西方より來て居るのではないか。今日我國の文化の內容はと謂ふならば、政治、軍事、學制其他一切の文明機關は殆んと全部は西洋を模倣したものであつて、我國より獨創的に生まれたものは殆んど皆無であると謂はなければならない。實に今日迄は唯此の模倣のみをして來たと結論しなければならないのである。

內容の充實と創造へ

西洋の文化を模倣して此處に五十年、兎に角それは未だ不完全なものであるかも知れない。けれども其文明的資材は悉く輸入模倣せられてあると謂つても過言でない。故に今日は其內容の充實と完成を圖らなければならない時に進むである。或は支那印度に或は西洋に、過去に於て得たる其豐富なる資材を、我國家と國民性を以て之を咀嚼玩味し、新文化を創造しなければならないのである。過去の我文明は支那にあらずんば西洋であつたが、今日は將に太平洋上に毅然として輝く、其華麗優美なる國土より、其優秀なる國民性より、新らしい政治家、學者、藝術家、詩人は生まれなければならない。過去の因襲に浸つて居る政治家や、飜譯のみを能とする學者や、思想なき藝術家では駄目である。眞面目な世界的政治家は出現しなければならない。我國の政界には民衆の爲めに一大努力した未だ一人のグラットストンもロイド●ジョージ氏も現はれて居らないではないか。藝術界に一人のコロー、ミレー、セザンヌの如き獨創的天材は又出現して居らないではないか。ナチラリズムとかロマンチシズムとか唯だ其情調時流を追ふ文藝家は澤山居る。けれども、彼のミゼラブルを書いたヴイクトリ●ユーゴーとか、人形の家を書いたイブセンとか、トルストイとかゴルキーは居らないではないか。而して他方に馬琴や近松は忘れられつゝあるので

國民哲學の必要

ある。吾々は常に帝展に於て觀る如く、今や日本在來の藝術すら、其特色を漸次去つて歐化しつゝある。何處に我國民の藝術は生れて居るのであるか。何處に我國民の生活を語る藝術は表現せられて居るのであるか、我に常住不動の生活はないのではない、唯だ其生活は以前の爲に右顧左眄しつゝあつた。

此等は決して唯だ過去の因襲と模倣に泥溺して居つた社會は、因循姑息痿痺沈滯せるものでなくてはならない。其處に眞の永遠性なり個性と云ふものは發揮されて居らなかつた。實に今日は此因襲思想より去つて、新らしい天地に向つて、新らしい文化を創造しなければならない時機である。而して政治家、學者、藝術家に獨創的人物の出現を要求しなければならない。覺醒されたる國家となり、自覺された國民となつて、世界の爲め人類の爲め此文明の爲めに貢献しなければならないのは、今後の我國家國民の使命目的でなければならない。文明は常に哲學に依つて支配されて居る。國家は哲學に依つて造られて居る。けれども、我國家には此哲學はない、藝術はない、獨創はない、創造はない。哲學のなき國民は眞に文明を創造する能力はない。我國民性は全く此哲學的要素に一大缺陷があつた。是れ模倣性はあつたけれども創造性に於て缺けて居つたからである。之が模倣となり、因襲となるのは當然の途である。今後の我國民は此處に一轉して、其模倣より獨創の天地に入り、新文化と新國家を創造し建設しなければならない。而して東洋の新文明國として否な世界の文明國として、世界を指導し人類を救導する大國民とならなければならない。時維れ當に國民の一大自覺を要する秋であると謂はなければならないのである。

過去の社會

ブルジョアの爲め

第七章　我國の教育の改造

一　デモクラシイより觀たる民衆教育の意義

民衆國家の建設は今や滔々たる時代の要求となり大勢となつた。デモクラシイは民衆を基調としての政治である。我過去の社會は少數階級の爲めの社會であつた。即ち貴族又はブルジョアの爲めに便利な社會であつて、無產階級又はプロレタリヤには其機會の自由なき社會であつた。けれども今日の國家社會は國民全體を觀念する處に新自覺はなくてはならない。少數階級を基礎とせる社會制度は、少數階級擁護の爲めの社會であつて、其處に階級を拵くり、閥を生ずることになるのである。此等は民衆を基礎とせる、萬民の幸福を規準とせるデモクラシイの社會とは相容れない時代錯誤のものであると謂はなければならない。

民衆政治の提唱と共に最も重要なるものとして必然的に起つて來るのは民衆教育の急務である。從來の社會萬般の制度は、階級意識に據るものであつたが、今日は民衆を基調と

の教育制度

我教育制度と社會

して建てられなければならない。民衆を基調としての社會制度は即ち社會の民衆化でなければならない。教育は是れ本來社會的のものであるから、階級的獨占的教育制度は、是れアリストクラシイと同樣の弊害と缺陷を其内容とせるもので、甚だ不合理なるものである。然るに我國の從來の教育制度は何處に立つて居つたかといへば、ブルジョア時代の教育制度であつて、ブルジョアの爲めの教育であつたのである。我が教育は高等に進めば進む程階級的貴族的となつた。而して一方に授業料を高くし、種々の制限を設けてプロレタリヤ又は無産階級の教育を拒むで居つた。而して此等の教育は唯だブルジョア階級の爲めの獨占物に過ぎなかつたのである。之と同時に社會には機會の自由と、門戸開放は事實上行はれて居らなかつた。實に社會は資本家階級に單り提供せられて、一般民衆は實際活動する其範圍極めて狹められて居つたのである。其處で予は從來の教育制度はブルジョア階級に於てのみ有意義であり正當なものであつたかも知れないけれども、民衆を基調とせる將來の國家には、それは妥當でないのみでなく、是等は國家社會の發達進歩をも阻害するものである。そこで予は將來の國家觀念よりして、既成制度の教育主義は早晩改造せられ、民衆教育實現の爲めの或設備と用意が考慮されなければならないと惟ふ。從來の教育制度の缺陷と、偏狹を補塡擴張する爲めに、此處に新時代に基調せる民衆教育の使命目的は在ると惟ふのである。

民衆教育の意義

以前は資本家本位の爲めの制限教育であつたが、將來は國民本位の教育に其注意を擴張しなければならない。凡ての人に出來るだけ同一の教育の機會を得せしめ、或は他の方法に據つて民衆知識の開發向上を圖ると云ふことに、民衆教育の意義はなくてはならない。そこで從來の教育の改造又は擴張は、總ての舊社會の因襲制度の改造と相俟つて始めて有効なるものとなることは出來るのである。先づ此等新教育主義を徹底せしむるには、從來ブルジョアに隷屬せる勞働者は彼等より完全に解放せられ、彼等は社會より人格的地位を確保した場合でなければならない。從來の如く最低限度の勞銀と過重の時間を以て束縛せられて居る間は、勿論予の所謂民衆教育を社會に徹底せしむることは不可能である。けれども戰後の世界は國際勞働會議となり、漸次資本家より彼等の解放となり、隷屬的地位より人格化に進むで來て居るので、勞銀、時間、年齢等此處に正義人道より精細に吟味考慮せらるゝ樣になり、我國に於ても當時産業的地位其他の關係より、這回は彼等歐米文明國と同一の勞働條件を以て、彼等と相對することは出來なかつたけれども、早晩此等勞働者は資本家より解放せられて、其文明の惠與に浴するに至るは一點の疑ひのなきところである。そこで從來社會の考慮より驅逐されて居つた此等勞働者も一般國民と等しく人類の凡ての文化機關に與る平等の機會と權利を與へ、藝術に於て又は教育に於て其他の娯樂に於ても同樣の機會と自由を獲得しなければならないのである。而して彼等の地位人格を向上

發展せしむることは、當に現代の最も要求するものであつて、之が即ち予をして民衆教育を提唱せしむるに至らしめた所因である。

二　天才教育制度の樹立

希臘教育思想

スパルタの教育制度は現在の露西亞のボルシエヴヰキイの教育制度に近似して居る。けれども此等の國家主義又は社會主義の立場よりの萬人同型の教育主義は個人を尊重し、個性を發展せしむる人格的教育でないから、個人を機械視した專制主義の國家には必要であるかも知れないけれども、今日の國民文化に相應しきものではない。現代の文明は謂ふ迄もなく個人主義を基礎として進むで來て居るものであつて、人格の完成、個性の充實と云ふことは其必須要件でなければならない。個人主義的教育の特徴は個人の充分なる解放と個性の完全なる發達に資するに他ならない。即ち各人の天賦の資材能力を充分發展せしめて、國家社會は勿論、世界人類の文明に貢献すると云ふところに其の使命なり目的はあると謂はなければならない。ルネッサンス以後の近代文明は實に此の個人の自覺に端を發して居る。古代希臘の教育は個人の自由解放、個性の發展と云ふことを以て教育の主眼として居つた。我れを知ると云ふことは彼等の人生に對するモットーであつた。ソクラテスの謂へる如く、各人の義務は一に自覺自認に在るとは當時の希臘人の一般の觀念であつた。

官僚主義教育

道德方面に於ても人格を基礎とする觀念に到達し、各人合理的性質に依つて、其の目的に達する概念を作つた。而して人各々其性の向ふ處に從つて、人生の事業に從事すべきが天然の本分であつて、科學、藝術、宗教、哲學等は皆な此の目的に對する手段なりとした。實に古代希臘のアテネは我を知り我を完うしたところに、彼等の人類に於ける文化の誇りはあつたである。故に當時の希臘には政治、文藝等油然として發達し、此の獨特の一境地ユートピアには、天才や偉傑は綺羅星の如く顯はれたのである。即ち政治に於てはセミストクルスやペリクルスの如き偉大なる政治家を出し、哲學者にはソクラテス、プラトー、アリストートルの如き天才を生み、又藝術家としてフイヂアス、ミロン、パーセノンの如き、又科學者としてはヘロドタス、セウクリデスの如き人々を出して、近代文明の基礎を開いたではないか。

彼のモンロー博士は希臘教育の個人的自由發展に對して東洋教育は個人を抑壓し、過去を再現し、保存するものであると指摘して居るが、確かに東洋の教育は一般に此點に於て缺陷があると吾々も信ずるのである。官僚主義の國家は教育制度に於ても官僚化さなければ止まなかつた。何事も文部省の一構内に於て定めた其の典型の中に容らなければ、それは自然廢滅の厄運に遇はなければならないのである。故に實際は私學の教育の使命目的は官學の缺點を補充するところになければならない筈のものであるけれども、我國の私學は

私學の官

其の高等に進めば進む程、擴張すればする程、自然官學化して來て、其當初の私學の特徴は全く消滅して來る傾向がある。是れ國民の官僚崇拜より來る因襲惰性に基く一大病根缺點である。故に私學は實際に於て劃一主義の官學より、一層特徴のある異材人物を出すべき筈である。けれども、此の官僚主義を追從する結果は却つて人物を凡化せしめ、矢張り官學と同樣の實味のない同型の人を作るのである。尙ほ言換れば之が一面の眞理として官學よりも、其成績の上から一段低い人間を作り出すと云ふ論理に歸着するのである。何んとなれば、現在のところ官學に入學する者は、私學より成績優秀なる者が行くと云ふことになるからである。けれども勿論此の見解は決して妥當なものではない。之は平面的大體の解釋であつて、實際明細に考察する時には彼樣に簡單に評定決定され得べきものでないことは勿論である。其人の境遇や人格に種々の關係差別ある以上、唯だ入學試驗の通過云々の みを以て尊き人間の能力の優秀奈何を決することの不可能なることは謂ふまでもないのである。現在でも天才兒とか變物とか云ふ者は、割合に正規の官學よりも、自由な私學の畑にあることは事實である。現在の規則立つた學校よりも、昔時の寺小屋時代に案外偉丈夫や天才は現はれてゐる。而して是等の案外人より厄介視せられ居る人間こそは、却つて實際に於て偉大なる能力の所有者となり、社會の原動力となつて居ることは東西古今珍らしくない事實である。兎も角我が文部省の操縱による。私學の官僚化は或意味に於ても確かに

官僚化と官學の民衆化

劃一主義教育の弊

個性教育

見られるので、之に反し寧ろ其官學の民主化たる或傾向も見られない譯でもない。予は近頃帝國大學は時勢に餘儀なくせられたのかも知れないが、其の教授（勿論少壯の人）も學生も餘程デモクラシイになつて來たことは觀察するに難くない事實となつた。兎も角私學の官僚化は益々人物を凡化すると云ふことを覺悟しなければならない。之と反對に官學の私學化は割合に時代と環境に適應した人物を作るかも知れない。けれども眞のデモクラシイは是等の學校に於ては期待することは出來ないのである。

それは兎も角、我が私學は官學を學び、官學化せるを以て、私學の成功とするのであるから、我國に於ては官私共皆な劃一主義、形式的の教育となるので、而してそれがブルジョアに立脚した教育制度のみを持つて居ると云ふことになるのである。其處に獨創的な人材を拵るところの即ち個人主義的見地に立つた、個人又は個性の教育と云ふやうなことは、我が現在の此等教育社會に於ては觀ることは出來ないのである。我國の此の劃一主義の教育は素と是れ獨逸の教育制度を模倣したもので、萬人全一の型に作る凡人教育なのである。故に此の凡人教育主義には、此の天才とか異材と云ふ者は、學校教育によつて却つて凡化するか、又は學校教育を受くる機會を失ふかの何れかとなる。何んとなれば此等天才は全く常人と律せられない、或る異常な能力を持つて居る代り、他に其れに代る或缺點もあるからである。アリストートルは狂氣の分子なき天才は大なるものにあらずといひ、ポープ

の要

文明の原動力としての天才

は大なる機智と狂氣は近接すといへる如く、是等天才は古來常人の企て及ばざることを爲し、又常人と全く異つたる生活をして居るものである。故に此等天才は俗人より、狂者とか變質性とかジョーペンハウエルの過剩の畸形とかと云ふやうな辭句を以て迎へられて居るのであるが。けれども人生の文明は實に此の狂者と變質性の力に與ること最も大なることを知らなければならない。天才は實に此の文明の原動力となると云ふことを知るならば、奈何に其の天才は國家社會の爲に偉大なる力を持つて居るかと云ふことを考へなければならない。ニウトンにせよ、ワツトにせよ、ルソーにせよ、ナポレオンにせよ、彼等は實に常人と異なれる非凡な能力を持つて居た一個の天才兒であつた。若し之を更に近松に見、馬琴に見、左甚五郎に見るも、彼等は實に注入的近代の學校教育よりも獨創に依つて、自然的教育に依つて未知の世界より何物かを發見創作し、或深遠なる眞理を此の社會に齎したもので、實に近代の國家、文明は如何に彼等の貢献に與つて居るかを知らなければならない。ロイド・ジョージ氏の子は何等大學の教育を受けしものにあらず、ウエルスの非國教派の教會は予をして恁く偉大ならしめたと。いへるもアブラハム・リンコルンは實に聖書とイソップ物語より持たない一の貧兒であつた。けれども彼は一度亞米利加の大統領となるや、彼の政治的天才は奈何に彼をして偉大ならしめたか、予は此等の人物を我國に於て覓むるならば、德川家康や豐臣秀吉の如きも、全く常人の及ばざる超凡な能力を有する天才型の人である。實に社會は是等の人々によつて最も多くの事を爲されて居る。孔子は生れて知る者は上なり、學んで之を知る者は次なり、困んで之を學ぶ者は又其次ぎなりと謂ふて居る。實に天才は學ばずして宇宙の眞理を洞觀して居るのである。然らば我が現在の社會は果して是等天才を迎へるに周到なる用意と準備が出來て居るのであらうか。予は歐米の比較的獨創的な天才の多きに反し、我國の概して此等天才の現れざるは、一は其の國民性の然らしむるところであるかも知れないけれども、他は社會の之に對する用意と選擇のなき爲め縱し彼等天才の偶々生まるゝも、それが自然埋沒されるのではなからうかと惟ふのである。

天才の出現せざる原因

露西亞の自由大學

そこで予は勿論一般の通則に依る劃一主義の教育も是認するものであるが、之と例外に此處に是等教育當局者の大に反省熟考をして貰ひたいことは、學校は一方に大に開放主義を執り、年齢とか其他の制限を出來るだけ撤廢して、其の人間に依る個性中心の教育主義を樹立したら奈うであるかと云ふことである。露西亞には自由大學と云ふものはあつて、滿十六歳に達すれば何の制限なしに、男女の區別なく、其の希望者には隨意に聽講を許すと云ふことであるが、此等の制度は割合に、社會に優秀なる有用な人間を出す者であると吾々は惟ふのである。何んとなれば此處に集まる者は比較的眞に學問を奉ずる眞理を愛する人々であるからである。而して境遇の如何に拘はらず、廣く社會より種々の人が集まる便利が

亞米利加の教育制度

ある。即ち奈何なる人も機會の自由を得て其深遠な哲學なり思想に觸れて、其天賦の異材を發揮することは出來るからである。此等は人材教育と云ふ上から見ても、劃一主義の教育より割合に都合は宜しいのである。而して此の自由大學には貧弱なる人に對しては聽講料の免除制度は行はれて居るので、最も解放的民主的であるから、如何なる階級の人、低い勞働者でも又婦人でも隨意に其の高尚な學理を聽講する便利はあるから、廣く社會より天才とか人物を集むる都合が宜いのである。此の無月謝制度の學校は歐米の學校にはよくあるので、亞米利加の如きも州立大學は大部分無月謝で、貧民の子供に對しては國費又は地方費と云ふやうなものに依つて教育せられて居るのである。而して此の大學の教職の任に當る人々は種々の社會の名士、學者、評論家を廣く朝野に求めて、其の時代の要求に滿足せしむる方法を執つて居るのであるから、人を教育する上に最も其の妙を得たるものと謂はなければならない。彼樣な制度は確かに一面社會の不遇な人や天才や一般公衆を教育する上に、又民衆文化の時代に最も有効な方法であること茲に疑ひを容れないのである。現文部大臣は專門學校の擴張を誇るけれども此等は單なる擴張で、現代の要求する改造でも革新でもない。現時代の文相たる者は宜しく在來の狹隘なる範圍内に於てのみ考慮せず、時代に目覺め其の眼界を廣く一般國民の上に置き、民衆を如何に教育すべきかと云ふことに其の着眼を延ばして貰はねばならない。

我が帝國大學

我が帝國大學は全く官僚タップリの大學である。彼等は其教育も國家主義の上に立つて、全く思想の自由と學問の獨立が無いやうに見える。恁くては到底偉大なる權威ある獨創的の學者を創造することは出來ないのである。何等清新なき生氣のなき古き頭の西洋模倣の講義や印度支那の古典的教材は十年一日の如く繰返されて居るのではないか、恁くして我國家より新しい思想なり獨創は生れるのであらうか。予を以て謂はしむれば、我が大學は知識の發源地でなく、知識の受賣所仲介者であると惟ふ。獨創の思想や知識は先づ現在のところでは我が社會や大學より生まれないのであらう。嘗つて大隈侯は演說して曰く、我が大學(早稻田)の圖書館より洋書を取り除いたなら、大學教授は講義は出來なくなるのであらうと。彼等教授に一冷罵を浴びせかけたことがあるが、之と同樣に這般の世界戰爭に於て、一度我國の獨逸と交戰狀態に入るや、大學教授連の蒼皇として、思想の涸渴呼ばはりをした如きを見ても、奈何に其の腑甲斐なき意氣地なき我が學界に、其一驚を喫せざるを得ないのである。西洋思想といへば理も非も考慮する遑もなく盲從渴仰する、我國の學者に何處に牢固として不動の見地に立つた思想の獨創を覓むることは出來るか。而して官僚主義の大學は博士や教授の任命に於ても、全く學者的良心を離れ、情實と學閥を以て是れ常事として居る是等我國の官僚學者の惡弊の極まれる者としなければならない。而して新進の學者や民間の學者は奈何に造詣の在る優秀な能力の所有者であつても、此等の情實によつて、登龍門は堅く鎖ざされて

學閥の弊

私學の使命

天才教育制度の提唱

居るではないか。我國は到る所に官僚思想や封建時代の遺物思想は殘存して、國家社會の自由なる進歩發展は阻害されて居ること甚しいものである。政界には元老あり、軍閥あり、官僚閥ありて、事實民意を代表せる政黨政治は徹底して居らない。デモクラシイの思想は今や我が社會の偶々に浸み渡りて、挑戰の矛を向けて居るけれども、凡ての社會に此の民主々義を徹底せしむるは未だ容易の業でないのである。私學の動ともすれば官僚化の傾向はあるので、事實に於て凡化主義になつて居る。予は私學は宜しく其の本領と、學問の目的を貫徹せしむる爲に、出來るだけ機會の自由、門戸開放主義を執り、可成情實や形式を脱して、民間の學者を採擇し、國民の顯才を作り聰明を開發することに努めなければならない。

そこで予は天才主義の教育を提唱するのであるが、是れ即ち個性と天質に理解同情ある教育に他ならないのである。アングロサクソンやラテン民族は天才的國民なるに反し、我國民は割合に獨創と天才に缺けて居るから、終始模倣を以て他の文化を我に移せば、我國民の天職は足れりとするならばそれ迄だが、けれども今後我國家は世界的に目覺めなければならない。積極的に世界の文化を指導しなければならない使命と義務を持つて居る。社會は此の天才に對して依然として常に不注意であり、冷淡であるならば、一層天才は埋沒凡化して了ふことになる。英吉利や亞米利加に於ては、二十歳前後に於て堂々たる政治家

カールヴッテの教育法

となり、或は大學教授となり、博士となつて居るものは珍らしくない。彼の英國の政治家ピットやグラットストンは實に二十四五の青年であつたが、一國の宰相として其の大任を果したことは誰しも知つて居ることである。此處に天才に附隨して齡閥の打破は當然起るのである。學閥と齡閥は奈何に我が學界又は社會を生氣なく、清新なく、沈滯せる空氣に措くかは此處に贅言する要はないのである。此處に此の天才教育に就いての驚くべき實例はあるから、今これを概記することにする。獨逸のカールヴッテは自分の子供に天才教育を施した一人で、彼は常に子供の教育は知識の曙光と共に始まるものと信じて居つた。之が實行として自分の子供を九歳で大學に入れ、十二歳で卒業せしめたが、此の子供は十四歳で數學の論文を提出して、哲學博士となり、十六歳で伯林大學の教授に任ぜられ、直ちに伊太利留學を命ぜられて、ダンテの神曲の誤解されて居た事を發見し、ダンテ研究の隨一者と稱へられたので、歸國後は法學の教授として、八十歳迄も働いたと云ふやうな人物を作り上げたと云ふことである。此等の天才を米國の有力なハーバート大學に於てもよく出して居る。或人は十歳で大學に入り、十四歳で卒業し、十八歳で哲學博士の學位を得、大學の教授となつて學界に貢献して居ると云ふ人もある。此等全く自發的な個性教育の賜物であつて、人物經濟、社會の利益と云ふ上より見ても、三十前後に於て漸く學校を出づる、劃一主義教育の企て及ぶところでない。天才とか偉傑とか云ふ者は常人凡庸とは全然趣きを異にし

て居るから、恁かる逸品に對しては社會は常に用意周到の注意を拂ひ、社會は之を優遇して其の文明の原動力たらしめなければならない。其の天賦の神才怪腕を發揮せしむる義務があるのである。現代は餘りに學校教育にのみ中毒して居る。餘りに形式にのみ流れて居る。餘りに虛榮にのみ走つて居る。それが社會に對する目的や眞に大切な知識の欲求よりも、形式的方面を慕ふ結果は、先年來各專門學校の其自家の天職使命を忘れて、教授も學生も唯だ大學と云ふ一字に熱狂して昇格に夢中となつて居る。此等大學出身の官吏なり高官の案外非常識で、時として戰慄するやうな犯罪者の起るのも滿更怪むに足らないので、亦之を奇とする人々は今日の教育制度の缺陷を知らない者の罪に歸さなければならない。

三　民衆教育の提唱

教育界の覺醒

近時我國も時の進歩は遲ればせながらも、我が帝國大學も開放主義の立場から公開講義とか、科外講義とかを設けて正規の學生以外に廣く公衆教育に任じて居る。それから民間に於ても處々に自由講座とか、夏期大學とか云ふやうなものは識者によつて提唱せられて、其の知識の一般民衆化に努めて居ると云ふことは、社會公共の爲めに最も有益なることであつて、時代の一大進歩と謂はなければならない。在來知識を以て大學の獨占の如く見、

大學の任務

門戸閉鎖主義を以て學問の尊嚴を保つが如く思惟した弊があるけれども、此等は官僚思想の餘弊で、恁くの如きは知識は大學の爲めの知識で、社會民衆の爲めの大學でない。然しながら眞理は宜しく廣く社會に開放して、一般民衆の知識を開發するを以て目的としなければならない。眞理や知識は狹い大學の教室にのみ討究せらるゝ時代でない。一般民衆の蒙を啓き、彼等を指導するは實に大學と、大學教授の任務でなければならない。彼等の日々討究せる知識や研究は、一般公衆に提供して彼等を指導し、國家社會の文化を向上發展せしむるところに、實に其の使命なり目的はあるのである。ヴヰッテンベルヒに於けるルーテルの如く、其の僧侶の腐敗墮落の絶頂に達した時、法王レオ十世の赦罪券販賣に對して、九十五個條の抗議を以て、自ら宗教改革に任じたる如きそれである。人民の選擧に依つて代表せられたる政治家には一々皆な聰明な人ばかりでない。割合に時代の推移に對して盲目であるかも知れない、或は彼等には自ら改造する能力はないかも知れない。そこで此の缺點を予は學者や思想家に索むるのである。彼等の明敏と聰明なる學究と思索を宜しく廣く世上に公表して、社會の輿論を指導し喚起せしむる義務があると謂はなければならない。そこで民衆教育は一般民衆に出來るだけ多くの教育の機會と自由を與ふることに他ならない。それには各大學の講義の開放は勿論必要であるけれども、之のみにては充分滿足は出來ないのである。故に他方に一般公衆を目的とせる短期間の公開講義を處々に開いて、大學程

民衆教育と其の設備機關

度の各專門の學理を講義して一般民衆の知識を向上せしむると云ふことも確に其の一策である。亦之と同時に文化敎育の意味にて勞働敎育も其の最も必要とする所である。而して又是れ以外に都市は勿論のこと、各地方の村落に至るまで、自發的敎育主義の立場から、正規の敎育を受くる便宜を持たぬ人の爲めに、一般民衆の知識を開發せしむる爲に、各處偏境の村落に至るまで其知識の普及を目的とせる圖書館建設の必要を吾々は主張しなければならない。而して文化をして可成一極所即ち都會の占有物とせず、地方の奈何なる偏境にまで之を及ぼし、出來るだけ多くの民衆を敎育し、其聰明と天才を發揮せしむると云ふことは、現代デモクラシイの使命であつて、是れ民衆文化を實現せしむる所以であると予は信ずるのである。歐米では夙に此の圖書館敎育に最も留意して居るのであつて、殊に亞米利加の如きは此圖書館事業非常に發達し、今は何處の都市村落に於ても、巡廻圖書館や公開圖書館のない處はない程度にまで發達して居るのである。此等に種々の名著や新聞雜誌を備付けて、隨意に公衆の閲覽に供して居ると云ふのである。彼の有名な世界的富豪カーネギの如きは、此の圖書館建設に巨額の金を投じて居ると云ふことであるが、我國の富豪も此う云ふことに趣味を持つて、私有の享樂より公共的趣味に轉じて貰ひたいものである。彼の獨逸の社會民主々義の勞働組合の如きは、其組合の中に公開講義や巡廻文庫其他議會室とか娯樂藤關とか云ふものは完全に設けられて、彼等勞働者の知識趣味人格の向上發達に

官僚思想の惡弊

ラツセル氏の敎育觀

凡人と共に偉人を作れ

努めて居るのであるが、我國の勞働者間には此う云ふ文化的設備は一も其處に設けられて居らないのだから、勞働者の益々劣弱になつて行くのは決して無理のないことである。

門戸閉鎖主義を以て學問の尊嚴を保つが如く思惟した官僚主義の學校は學閥的となつて、種々の惡弊を社會に殘した。而して官立學校は入學試驗を嚴にして、放浪遊民の徒を多く作つた。是れ一面其の制度や社會の罪である。何事も官僚崇拜の思想は靑年をして官學に集中させなければ止まなかつた。併しながら此等は眞に學問を奉ずると云ふよりも、官學を出た者は私學を出た者より、社會は之を優待すると云ふ簡單なる先入主で彼等は官學を目指して走つて居つた。ラツセル氏は改造の原理の中にて現在學校の試驗制度を攻擊して此う云ふことを謂ふて居る。試驗制度と敎育が主として生計の爲に薫陶する者として取扱はれることで、此等は靑年を驅つて專ら實利的見地よりして知識を觀せしむるに至つた。智慧に達する門口としてゞなく、金錢を得るの道として學問を視るに至らしめたと謂つて居るが、實際我國の靑年學生にして、此の病弊に冒されない者が幾人あらうか。官僚萬能の社會は靑年にまで此の如く無氣力と意氣地なきものにして、自信と勇氣と敢爲の精神を薄弱ならしめて居るのである。昔より天才や偉傑と云ふ者は何處の國に於ても意外の處より顯はれて居る。彼等の多くは何等秩序立つた敎育を受けて居らないけれども、其の天質の美は奈何なる風浪にも傷つけられず、成長し實を結ぶのである。曲亭馬琴や近松門

左衛門の不朽の作は奈何に我文藝界を賑やかして居るかを知らなければならない。シエークスペヤ、フランクリン、リンコルンにせよ、現英國の首相たるロイド●ジョージ氏にせよ、亦現在亞米利加の大統領として其の候補を爭つたコックス氏にせよ、新大統領ハーディング氏にせよ、實に彼等は何等學校教育を受けた人々でない。然れども彼等の非凡なる天才と勤勉は實に彼等をして非凡なる能力を發揮せしめ、偉大なる人物たらしめたではないか、大木は人工的な箱庭や園丁の手に育ないと同じやうに、野生に於て陋しい卷に於て却つて偉大なる天質を發揮することは出來るのである。トルストイは嘗つて文明を罵つたのであるが、文明は益々人をして機械的に不自然たらしむることは確かである。此等の天才や偉傑は彼等の如き自由の天地に於て始めて發育するのであるが、我國の如き階級的官僚化した現在の社會や國家に於ては、此の種の人物を作り出すことは却々出來ないのである。けれども漸次社會の民主化は民衆教育の徹底に進むであらう。而してやがて一切の閥を排し、情實を去つて、機會平等主義は進むで此の教育社會に入つて其封建思想を改造するに相違ない。

四　階級的教育制度の廢止

女子教育の解放

デモクラシイの教育は自由平等に立則して、民衆を基調としての四民平等主義の教育である。然るに我現在の社會は封建的階級思想に據つて表現せられたる社會であるから、教育も自然其處に立脚した階級的教育制度でなければならない。先づ我國の家族制に於て見るも、女子は男子に隷屬せしむる地位にあつて、社會的にも何等人格的待遇を受けて居らない結果は、此の男女の性的區別は教育制度に於ても行はれ、從來學問の蘊奥を極むる大學は男子のみの獨占であつて、女子に對しては全く閉鎖主義の狀態にあつたが、近年我が大學も漸く時代に目覺め、性的に先づ門戸の開放は識者によつて呼ばれて來た。而して男子と同樣女子にも其の希望者に對しては同一の機會を與へるやうになつたのは、我が在來の東洋的僻見たる、女子を奴隷視した過去の社會より觀れば、偉大なる進歩と謂はなければならない。而して我國の女子もやがては歐米の婦人の如く、總ての社會に女子は殺到し發展して、職業上に於ても從來獨占たる男子の領域を侵し、而して今日英米に於て完全に成功したる、女子の參政權運動も起るに相違ない。けれども此等は在來の男子の偏重主義より來る一の杞憂恐怖で、此等は全く在來の我が資本家が勞働者の自覺發展を恐怖すると同樣の僻見且つ謬見であつて、封建主義時代の遺物思想の錯誤に過ぎない。秦の始皇帝の學者を危險視せるは、是れ暴君專制思想に對する國民の自覺を恐怖せる爲めである。一般民衆の進歩發展は即ち國家社會の進歩向上を意味するものであつて、彼等の天賦の性能を充分發展せしむるは、是れやがて人類の國家社會の文化に貢献せしむる所以であつて、又同時に人類の共同生存に對する共同の目的を達する道なのである。民衆國家は謂ふまでも

なく、四海平等を主義として成立するのであるから、此等民衆を基調とせる國家には、社會の制度や教育に於て或人爲的差別を設けてはならない。封建思想の藩閥の產むだ階級思想に基いて建てられたる貴族を看板とせる學習院の如きは、今日の世界の定着せる民衆國家の心理的考察を以てすれば、封建的遺物の幻影として全く時代錯誤のものと謂はなければならない。何となれば此等は同一の國家に對して二樣の國民を作ることになるからである。即ち此等二者互ひに相融合せざる階級的國民を作ることは平民の外に穢多を觀念すると同樣に國民文化の其精神に反して居るものである。而して斯の如く陛下の前に一切平等赤子であるべき同一國民の間に、貴族と平民を截然的に區別し、一は華族富豪の子弟の爲めと、他は一般平民としての二樣の教育機關を設けて、殊更に差別的階級教育を施し貴賤上下の區別を作るが如きは全く無意味なるもので時代錯誤と謂はなければならない　教育は其人の天質能力に對する人格上の差別教育ならば兎も角、社會の人爲的形式上に據る差別の教育は決して國民に善良なる結果を齎すものでないと同時に人間教育の趣旨に反して居るものである。プラトーの天賦の哲人や、孔子の生まれながらの良智穎才に對しては、凡俗教育は却つて彼等の天質を抂げ撓はむる恐れがあるかも知れない、けれども、華族の所謂華族教育は實に其教育の實質上の問題でなくして、其の社會の形式上に於ける階級教育であるから、斯は何等の効果價値あるものでない。却つて彼等の爲めに有害なるものと吾々は信ずるのである。予は寧ろ人間として國民として平等無差別の見地に立つて、彼等に平民教育を施すこそ、否な國民として平等の教育的機會を與ふることこそ、却つて彼等特種の階級をして善導せしめ、在來の國民の非難たる無能を有能ならしむる一因たることが出來ると吾々は信じて疑はないのである。況んや今や國民は明治維新の大改革たる四海平等の大精神に目覺めつゝあり、之と同時に世界の大勢たるデモクラシイの我が封建的社會制度に對して一大斧鉞を向けつゝある場合に於て、國民注意の焦點は長く我が社會の一偶に蟠居して、恰かも社會の廢物の如く見られつゝある此等世襲的富豪華族に對して、漸く國民の怨府とならんとしつゝあるに於て、國家は宜しく明治維新の大精神に基き、世界大勢に順應して、君主の前には一切の國民赤子となつて、相協力一致して、東洋の一大文化國として我皇國の發揚に努むるは是れ我國家の大正の一大使命であり目的でなければならない。我國家の教育も實に此處に其の精神を措いて國民文化の建設と共に民衆教育の徹底を確立しなければならないのである。

五　人格主義の教育

近時我國教育の頽廢に關して漸く社會の一部の識者によつて非難攻擊せられて居るのであるが、吾人も亦之を目擊するに苦しまないのである。是等勿論學理と云ふ方面ではな

く、人格とか德育とか云ふ方面に於てゞある。昔時の寺小屋時代に於てはタトヒそれは餘りに形式を重んじ人爲的なところあつたけれども、其處に確に德育とか禮儀とか云ふものは備つて居つた。けれどもそれが歐米の文明を輸入模倣するやうになつて、即ち精神的敎育よりも、物質的敎育に重きを措くやうになつたのである。歐米人はそれがタトヒ自然科學にせよ基督敎にせよ哲學にせよ、彼等は割合に人生に對する信仰心とか自信力があるけれども、昔時の我國民には勿論佛敎とか儒敎とか云ふものはあつて、我國民精神を作つて居つたものに相違ないけれども、それが多くは中心より國民の人格を作ると云もよりも、形式的禮儀の末節に拘泥して居つた嫌があつて、徹底した信念とか信仰は無かつたやうである。即ち全國民の精神を指導する統一に足る、所謂國民思想を作る信仰に於ける眞の目標はなかつた。それは武士道、儒敎、佛敎と云ふ樣なものは我國民思想を作つて居つたには相違ないけれども、兎に角二千年來我國は模倣を以て殆んど我國民の能事として來たことは事實である。恁くの如く眞に國民思想を統一する充分なる目標のない處に、科學萬能とも云ふべき歐米の新文明は我國民の模倣心を刺戟して、明治維新後の我敎育界の改造に向つて進むで來たのであるから、信念の薄弱なる外部の煽導に移り易き國民は唯だ是れ新を追ふて進むと云ふ或社會的傾向を帶びて來たのである。故に此の結果は學校の如きも自然唯理唯知のみを是れ事として、信仰德性と云ふ人格の方面は閑却する樣になつたのである。故に今日我が專門學校の學生や大學生の特別に或修養に志す者は別として、彼等の品性や趣味性の劣等になりて、書籍を少し讀むだけで勞働者と相距る決して遠くない。であるから最高學府を出で社會に於て相當の地位を有せる者にして亦案外背德行爲や慘虐を行ふ者の決して少くはないのは、實に此の精神的に靈的に缺乏した物質敎育の產むだもので、是等は實に近代敎育の其の缺陷の一端を偶々曝露せるものと謂はなければならない。予は是等より考察して見ても、我國民は未だ徹底した信念と自覺なく、輕舉浮動轉々して定まらざる或物を觀取せざるを得ない。是等勿論現在の學校敎育のみを責むべきでない、其一端の罪は社會之を負はなければならない。さりながら此の人格敎育は單に學校のみに於て行ふことは出來ない、社會と相俟つて初めて可能性を持つて居るものである。從來の學校に於ける倫理道德は一定不動の信仰の國民を作るには、決して完全なものでないのである。社會的禮儀作法素より必要であるが、更に進むで人間としての人格として信仰上に於て自覺された國民を拵くると云ふことは今日の緊急要件である。それには國民思想を統一する確固たる信念に基いて之を敎化指導するより途はない。之が即ち國家的宗敎又は哲學の必要な所以である。之が即ち單に學校敎育のみでなく、否な此の缺點不足を補充する意味に於ての國家敎育の國民的人格敎育なる所以である。恁くして初めて社會的に立派な人格あり信念ある自覺せる一個の人間國民を拵くることは出來るのである。偖て英國の大

學は最も人格教育と云ふことに重きを措き、大學生は紳士として全く耻ぢざる品性を備へて居るものであるが、我國は未だ彼等を紳士として敬意を措くには人格に於て或缺陷を持つて居る。故に最高學府たる大學は宜しく此處に留意し、單に知識に於て優秀のみならず、其人格に於て品性に於て亦優秀になるにあらずんば、決して彼等は誇るに足らないのである。故に予は從來の我教育主義を觀るに單に唯知主義のみに走りて、德性教育に或缺陷あるに對し、此處に人格主義の教育を提唱するものである。

第八章　普通選擧論

一　理論的根據

普通選擧と我が政黨

普通選擧は今日最早や識者に依つて論議盡されたる問題であつて、其可否を決する時代でない。其實施の時機奈何の問題に進むで居るのである。けれども今日未だ社會の一部に此普通選擧を以て、社會の秩序を攪亂する危險思想と同一の如く見做して居る人もないではない。而かもそれが大勢より觀るならば、今日は最早や孤疑逡巡せず斷然實施しなければならない時に至つて居るのであるけれども、遷延亦遷延而して曖昧糊塗の間に永久葬り去られんとする傾向も見られない譯でもない。第三十四議會も案に違はず憲政會、國民黨の普選案提議となつたけれども、議場に於て絶對多數を占むる政府與黨政友會の反對を受けて否決せられたるは、政友會の更に一歩自覺せざる間は、誰も奇とするものでなかつた。けれども政友會は何時迄も國家の輿論國民の要求を無視して、現制度の何等根據なき不徹底なる納税資格制度を維持するとも思惟することは出來ない。けれども我國の政治家の常習として、年と共に健忘性に冒さるゝ其弱點をも忘れてはならない。

階級政治より國民政治へ

さて此處に西洋諸國を觀るに往時未開の時代に於ては、國家は國王や少數貴族に依つて獨占又は支配されて居つたのであるが、此時代に於ては治者と被治者との間に儼然たる階級は拵くられて、所謂中世的權威と一種の神秘が、是等兩者の統治的内容を爲して居つたのであるが、此當然の結果として其處に國王の專横と貴族の吾儘は起つた。而して是等の少數の階級は國家に於て政治的社會的經濟的に或特權を作つて居つたけれども、其他の庶民階級は唯彼等に屈從しなければならない境遇に措かれたのである。然るに時代の進歩と人間の自覺は何時迄も神秘と權力を以て内容とせる、其專制主義と特權政治を許さなかつた。之が即ち宗教改革となり、ルネッサンスとなつて、人類の文明は中世と近世とに分れた。實に此近世の文明は中世の沒我より我の自覺に這入て來たので、それが更に進むで佛蘭西革命となつて、其後の人類の政治的自覺は、實に國家をしで君主や貴族の專有とせざる、國民悉く平等の權利と義務を有する國民政治の目標に進むで來たのである。即ち國民

貴族政治と階級闘爭

總意普遍我の上に樹てられたる國家觀念であつて、今日歐米の民主國、共和國は要するに中世期の專制と特權に反抗して起りたるホッブスやルソーの唱へたる社會契約說に大體其國家の根本基礎を措くものであると予は信ずるのである。從來社會の進化は政治的に之を觀るならば、大體三段階を通過して來て居る。即ち專制主義の時代より特權政治——貴族政治又は資本主義の政治——の時代を經て現代は實に是れ庶民政治、國民政治の時代である。少數の階級を基調としての政治でなく、國民全體を基調として觀念する處の國民政治の時代である。專制主義や貴族政治の時代には權力や威壓は跋扈したので、其處に絕えざる階級闘爭は行はれて居つた。例へば古代の希臘羅馬の貴族と平民の紛爭軋轢の如き、更に進むで近代となつても自由平等に依つて淨化せらざれる國家社會には、是等特權を有する者と此等を有せざる國民との間には其處に絕えざる階級闘爭は行はれて居る。然るに國民政治は所謂各國民の意思に據る政治であるから、專制主義や封建時代に於て觀る如く政治的特權や獨占はないことになるから、理論上に於て其處に是等の階級闘爭は行はれないことゝなるのである。故に人間の政治的理想は實に此の自由平等を原則とせる國民政治に依つて、此處に始めて政治の安定を得ることは出來るのである。而して此國民政治の理想は既に專制封建政治の終焉と共に始まつて居つたけれども、封建貴族の特權政治の後を繼承して、此處に再現したのは資本主義的特權政治であつた。故に是等の特權を徹廢

國民政治と普通選擧

して、政治を以て完全なる國民的基礎の上に置換せしむるは、實に今日の國民の逐行しなければならない義務であると予は信ずるのである。今日世界の立憲國に於て採用して居る、人民の選擧に據る代議政治は、是れ國民政治の一の方法手段として觀念することは出來る。而して此國民の意思を議會に徹底せしむるには、各自が國家の政治に參與する機會の自由を得なければならない。即ち各自が國家の政治を審議する代表者を選擧する權利を得なければならないことになる。若し其を社會的地位、階級に據つて之を制限するならば、それは矢張り階級政治であつて、國民に其の基礎を置く國民政治と云ふことは勿論出來ないのである。近代の國家觀念は國家其物に本來の目的あるのでない、君主貴族の占有物でもない、又ブルショアの所有物でもないのである。實に國民全體の國家である。國民總意の具體化として意識する國家でなければならない。是れ實に近代の國家思想たるデモクラシイの精神なのである。プラトーは其政治的理想を哲人政治を以てした。而して彼はデモクラシイを以て最惡なるものとした。けれども吾々はアリストートルの全體は部分に優るとする處に其眞理を探さなければならない。今日世界の國家にて最も繁榮して居のは實に此民主々義の國家である。貴族政治とか專制政治の國家は外面堅固な樣であつて、も、實際脆弱なものであることを、這般の歐洲戰爭は最もよく吾人に證據立てた。そこで予は此國民政治を完備せしむるには實に是れ國民の意思を代表せる議會政治であつて、其

議會をして眞に國民に立脚するものたらしむるには、其代表者を選擧する權利を各人は平等に獲得して各自の意思が議會に徹底しなければならない。それは各人皆投票權を有する是れ即ち普通選擧を必要とする所以で。國民政治の實を擧ぐるに必須缺く可らざるものであると予は信ずるのである。故に予は此の普通選擧なるものは現代の國家的觀念よりすれば、國民の政治的自覺又は國民の其の要求との奈何に拘らず、國家は當然之を國民に賦與しなければならないものである。何んとなれば國家は是れ少數階級の獨占でない、政治は其國民の意思を表示するもので、即ち國政に參與することは是れ國民の當然の權利たることを自覺しなければならないからである。況して今日少數より全體を以て優れりとせる信條を有せるデモクラシイの時代に於て、其確信を一層鞏固にするものである。若し之を財産に於て社會的地位に於て制限するならば、果して何處に其理論的根據を措くものであるか、勿論以上の國民政治の基礎に立つたる政治的平等主義は是れ其の純理より合理的見解を降せるものに過ぎないが、勿論政治は國家國民の爲に在るものなれば、政治の實際の得能を考慮せず、唯だ其理論にのみ拘泥するは迂遠の誹を免れないかも知れない。けれども若し是等の特權者をして國家の功勞者として又は有識者としてのみ觀念するならば、幷は甚しき誤斷と謂はなければならない。何んとなれば現在の如き不完全なる世襲制度の社會組織に於ては、有産富豪の徒遊惰逸樂に耽り、勤勉努力の人却つて轗軻不遇に居るの

特權政治の不當

奇現象あるを認めるからである。而して今日社會に於て財利を得る者多くは奸智僞善の徒であつて、仁者道人の案外貧窮に居るに於て一層其根據を發見することは出來ない。此の財産制度の選擧資格は英國ノルマン王は軍費を要する爲め地主の歡心を買ふ結果より基因して居るもので、其處に何等の理論的根據のあるものでない。故に各國今日之を廢せる素より當然と謂はなければならない。國家は謂ふ迄もなく凡ての階級各人の共同協力に俟つもので、知識、資本、勞働是等の有形無形を問はず、各自の貢獻勤勞に依るものであつて、直接國税のみに依據するものでないことは謂ふ迄もないのである。然らば之を倫理道德の上より、恒産なき者は恒心なしと云ふ理論に於て見んか、是れ人間の精神と慾望の性質を考へざる結果であつて、今日の詐僞不德漢の多くは下級社會よりも、案外富豪階級に在ることも決して否認し難き事實ではないか、故に是等より以て觀るも單に現在の財産地位の如きものに依つてのみ國家の功勞人間の價値を定むるの不合理不當なること茲に論ずる迄もないのである。而して更に若し之を政治的自覺と云ふ知識の方面に於て之を見るも、是れ一層不徹底なるものであつて、政治的自覺を單に社會の形式的方面に依據して定むるが如き素より其の拙劣不當論ずる迄もないのである。政治は實に是れ常識的天才的な處に於て、最も其妙機を發揮することは出來るものであつて、無學の一田夫と雖もよく政治を談ずる者あるかと思へば、高尚な大學教育を受けた者に於ても未だ其政治を理解せざる者在

常識の尊重

るに於て、是等の政治的自覺を單に形式的學校教育の上にて制限するが如き、其の無意味、且つ其生鵠を得ざる謂ふ迄もなく、若し之を一般國民の常識試驗を行はゞ兎も角、人間の天然の美妙な能力は是れ容易に外形に於て甄別され得べきものでないのである。故に予は此等の選擧權を財産や教育程度に於て定むるが如きは全く無意味其の當を得ざることを茲に指摘しなければならないのである。而して今日我國に於て行はれて居る直接國稅三圓制度の如きは是等何れにも屬せざるものであつて、今日國民中多數有識無産者にして、是等の選擧圈外に措かれて居ると云ふことは、最も吾人の不審奇怪としなければならないことである。恁くの如き矛盾不公平を觀過すると云ふことは却つて社會に害毒を流すものであるといはなければならないのである。故に今日の普通選擧に對する理論的根據は立憲政治の理想的たる國民政治の完備を期するに在つて、國民の意思を國家の政治に具體化する最善の方法は、國民各人は出來る限り其國政に參與する機會を得て、始めて其憲政の美果其の使命目的を達することは出來るものであると惟ふのである。而して又是れ今日國民の當然の權利であると謂はなければならないのである。國家の事は凡て平等を原則として行はなければならない。其處に階級的觀念に依つて偏重的權利義務を國民に亂用强要してはならない。國民政治の美果は實に此の普通選擧制度實施に於て始めて豫期することは出來るのである。況して今日は國民政治の自覺の時代に於て、之を封建時代の階級思想を以て、

國家と平等權

國家の爲めに同一の義務と責任を果して居る者に對して、産の有無、教育の程度に依つて制限的差別的待遇を爲すが如きは、是れ封建時代の階級と權力の思想より未だ脫せざる人の謬想である。予は、プラトーの哲人政治主義は、古代希臘のアテネとか、スパルタの如き社會主義的都市政治ならば兎も角、今日の如き復雜多岐なる大國家組織に於ては、容易に行はれ得べきものでない。而して又國民多數の代表主義の政治を行つたとて、それは必ずしも此の賢人政治と矛盾するものでないと惟ふ。何んとなれば米國の如き普通選擧制の國家に於て、常に最も優秀なる人は其大統領となり又代議士となるからである。我國の現在の如く金力以外に人物に考慮せざる、而して其當選の唯一の條件を其運動費の多寡に措くが如きは、是れ現在の資格選擧を以て、普通選擧制に依るよりも善良なる結果を齎すものであると强辯し得ることは出來るのであらうか、普通選擧制を行つたとて多くの人の杞憂するが如き、今日以上に劣惡なる代表者を選出するが如きは全く適確なる想像として吾人を歸服せしむることは出來ない。何んとなれば優秀なる者は常に優秀なることを得るので、寧ろ今日の如き選擧界の賄賂と買收の行はれて居る積弊は此普通選擧を以てのみ其の幾分を廓清せしむることは出來ると予は確信するものである。

哲人政治と必ずしも矛盾せず

二　歐米諸國と普通選擧

歐米文明國に於て、現在此普通選擧を實施して居らない國は一もない。實に此普通選擧を今日疑問の裡に措かれて居る國は、世界より白人を除く東洋の有色人種にのみ取殘されて居ると云ふ奇現象を目擊しなければならない。そこで予は此普通選擧實施の急務を言及する前に、此處に各國の普通選擧實施の沿革を概略述べて見やう。

佛國　佛國は一八四八年二月革命後帝制を倒壞して、再び共和制を宣言して後直に普通選擧を實施したのである。

獨逸　獨逸は其翌年一八四九年に多年社會民主黨の主張に依る普通選擧をビスマルク之が必要を認め、遂に之を實施したので、這回歐洲戰爭後帝制は革命せられて共和制となるに及び更に大規模の選擧擴張は行はれたのである。即ち今日の獨逸の有權者の多いこと世界第一で、其有權者男子二千百萬人、女子千八百萬人の多數になつて居る。之を人口に割當るならば、人口百人中五十五人何分が投票權を有つて居るので、今日は女子の議員をも多數選出して居ると云ふ狀態である。

米國　米國も建國當時は財産又は納稅に據つて、多少の制限を設けたこと、他國と其例を一にして居るのであるが、十九世紀後半より各州何れも此普通選擧制を採用して居るのである。而して米國に於ける此普通選擧制に就ては、各州多少の差異を有するものであるけれども、大體に於て滿二十歲以上の米國公民たる男子にして、

米國と婦人の參政權

一年以上其州に、六個月又は三個月以上其郡に、三十日以上其選擧區に居住する者には、狂人又は犯罪者等を除いては悉く選擧人名簿に登錄せらるゝ權利を有するものとせられて居るのである。而して米國に於ては此參政權を男子のみならず、夙くより婦人に迄其權利を與へて居るので、實に此の婦人參政權運動となつて現はれたのは、一八四八年頃に既に顯著なものとなつて居つたのである。それが法律上公認せられるやうになつたのは、一八九〇年ワイ●オミング州を初めとし、其後之に倣つて諸州に涉り續々行はれたのであるが、一九一六年に於て共和黨、民主黨の二大政黨が一致共鳴して、黨議として之に贊成を宣言した時までは、未だ各州悉く婦人に參政權を與へて居らなかつたけれども、一九二〇年に至り米國聯邦四十八州中の三十六州議會は、愈々婦人參政權に關する憲法修正決議案を可決したので、之にて各州即ち全米國の婦人は男子と同じく、大統領選擧を初めし、州政、郡政、市政に至るまで、國政に參與する權利を獲得することゝなつたので、從來婦人に敬意を置く北米合衆國としては當然のことであるかも知れないが、是れ實に時代の趨勢と謂ふべきである。實に是等婦人參政權運動に目醒ましい働きをして、今日其の功績者として永久に全米國婦人をして崇敬の的たらしむるものはアンソニー孃、アンナ●ショウ女史を指さなければならない。即ち今回議會の批准を得たる聯邦憲法第九條は、一八七一年スサン●ビー●アンソニ孃の起草に係りたるものであつて、一九一九年に下院は八十九票に對する三百四

世界各國と普選の狀況

票の多數を以て通過し、上院に於てそれは二十五票に對する五十六票の多數を以て可決したものであつて、ウイスコンシンを筆頭として三十六州の批准を經て、今日全米國は婦人參政權に於て完全に成功したと云ふことは、實に是れ奈何に米國は自由平等の精神に燃えつゝあるかと云ふことを證據立てるものである。

今日となつては英吉利、墺太利、白耳義、西班牙、葡萄牙、瑞西、丁抹、瑞典、諾威、希臘、墨山國、勃牙利、羅馬尼、伊太利等是等諸國は悉く普通選擧制を採用して居るもので、現在制限選擧制を行つて居る國家は、僅かに匈牙利、和蘭、塞爾比亞、日本、支那、印度、暹羅等の今日世界の文明より後れたる弱小國のみにて、奈何に我國は世界の一等國を以て、誇り東洋の文化國を以て任ずるも、世界文明の圈外に在つて、此等未開の國家と相倍して居ると云ふことは、果して今日の我國家の境遇に鑑みて遺憾なきを得ないのであらうか。而して是等世界の文明より後れたる制限選擧國も、今日悉く此普通選擧實施の準備をして居るのである。我國に於ては何事も英國に例を取る一の僻習があるが、此の選擧制度に於ても舊思想の所有者は、殊更に英國に例を取つて漸進主義を主張する人も少くないのであるが、然しながら是等は果して英國の社會狀態を熟知せる結果であらうか、大に疑ひなきを得ないのである。勿論英國には我國の學ぶべき長所美點は澤山ある。けれども英國の社會制度や行動は悉く善良なものばかりとは云ふことは出來ない。現在幾多の改造すべき因

英國自由黨の政綱と普通選擧

襲的制度や弊害も決して少い譯でもない。然しながら英國は米佛獨より觀るならば、保守的色調を多量に有する國家たることは疑ひはない。政治的天才を以て誇る英國は何故に米佛獨の文明國より後れて普通選擧を實施したかといへば、其處には幾多の情實の纏綿せるを窺知することは出來るので、それには保守的な國民性の然らしむる一端もあるけれども、決して英國の一般識者は普通選擧に不賛成なるが爲めではない。是等は全く種々の政治的社會的事情に緣由して居つたが爲めである。其の證據は英國の政黨中最も新人物と名士を頂く、アスクイス氏とかロイド●ジョージ氏チャーチル氏等の統率する自由黨の政綱を一見せば、直ちに領解の出來ることである。此の自由黨の選擧法改正案意見を此處に概示するならば、現行選擧法は議會をして純然たる國民の代表機關たらしむる點に於て不完全なる箇所少からざるを以て、之に改正を加へ、重復投票を廢止して一人一票の主義を確立し、財產の有無に關せず、一定の地方に特定期間住居したる者には總て選擧資格を與へ、貴族に對しても下院議員選擧資格を認め、大學特別選擧區たる特權を剝奪し以て選擧人の資格を擴大し、國民の多數をして可成國政に參與する機會を多からしむることに努むること、是れ自由黨の多年議會に於て奮戰して、今日夫れ以上に完全に勝利を獲得したる選擧法改正案なのである。改正以前の選擧法たりとて決して我國の如き資產階級擁護の如きやうな不徹底なものでなかつたけれども、自由黨の指彈する如く、保守的階級的のものであつて、

英國選擧擴張の沿革

國民政治を完備せしむる上に缺陷の在つたことは窮知するに苦しまないのである。此の民主的な自由黨の主義政綱の當時行はれなかつたと云ふのは、保守黨の議會に於て優勢なりし結果にして、最近まで統一黨の優勢なるに見て、其の主義の實施せざる其所因とするに足るべきものである。英國の選擧權擴張の由來を今此處に概說するならば、

第一次選擧擴張は一八三七年に行はれたので、從來の選擧法は甚だ不完全極まるものであつて、全國の選擧區は殆んど華族や大地主の所有物同樣の如くであつて、彼等の思ふが儘に選擧は自由にせられて居つたのである。此の當時に於ては一選擧區に於て、選擧長、候補者、選擧人を唯だ一人で兼ねたと云ふ極端な例もあつたので、或は亦華族富豪が選擧區の事實上の持主なるが故に、投票の賣買は白晝公々然と行はれ、それが新聞に迄廣告して一選擧區の權利の賣買は行はれたと云ふ程までに、腐敗墮落の絕頂に達したので、漸く之が社會の非難となり、此處に第一回の選擧法改正案は時の議會に提出せられることゝなつたのであるが其が衆議院にて唯一票の差にて當時否決せられたのである。政府は止む無く議會を解散し、總選擧の結果改正案贊成者多數を得て、首尾能く下院を通過せしも、依然として選擧權の所持者たる貴族たる上院は吾儘橫暴を働き、特權擁護に汲々たりし爲め、一時內閣の總辭職の餘儀なきに至りしも、頑冥固陋の貴族も遂に我を折り、遂に其の改正案は通過を見るに至つたのである。當時の有權者五十萬人なりしが、此時の改正案五十萬の增加に依つて、實に是れ人口二十四人に對する一人の割合を以てせる、百萬の有權者を有することゝなつたのである。

第二次擴張の行はれたのは一八六七年ヂスレリー內閣の時代であつて、當時の改正案は既成制度の外に都會の勞働者に選擧權を與ふると云ふ趣意の下に、新有權者百萬人を加へて有權者總數二百萬人となり、人口十二人に對する有權者一人の割合となつたのである。

第三次擴張は一八八四年グラットストン內閣時代であつて、當時も此の改正案に對して保守的な貴族院の反對を受けたのであるが、ヴイクトリア女王の斡旋となり、遂に其の改正案は通過したのであるが、此の時有權者總數五百萬に增加し、人口七人に對し有權者一人の割合にて、此時既に普通選擧に近き改正案を施したのである。

第四次大擴張は歐洲戰亂後時勢の急轉直下した一九一八年であつて、アスクイス內閣當時の選擧法改正案で、それが今回ロイド・ジョージ內閣に於て認定するところとなり、兩院を通過し、一九一八年の總選擧に於て既に實施せらるゝに至つたのである。右の改正案に就いて奈何に英國の貴族は、是等特權維持に腐心しつゝあつたかを知ることが出來るが、之が自然上院の權利の削除となつた一の原因で、而して歐洲大動亂中、從來貴族や保守派より蔑視せられたる勞働者や婦人の其の一身を賭しての目覺しい活動振りに、今更の如く國家の爲めに侮り難きを知り、之と相俟つて、時勢は最早や是等特權階級の夢想せる封建思想を